

Passo a passo.

平成30年度 専修大学 資格課程年報『パッソアパッソ』

教 職 課 程  
司 書 課 程  
司書教諭課程  
学校司書課程  
学 芸 員 課 程

# 専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

## 社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、  
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力  
専修大学が創り育てる “知”

## 専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあつて、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「**社会知性 (Socio-Intelligence) の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



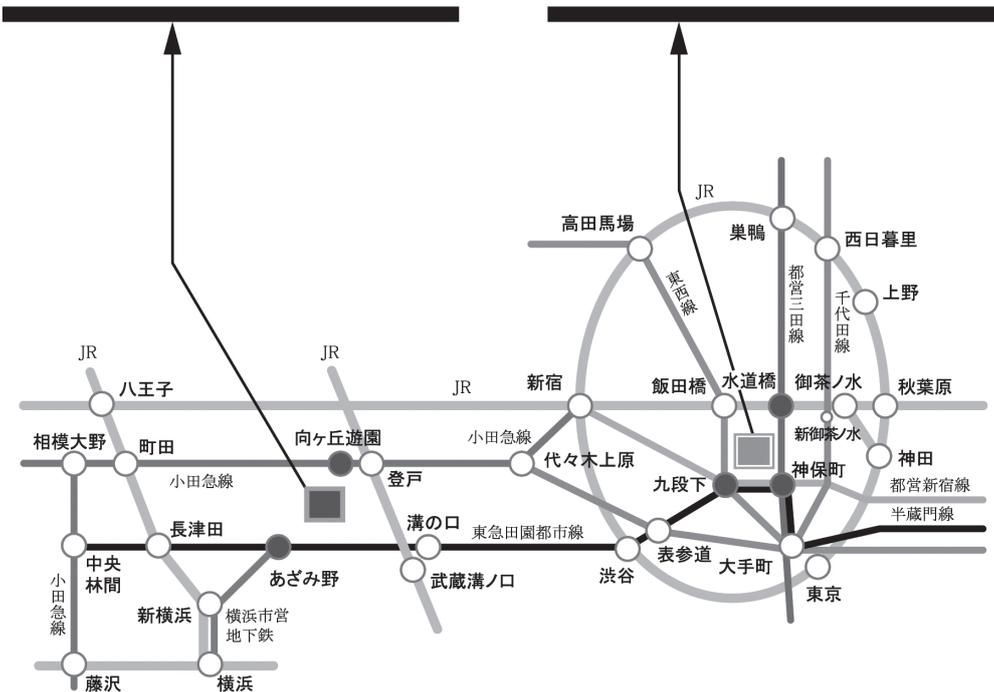
## 生田キャンパス

- 小田急線  
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）  
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄  
あざみ野駅よりバス約35分  
直通バス（学生専用）約20分



## 神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線  
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線  
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



# 歴史的な「教育」改革期に寄せて

教職課程協議会委員長 文学部 教授 高橋 龍夫

J-WAVE が開局 30 周年を迎えた 2018 年 10 月 1 日、FM ラジオは早朝から 24 時間連続の記念番組を 5 つのキーワードに基づいて放送しました。そのキーワードの 1 つ目は「教育」。これには驚きました。私は開局の翌年 4 月に高校教員となり、毎朝、若きジョン・カピラさんの DJ を聴きながら車で遠距離通勤をしていました。J-WAVE は開局当初からファッショナブルで都会的センス溢れる FM 局だったので、この日の記念番組のゲストが、物理を子どもたちに楽しく主体的に学んでもらう活動を紹介し、DJ とともに今後の「教育」の展望を生き生きと語っている様子に、「時代は変わったな」と思いました。日本の「教育」が重要な局面にあることを広く認識する時代が到来している一例ではないでしょうか。

「教育」という用語は、明治期に学制を導入する際の education の訳語として、中国古来からある英才を育てる「教育」という語を当てたことに始まります。中村正直は「教養」、西周は「学政」、大久保利通は「教化」、福沢諭吉は「発育」を主張し、結果的には学校制度に貢献した森有礼の主張する「教育」が訳語として落ち着いたそうです。ラテン語を語源とする education の原義が西欧近代では「内側にある能力を引き出す」ことだったため、江戸期まで流布していた「上から施されたことを下から習う」という日本の「教育」の語感に大きな変化をもたらしました。ですが、精神風土はそう簡単には変わらないのが歴史の現実で、明治維新から 150 年を経た現代において、文科省の提唱した「主体的・対話的で深い学びの実現」という新学習指導要領のもと、やっと education の原義が浸透してきたのではないかと思います。現代に要請されるのは、社会全体で「教育」とは何かということを主体的に考え、子どもの「内側にある能力を引き出す」局面を様々な場において実践していくことでしょう。J-WAVE のエピソードはそのことを改めて痛感させられる契機でした。

一方で「教育」の重要な要件は、環境の整備にあると思われます。知覚心理学者・ギブ

ソンは環境が生物に対して与える意義の重要性についてアフォードンス理論を唱えましたが、その概念を踏まえた哲学者・河野哲也の一連の著作は、子どもたちにとって環境がいかに重要なかを再認識



させてくれます。環境とは、家庭、学校、社会といった人間環境はもとより、自然、情報、施設、そして文化や経済、制度的側面など様々条件を含みます。「内側にある能力」が優れていても諸環境が適切でなければ、能力を発揮する機会は恵まれません。文科省主導の制度改革だけでなく社会全体で教育環境の改善を考える視座が、結果的には日本の「教育」水準の向上に繋がると思われます。

大学教育も同様です。昨年度の本誌で片桐前委員長が詳細に報告したように、専修大学では文科省に教職課程の再課程認定の申請を行いました。また、本年度は 2020 年度開設の新学部における教職の課程申請の手続きも進めています。横浜市教育委員会とは教育に関する包括的な協定を結び、学生主体の学校ボランティアの実施や周辺校との高大連携事業なども積極的に推進し、小学校免許を取得可能とする玉川大学とも連携しています。今年度からは学校司書課程も開設しました。人的、制度的、施設等の側面において、最新の教育改革に対応しうる各種資格取得のための教育環境の整備と改善を随時進めています。

近年は、戦後日本における歴史的な「教育」改革期です。この時期に各種資格を取得することは、皆さんの能力を時宜的に発揮しうる格好の機会です。実際の職業に活かされれば、自身の人生の展望はもとより、日本と世界の将来を見据えた大変やり甲斐のある仕事として開かれていきます。将来を担う教職課程の受講生の皆さんは、時代の動向を敏感にキャッチしつつ自身の歩むべき道を見据えていくことが肝要です。教職課程協議会では、できるかぎり皆さんをサポートしていく所存です。

# Passo a Passo

表題はイタリア語で パッソ・ア・パッソ と読み、「一歩ずつ」という意味です。  
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

## 目次

「考え・議論する道徳」につながる指導法とは—「NHKクロズアップ現代+」が取りあげた実践を手掛かりにして— 経営学部 講師 福山 文子	6
資料をみるかけがえのない体験 文学部 教授 高島 裕之	8
「教育の技術」はいかに語り得るか ネットワーク情報学部 教授 砂原 由和	9
認知的認知—知ることや知識に関する認知過程 ネットワーク情報学部 准教授 望月 俊男	10

## 教職課程

学校現場へのICT導入に関わる問題点について ネットワーク情報学部 兼任講師 飯塚 久男	12
卒業生から	16
教員採用試験体験記	20
教育実習を終えて	25
介護等の体験を終えて	32
教職公開講座に出席して	33
専修大学教育学会に出席して	34
教職総仕上げ「教職実践演習」	35
教科研修生体験レポート	36
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート	37
専修大学松戸高等学校から 私立専修大学松戸高等学校 特別講師 真壁 幸歳	38

## 司書・司書教諭・学校司書課程

子どもの読書と学校教育 ネットワーク情報学部 兼任講師 竹村 和子	40
図書館実習を終えて	42
卒業生から	43

## 学芸員課程

埋蔵文化財保護行政の仕事 松本市教育委員会 文化財課 小山 奈津実	46
博物館実習を終えて	48
第1回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員のしごと」開催の記録 文学部 教授 高島 裕之	50

## データ編（平成30年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数	52
教育職員免許状取得件数	54
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数	54
教育実習先一覧	55
図書館実習・博物館実習先一覧	58
主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭・学校司書、学芸員）	59
資格課程年間行事表	64
資格課程活動報告	65
教職相談実施結果	66
教員採用試験対策特別講義実施結果	67
教職公開講座開催結果	68
司書課程就職（進路）懇談会・司書課程図書館実習報告会開催結果	69
資格課程教員紹介	70
編集後記	

## ■5つの資格課程

### 教職課程…中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

注：平成31(2019)年度以降入学者から経済学部経済学科、国際経済学科の高等学校一種免許状(商業)および商学部マーケティング学科の高等学校一種免許状(地理歴史)は取得できません。

#### ※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

### 司書課程…「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

### 司書教諭課程…「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

### 学校司書課程…「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小学校・中学校において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

### 学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

# 好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す  
あなたへ

## 教職課程



図書館で働きたいなら

## 司書・司書教諭・学校司書課程



博物館・美術館で  
働きたいなら

## 学芸員課程

### 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイドンス

1～4年次  
教職課程履修登録  
4月上旬

1～4年次  
司書課程  
学校司書課程  
履修登録  
4月上旬

1～4年次  
司書教諭課程  
履修登録  
4月上旬

1～4年次  
学芸員課程  
履修登録  
4月上旬

3・4年次  
介護等の体験  
(中学校教諭免許状取得希望者)  
5月下旬～3月上旬

4年次  
教育実習  
5月～11月

3・4年次  
図書館実習  
(希望者)  
8月～11月

3・4年次  
博物館実習  
(館務実習)  
7月～9月

卒業時(事前に申請した者)  
教員免許状の交付  
3月

卒業時(希望者)  
司書資格取得証明  
書・学校司書課程  
修了証明書の申請  
および交付

卒業後(事前に申請した者)  
学校図書館  
司書教諭講習修了証書  
の交付

卒業後(希望者)  
学芸員資格取得証明書  
の申請および交付

### 司書・司書教諭・学校司書課程サポート

#### 司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、  
図書館関連の就職や大学院進学に  
ついて懇談をしています。

### 学芸員課程サポート

#### 学芸員課程セミナーを開催

平成30年12月に第1  
回学芸員課程セミナー「博  
物館、学芸員のしごと」を  
開催しました。

## 教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

## 玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

## 教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教員をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

## 多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

## 教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

## 教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通じた計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

# 「考え・議論する道徳」につながる指導法とは —「NHKクローズアップ現代+」が取りあげた実践を手掛かりにして—

経営学部 講師 福山 文子

## 1. はじめに

周知の通り、2013年2月に教育再生実行会議において提言がなされて以来、道徳教育の充実に関する懇談会（2013年3月）、中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について」（答申）（2014年10月）を経て、極めて短い期間で道徳の教科化が決まった。2015年3月には、学習指導要領等の一部改正が行われ、学校教育法施行規則において道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付け、学習指導要領において、学校教育全体としての道徳教育に関することは「第1章 総則」に、「特別の教科 道徳」に関することは「第3章 特別の教科 道徳」へと構造化された<sup>1</sup>。

上記の中央教育審議会の答申では、「道徳教育の本来の使命に鑑みれば、特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ、多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質であると考えられる」と指摘され、学習指導要領解説には、「答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転

換を図るものである<sup>2</sup>と書かれている。しかしながら、これまで「考え・議論する道徳」を経験してきていない教員が、道徳の指導法に課題を抱えるであろうことは想像に難くない。

そのような折、NHKの「クローズアップ現代+」で道徳にかかわる番組が放映された<sup>3</sup>。タイトルは「道徳が正式な教科に！とまどう先生・子どもの涙・・・現場密着」である。そこで、本稿では、同番組が取りあげた小学校4年生の実践「お母さんのせいきゅう書」を手掛かりに、「考え・議論する道徳」につながる指導法について、若干の考察を行いたい。

## 2. 実践の概要と流された子どもの涙

番組の中では、道徳の実践を3つ紹介していた。ここでは、多数派とは異なる意見を男子児童が表明したものの、「考え・議論する道徳」に向かうことなく、結果としてこの児童が沈黙し涙を流す展開になった実践「お母さんのせいきゅう書」を取り上げることとする。以下がその概要と当該児童が涙を流した経緯である。

### (1) 実践「お母さんのせいきゅう書」

教員Aは、『母親の無償の愛』を通じて『家族愛』について考えさせようとし、「お母さんのせいきゅう書」を教材として用いることにした。教材の概要は以下の通りである。

ある朝、たかしがお母さんに1枚の紙切れを渡しました。それは、せいきゅう書でした。たかしは、「お使い代」「お掃除代」「お留守番代」として、500円を請求したのです。お昼どき、お母さんは500円と一緒に小さな紙切れを渡しました。お母さんからの請求書でした。「病気をしたときの看病代」「洋服や靴」そして「おもちゃ代」など、いずれも0円。それを目にした、たかしの目には涙があふれました。

授業の中で教員Aは、「お母さんはどんな気持ちでたかしに請求書を渡したのだろう」と児童に問いかけ、複数の児童から「私の宝物はたかしだから、お金なんてもらわないよ」「お金はいらないから、そのかわり、たかしの成長を見せてね」といった「母親の無償の愛」に繋がる意見が続いた。

### (2) 男子児童が涙を流す経緯

上記のような展開の後で、一人の男子児童がこれまで出されたものとは異なる意見を表明した。その児童は「わたしは0円なのよ。お母さんの気持ちになってみないよ。せっかく家事とかをしているのに。子どもっていいな。なんかえらいことをするとお金をもらえるから」と発言する。クラスにざわめきと笑いが起こる。孤立した当該児童に対し、教員Aは、全員に聞こえるように、「それでもさあ、お母さんはやっぱりさあ0円の請求書を渡したわけじゃん」

と児童にたたみかける。さらに「お金が欲しいな、いいなと思うんだったら・・・」と教員が続けると、教員の意見に同調し、「たしかに、1円、10円、100円でも書いて渡せばいい」と、発言する子ども達が出てくる。同調する子ども達に対し、さらに「ねえ・・・」と相槌を打つ教員。完全にひとりぼっちになった男子児童は口をつぐみ、涙を流す。

### 3. まとめにかえて—道徳の指導法に関わる考察—

あらためて実践を振り返り、道徳の指導法について考えてみたい。

#### (1) 授業をめぐる課題

そもそも「母親の愛は無償」だろうか。教員Aが、「母親の愛は無償」と考えるのは自由だが、クラスの児童が同じように考えることを前提に授業を構想したことに問題はないだろうか。世界労働機関（International Labour Organization：ILO）のWomen at Work Trends 2016（働く女性の動向：2016年版）では、ケア労働に対する過小評価などの従来型の男女別役割分担の考え方を、女性にとっての機会ややりがいを阻害し続けている要因の一つと位置付けている。さらに教員Aと異なる意見に対する、同教員の対応は適切だったであろうか。

#### (2) 文部科学省の提唱する道徳の指導法

「『特別の教科 道徳』の指導方

法・評価等について」（報告）<sup>4</sup>においては、質の高い多様な指導方法として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳行為に関する体験的な学習」の3点が挙げられている。また、前述の学習指導要領解説には、「道徳科に生かす指導方法の工夫」として、「生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、生徒の実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫して生かしていくことが必要である」と書かれている。具体的には、「教材を提示する工夫」「発問の工夫」「話し合いの工夫」など、7点が挙げられている。この実践の課題を乗り越える指導法としては、抽象的と言わざるを得ない。

#### (3) 「考え・議論する道徳」につながる指導法とは

では、前述の実践を「考え・議論する道徳」に向かわせるには、どのような指導法が考えられるのだろうか。上記の実践では、「男子児童が涙を流す経緯」で触れたように、教員は異なる意見について考えさせたり、議論をさせたりはしていなかった。ここに課題が指摘できるだろう。

例えばたかしさんのお母さんの「無償の愛」を、あくまでも「家族愛」の一つのあり方として提示し、併せて「家族愛」の他のあり方について多様な意見を引き出し、自分とは異なる意見について

考え・議論させることができたのではないか。たかしさんのお母さんのあり方も、涙を流した男子児童の母親のあり方も、どちらかが優れていてどちらかが劣っているというものではない。教員が前者を唯一の価値であると位置づける意識と態度が、その他の意見の排除へと繋がったものと考えられる。「考え・議論する」行為は、児童生徒の主体性が担保され、かつ個々の考え方を尊重する教員の意識があって初めて成立する営みである。現在、特別の教科道徳では、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「家族愛、家庭生活の充実」、「節度、節制」などの20を超える教育内容が示されている。教員には、児童生徒の主体性を重んじるとともに、これらの内容にかかわる多様な考えや感じ方を尊重する意識と態度を貫くこと、さらにこのような意識と態度を基盤としつつ、考え、議論をする場を提供することが求められるといえるだろう。

<sup>1</sup> 文部科学省 HP より。  
<https://doutoku.mext.go.jp/pdf/sequence.pdf> 2018年8月20日取得。

<sup>2</sup> 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』2017、p.2。

<sup>3</sup> 2018年4月23日放映。

<sup>4</sup> 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議による報告書（平成28年7月）。p.3より。

# 資料をみるかけがえのない体験

文学部 教授 高島 裕之

## 1

2016年4月から2017年3月に相馬学術奨励基金海外研究員として、オランダのアムステルダム大学を拠点に1年間学ぶ機会を得た。本学の様々な方々のご理解とご協力の賜物であり、そして現地の関係各位に調査研究の活動を、きめ細かく支えていただいたおかげである。まずは人生でかけがえのない経験を得る機会をいただいたことに、改めて感謝申し上げたい。

## 2

1年間の研究テーマは、「ヨーロッパにおけるアジア陶磁器交易の実像」である。オランダは1602年に設立した東インド会社を介して、日本の有田焼の交易にも関わった国であり、私は博物館や考古局で陶磁器資料に実際に触れ、熟覧し、記録を取った。滞在した日々の中で、特にフローニンゲン博物館(Groninger Museum)のストレージ(収蔵庫)には、のべ104回通った。アムステルダム南(ザウト)(Amsterdam Zuid)駅からフローニンゲン(Groningen)駅まで鉄道のインターシティで2時間である。車内はフリーWi-Fiが使えるため、電波の良い時はアムステルダム大学の図書館にアクセスし、陶磁史関連の論文を手に入れた。

オランダでは計画的な土地利用が行なわれており、市街地を抜けると牧草地が広がる。途中、アムステルダム(Amsterdam)とユトレヒト(Utrecht)を結ぶオラ

ンダの大道脈である大きな運河を渡り、さらに進んでアルメール(Almere)とレイリースタット(Lelystad)の間の草原を車窓から眺めると、限られた時間で次々と解決しなければならない課題を、しばし忘れることができた。

フローニンゲン博物館は、駅を降りると象徴的に姿をあらわす。伝統と格式の高い駅舎とはまた違った存在感を示す超近代的な建築であり、フローニンゲン旧市街へと続く道の入口に面している。ストレージは別の建物で市の郊外にあり、展示されている資料以外は、種類別にそこで保管されている。

## 3

オランダでの日々は、博物館資料と真摯に向きあう1年間であった。博物館の展示室では、資料は主にガラスケースで保管される。私はガラスケース越しで漠然とみるだけでは解らない、より深い考察を行なうため、博物館のストレージに赴き、資料の基本情報を集めたのである。

資料について種々の情報を集めること、実は博物館で展示を製作するうえで、最も基礎的な作業である。情報の種類は様々であり、例えば博物館の個々の資料のキャプションには、資料名、寸法、時代、作者、生産地、来歴などが添えられていることが多い。

私は研究資料である江戸時代の有田焼を深く理解するために、状態を確認しながら実測図の作成を行なった。図を作成するには、よ

くみることで資料の特徴を理解しなければならない。1つ1つ寸法を把握し、細かい視点での観察を進めていったのである。そして完形資料と考古学の発掘調査で出土する資料とを合わせて考えていくことで、その成形方法、作り方について、新知見を得ることができた。一番目を引いたのは、成形するのにロクロを回すだけではなく、型や部品の接合を多用していることである。日本の伝統の中にはないヨーロッパの特殊な器形の注文に応えるために、多様な工夫がなされていることを実感した。

## 4

現在デジタル技術が発達し、デジタルミュージアムの効果が重要視されているが、私は眼前の資料に関して、体になじませながら深い理解が得られるように図っていった。つまり、実物資料と相対する体験の必要性を改めて認識したのである。実際にオランダ以外にもドイツ、スウェーデン、デンマーク、スペイン、フランス、イギリスの博物館に訪問し、各地で実物資料と向き合ったことで、現在、そして未来も必要である情報の糧を得ることができた。

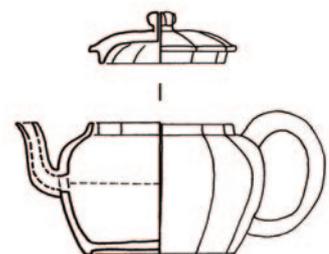
資料から様々な情報を引き出し、読み取った内容を広く公開することは、博物館が開設される目的の1つである。資料をみる自身の目を真摯に養い、絶えずその技術を磨いていくことも、博物館に関わる職業人や学芸員として大きく羽ばたくために、欠かせないスキルであると思うのである。



オランダ・フローニンゲン博物館



フローニンゲン博物館所蔵の有田焼のティーポットと作成した実測図(資料番号 1899-0010)・ボディは上下の部品を合わせ、型で作っている。



# 「教育の技術」はいかに語り得るか

ネットワーク情報学部 教授 砂原 由和

「技術」という言葉との付き合いは長い。大学院修士課程までの専攻分野は技術教育で、その後も、科学技術と教育の関係をめぐる諸問題を研究テーマにしてきた。そのため、「技術」とは何かという問いに幾度も向き合ったが、今日に至るまで納得の行く理解には至っていない。

「技術」という概念を理解しにくくしている要因の一つは、この言葉の指し示す範囲の広さであろう。たとえば、「技術」に対応する英語表現として研究社の『英和大辞典』は、technique, skill, artの三つを示している。また、創拓社出版の『英語類語使い分け事典』はこの三つに technology を加えた四つの単語を示し、それぞれについて、以下のように説明している。「technique：科学・芸術など広い分野で用いられる。skill：手先の器用さ、熟練などを必要とする特殊な技術。art：物事を行う上での特殊技術、こつ。technology：科学技術」。

日本語の「技術」はこのような広い範囲の意味を込めて使われるわけだから、「工業技術」から「愛する技術 (the art of loving)」（エーリッヒ・フロムの著書名。邦題は「愛すること」）に至るまでの、あらゆる種類の技術が存在することになる。ただ、その中でも「科学技術」はこれらの技術を代表する技術として理解されることが多い。事実、『広辞苑』では「技術」を「物事をたくみに

行うわざ」と説明しているが、それに次ぐ二番目の語義として「科学を実地に応用して自然の事物を改変・加工し、人間生活に役立てるわざ」と説明し、『大辞林』もまた同様の説明に次ぐ二番目の語義を「科学技術」としている。

ところで、「科学技術」という言葉の指し示す範囲は「科学」や「技術」という言葉が単独で指し示す範囲より狭い。単に「技術」といえば、そこにはあらゆる技術が含まれるが、「科学技術」という場合は「工業技術」を指し示すのが一般であろう。同様に、「科学」といえば、そこには「自然科学」のみならず「人文科学」や「社会科学」など、あらゆる科学が含まれるが、「科学技術」という場合は「自然科学」を指すのが一般であろう。「自然科学」と「工業技術」には、確実性や普遍性を追求するという共通の特徴があるため、「科学技術」という一つの言葉で表現されるのだろう。

たしかに、確実性と普遍性の追求という「科学技術」の特徴は、さまざまな「技術」に通底している。「金属加工技術」が金属を確実に加工する普遍的なわざとして理解されるように、「愛する技術」もまた、確実に愛する普遍的なわざだといえるだろう。

ただ、「金属加工」とはということかは比較的容易に、客観的に説明することができる（たとえば、「金属を切削したり接合したりすること」）が、「愛する」とは

ということかを単純な客観的できごととして説明することは不可能である。「愛する」とはということなのかがわからなければ、それについての確実性や普遍性が何を意味するのかも分からない。

「愛する技術」について語るためには、「愛とは何か」を語るしかなく、フロムもまたそれを行った。もしもフロムが、たとえば「恋文の書き方」や「デートプランの立て方」（これはこれで、大切な技術ではあるが）を「愛する技術」として記していたら、彼の著書の価値は全く異なったものになっていたであろう。

「教育の技術」（日本教育学会教育学学術用語研究委員会編の「教育学学術用語集」では「教育学技術」に対応する英語表現として educational arts と educational technics を併記している）もまた同様、純粋な客観的事実にのみ関わる技術ではない。「教育」それ自体が、常に、それはということなのかと問われるべき問いとして存在している。「教育の技術」は、「教育とは何か」という問いを通してしか語り得ないのである。



NTT 技術史料館にて

# 認識的認知—知ることや知識に関する認知過程

ネットワーク情報学部 准教授 望月 俊男

2015年9月から1年間、専修大学海外特別研究員（特例）として、米国ニュージャージー州立ラトガース大学（Rutgers, the State University of New Jersey）教育学研究科で客員研究員として研究に専念をする機会を得た。専修大学に勤務して8年目、そろそろ新領域を集中的に学び、研究を立ち上げる必要性を感じ、Clark A. Chinn 教授に師事して、認識的認知（Epistemic Cognition）という領域の研究を始めることになった。



ラトガース大学教育学研究科の Brownbag セミナーで発表をする筆者

ラトガースは、本邦では知名度が低いが、1766年に設立された米国でも最古の歴史を持つ名門大学である。本学の創始者駒井重格が経済学を学んだのは皆さんもご存じのこと。所在地の New Brunswick 市では、田尻稲次郎も大学入学前に学んでおり、専修大学の歴史と縁深い場である。ニューヨークから列車または車でおよそ1時間という場所、生活の利便もよく（アジア系の食材や魚介類も入手がしやすい）、学生の皆さんにも留学をお勧めできる大学である。

認識的認知（Epistemic Cognition）という研究領域は、

本邦では定訳すら確立していないが、いま国際的には大注目の研究領域である。簡単に説明すると、それぞれの人々が「知る」ということはどういうことか、「知識」とはどのようなものか」ということについての考え方をもち、一人一人の認知過程はその考え方（の働かせ方）に影響されるということであり、メタ認知の関連領域として研究が進んでいる。

「正しい知識は先生が教えてくれる」「正しい知識は絶対的なもので1つしかない」という考え方をもっているとうどうなるかを思考実験してみよう。例えば、日本最古の貨幣は「和同開珎」だと学んだとしよう（筆者の時代はそれが「正しい知識」であった）。しかし、いつの間にかそれは「富本銭」に変わっていた。学校で学んだ後、いつの間にかそうになっていた。どう感じるだろうか。筆者も以前は「歴史の授業で学んだ知識は変わらない」と思っていたので、びっくりした覚えがある。しかし実際の知識は、学問的な研究が進んでいくにつれて、新たな真実が明らかになっていくのである。逆に、「知識はときに曖昧で、変容しうるものである」という考えをもっていれば、新しい真実の発見を受容しやすくなる。変容的な知識観を持っていれば、新しい発見をしようとする探究につながるようになる。このような信念を認識論的信念と呼び、発達心理学の領域を中心に研究がさかんに行われてきた。

だがこうした信念だけでなく、一人一人のもつ「知る」ということや「知識」に対する様々な捉え方と、それにまつわる認知過程が、私たちが知る・学ぶ・考える・判断する活動に密接に関連していることが明らかになってきた。例えば「教育学を学ぶ」という学習プロセスにおいて、学び手の目標が「レポートを書くために学ぶ」のか、それとも「教師になるために、授業作りをするために学ぶ」のかでは、後になっても使える知識となるかどうかが変わるだろう。情報学との関連では、昨今フェイクニュースが社会問題になっているが、その情報が品質の良い知識なのかをどのようにして判断するべきかに関してもつ知識や規準が異なれば、理解や信頼の仕方も変わってくるだろう。そもそもその情報が、信頼できるようなプロセスを経て生み出されているかどうかを検証しようとする視点・態度も重要となる。Chinn 教授はこうした AIR（Aims, Ideals, Reliable Processes）フレームワークを認識的認知の中核的な枠組みとして位置づけている。

これは、情報教育のカバーすべきテーマにも思えるが、科学教育をはじめ、どの科目でも授業づくりや学習環境づくりとも大きく関連する話である。主体的で対話的で深い学びを自ら実践できる学び手を育てる上では無視できない研究領域となるであろう。

# 教職課程



10号館（生田キャンパス）

# 学校現場へのICT導入に関わる問題点について

ネットワーク情報学部 兼任講師 飯塚 久男

## はじめに

本学の卒業生から時折相談を受けることがある。内容は教員採用試験関連の絡みからの相談が多く、近年は「教員試験におけるICT資格の有利（加点）性」と「アルバイトとしてのICT支援員制度」などのテーマが増えた。ネットワーク情報学部所属の講師で教育方法・工学等を専門領域とするというのでメールを送信してくるのであろうか。ICTとITCEの違いについても認識不足の方々への説明となると少なからず難儀する。そこで、潜在的に学生の方々に需要があるのなら、この場を借りて、ICT実践の背景、ICT支援員制度とその実際、について若干の考えを記述したい。（なお、ここでは、情報・ネットワークの理論と実際についての基礎的な知識を有する本学の学生を想定して記述する。）

## 1. 教育領域におけるICTの理論と実際

モデル変更:周知のように教育現場における情報化推進の背景には、「従来型のモデル」から「クラウドプラットフォームモデル」への移行問題がある。したがって、移行問題の基本的枠組みを「自分の専攻に併せて理解」してほしい。国際的レベルから見ると日本がモデル変更において出遅れているということは事実であろう。また、そのことが流通経済戦略上の大問題となっているとのこと（この点について筆者は側聞レベル）。したがって、古典的な各種の問題、たとえば「フレーム問題」など過去の重要な基底的問題については、各専門の先生方に譲りたい。ここでは、ITからICTモデルへのモデル変更にとまなう学校教育現場への外部支援問題について述べたい。

### (1) ICTの教育領域での概略理解

「国家戦略としてのICTの推進」は文科省や総務省の強力な指導の元に教育分野においても展開されている。これまでの「成果・評価」は「平成25年度教育分野における最先端ICT利活用に関する調査研究報告書」（文科省）に詳細に記述されているので卒論

等で使用される方は最初に参考にしてほしい。同様に、教育実践においては教育ICT活用の実践事例集が文科省のホームページに記載されているので本格的に研究を開始しようという学生には推奨したい。図1. は教育工学振興会の研究報告書からの抜粋であるが教育工学分野ではたびたび引用される基本図なのでここに着目して理解を進めていただきたい。新しいシステムにおける「イントラネット」の間引きが見え隠れしているのではないだろうか。国際的に見れば「持てる国々の優位性」が失われるということに他ならない。持てる国日本はそれゆえ事を急いでいるのだという流れが見えてくる。それでは、何のために。おそらく、子どもたちのためにというよりは企業の営利のためにということであろうか。

### (2) 様々な評価:社会問題化と学校現場（実際と研究比較）

より教育実践の内容とそれを取りまく背景等に興味のある方は東洋大学のチームが携わった佐賀県武雄市におけるICT教育の展開に眼を向けると「興味深いなにかを得る」のではないだろうか。

2014年5月16日開催の「第1回 ICT教育研究プロジェクト研究会」から2017年3月24日開催の「武雄市ICT教育第三次検証報告—新しい教育観を求めて—」にいたるまでの研究を詳細に知ることができる。以下、二点をあげたい。

- ① 研究報告・活動は東洋大学の紀要等に明らかなように極めて丁寧なものであると筆者は評価したい。
- ② 一方、この研究を取りまく状況がさらに興味深い。総務省出身の若い市長の就任中に開始され、市長の離職（2006-2014.12）によってなりを潜めてしまった観があるからである。

この点については「週刊朝日」「アエラ」などや全国紙に初等教育への行政の介入というかたちで批判的にかつ、継続的にとりあげられた。他方では、テレビインターネットな

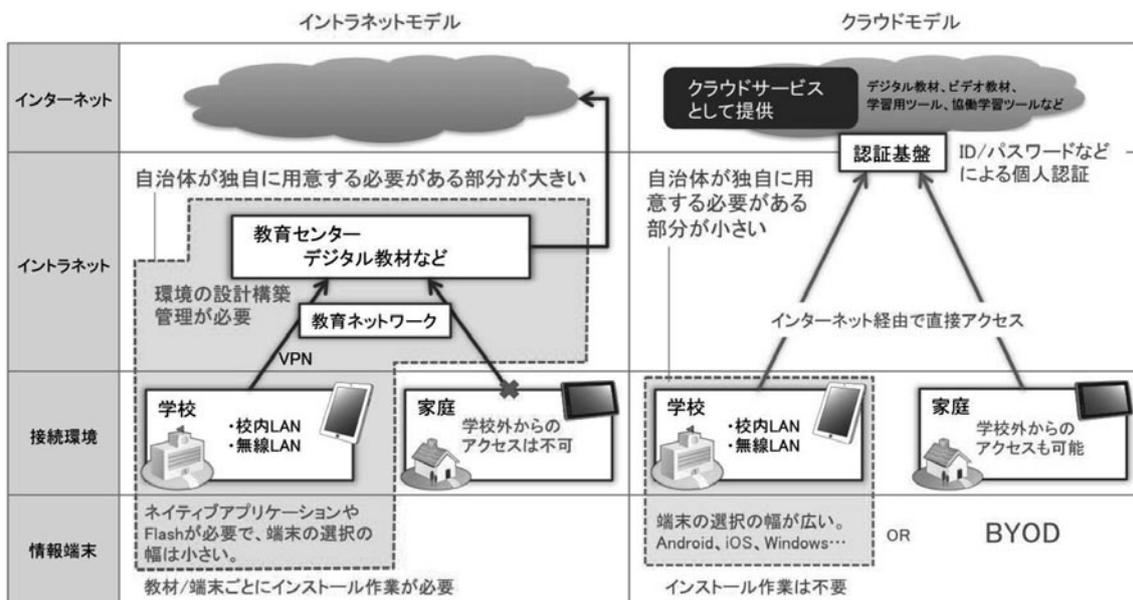


図 1. 日本教育工学振興会「平成 25 年度『教育分野における最先端 ICT 利活用に関する調査研究』より抜粋

どもにとりあげられ続けた。そのために、逆に「ICT 教育の展開状況」が映像や文字として記録されているのである。研究者の立場からすれば、教師・子ども・親・取り巻く人々の取材映像、研究日当日の状況映像も残っており、新たな研究の起点としては宝庫であろう。

さて、筆者の所見であるが以下二点を記したい。

- ① 「個々の子どもの学び」「個々の子どもの発達」「学習集団の学習」「学習集団の発達と展開」からの視点からの考察が中核にない。
- ② 教師負担が大きく、スマホのトラブルへの対応でスムーズ（意図された指導）にすまない。

前掲の東洋大学の報告書・シンポジウムでも触れられたが、子どもたちに配布された端末のトラブルは日常的である。

こうしたことに嫌気がさしたのか研究の中盤以降のスマイル学習参加校は減少している。基本は多忙な教師と現行の長い伝統の中で熟成されてきた学校教育のシステム間調整の不備ではないだろうか。（東洋大学による

意識調査（2017）においては「約6割の教職員がスマイル学習の実施回数を減らしたいと回答している。第三回シンポジウムでも同様の報告がなされた。（スマイル学習とはICT 導入教育への武雄市独自の名称）

## 2. ICT 支援員研修・認定とその周辺

ICT 支援員認定は通例派遣会社での講習で認定されるのが大半である。したがって、ハローワークで人材派遣会社に紹介されると派遣会社では数日間の講習で認定される。認定関係者は会社の研修担当責任者であり、それぞれの会社ごとの個別の説明の後に、「日本標準『ICT 支援員能力認定試験ガイドブック』2016 もしくはコンピュータにインストールされた同種のプログラム」によってなされる。研修は到達度テストを用いるところが多いようであるが、最終的に実際に行われる支援員認定テストがなされ修了される。おもな内容は下記の通りである。なお両者とも『ICT 支援員能力認定試験ガイドブック』に準じた設定で講義されるので講義の内容はつぎのようなものとなる。

・研修内容

1. ICT 支援員について
2. 学校現場の業務と特性
3. コンピュータとは何か
4. コンピュータとネットワーク
5. 学校の ICT 活用シーン
6. 教育用ソフトの種類と使い方
7. 学校の情報セキュリティ
8. 情報モラルと著作権

ITCE 資格は、各派遣会社の研修担当指導者が持っている資格と考えるのが妥当である。

(1) 教育現場での指導内容および試験内容

検定試験の内容は ICT および ITCE (教育情報化コーディネータ) 検定試験の公式ホームページを参照していただきたい。なお、検定試験の内容は以下の通りである。これらの

ことについて ICT 支援員は各学校に配置されたり、派遣社員として巡回指導することになる。

・指導内容

- a) 教育現場や情報技術などでの基本的用語
- b) 教育現場で利用されるアプリケーションソフトやファイルの操作
- c) 現場で生じる問題に対する状況判断や対応
- d) 教育現場で利用されるハードウェアやソフトの設定
- e) 学校特有の問題に関する理解 (職務、子どもの扱いなど)
- f) 情報モラルの指導・セキュリティに関する知識

などの領域から出題される。

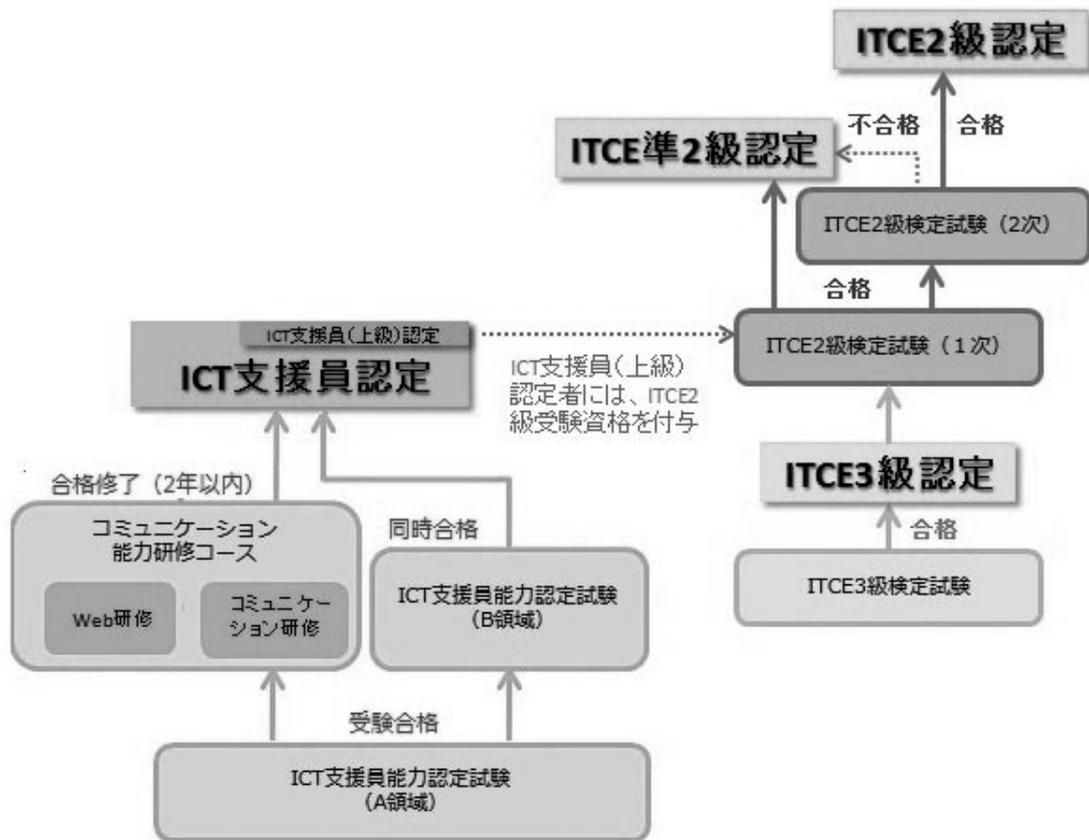


図 2. ICT 支援員認定と ITCE 認定試験との関連 (2、ITCE (教育情報化コーディネータ) 検定試験ホームページより抜粋)

## (2) ICT 指導員派遣者の類型と問題点

### ① 退職教員（ICT 関係者等）指名依頼型：

嘱託に準ずる形で配置されていることが多い。現場の授業に詳しい人物が配置される。

退職校長や指導室経験者が多いので新採研修を兼務する場合が多い。時として現場の校長やリーダーを古い考え方で指導してしまうので問題になることがある。

### ② 教育委員会直接公募型：

情報機器に対して専門的知識を有する人物の選抜。ネットワーク情報学部卒業生が該当する。面接のみで採用試験はない。比較的高額給与。非常勤であることがほとんど。受験で有利に働くかどうかは不明。教育委員会直接採用が後年の講師採用に有利になるらしい。本人の人物レベルが高いことが大切。（C 県・未確認）経歴のみで採用になるので現場の教員から見下されることがある。

### ③ 民間会社派遣型：

各教育委員会はハローワークにおびただしい数の ICT 支援員を公募・募集している。最も気になるところは「学歴不問」。人材派遣会社の募集も契約後社内研修でわかるようにします。としている。つまり、全くの素人を短期間（数日間）の研修で教育現場に送り出しているのである。したがって、人材派遣の場合、特定のデモを見せて上記の問題を説明することが骨子になっている。

## 3. 潜在的問題

以上、教育現場の ICT 問題を本学の教室ではあまりふれない「授業場面の周辺から」述べてきた。最後に列挙という形になるが若干の所見を記述したい。

### (1) 採用され派遣される若者は使い捨てなのか

ICT 指導員として各教育現場に派遣され

た「若者達」のライフステージを考慮しているのか。情報学の世界で生きていくことを選択した彼らにまっているのは、非常勤の指導員でしかない。技術知識伝達のみが仕事の内容となるバーチャルリアリティの進むであろう近未来においては消えていく職業なのではないだろうか。

### (2) 民間業者の学校現場への介入への危惧

IT の時代から ICT の時代へと教育現場は大転換を余儀なくされている。このようなことは過去がそうであったように、今後も必然的に起こるものと推測される。その際に、学校教育現場には人材派遣というシステムは強固なものとして残るであろう。会社間競争も厳しいものになろう。IT レベルから世界標準の ICT へ急ぐあまり、日本の学校教育のシステムは瓦解するおそれがあるのではないか。商業資本の導入によるオリンピック競技大会の変質と同様のことが学校現場に起こってはなるまい。

### (3) 成長と成熟への視座

なるほど、成長ということについては数値化されている。しかし、学校社会の成熟という観点が数値化されていない。学校における学びの変革と援助を主たる任務とする ICT が成熟という概念をどう数値化しうかが課題であろう。しばらくは、教師や教師集団のもつアナログ的な成熟概念と価値観に頼らざるを得ない状況がある。

### (4) 学びと学習集団

ICT についての報告書は学習心理学の素人集団によって組まれている。したがって、学習集団としての、「学びへの着眼」が希薄のようである。学校という教育の場の特殊性・独自性が学習集団の形成と集団としての成長成熟にあるとすれば ICT 研究と実践は尺度である「学習集団の知」の数値化がなされることが急務なのではないだろうか。アンケート調査という名前の推進者にとって都合の良い多数決で正当化され評価されるものではあるまい。教育現場の改善は「学びの当事者」が受益者でなければならない。

## ○はじめに

私は現在、長野県諏訪実業高校で国語科教諭として勤務しています。教員になり今年で2年目を迎えますが、たくさんの経験から、様々なことを学んできました。やって良かったことも、つらかったこともあります。やはりやりがいを感じる人が多い仕事だと思います。今回は、まだ始まったばかりの教員人生から、私が感じたことをお伝えしたいと思います。

## ○教科指導について

「漢文なんて、将来何に役立つの？」と生徒に聞かれたとき、何と答えればいいでしょうか。国語だけに限らず、どの教科でも聞かれることがあると思います。私は最初、何と答えればいいか分かりませんでした。しかし、授業や研修を通して、授業の内容ではなく、学習の過程が大切だと学びました。課題に対して、生徒自らが興味を持ち、探究して解決する力が将来役に立つのだと思います。



実際、私がそのように生徒が主体的に学べる授業ができているかと言えば、とても苦労しています。授業の様子や生徒の反応によって授業内容はもちろん変わってきます。1年目、授業を計画的に進めることばかり気にしていた私は、ほとんど生徒の様子を見ることができませんでした。2年目になって生徒の様子をよく見られるようになり、主体的とはまだまだ言えませんが、身近な話題等を取り入れて興味を持てるような工夫も少しずつできるようになりました。初めから上手くできる人はいません。自身の経験を通して、そこから自分なりのやり方を確立していけばいいのではないのでしょうか。

## ○生徒指導について

教員はもちろん、生徒と関わっていく仕事なので、生徒指導はとても重要となります。生徒に寄り添った指導や、時には厳しい指導も必要です。大学を卒業したての若い先生は、生徒にとっては年齢も近くて友達のように接してくることもあります。しかし、あくまで「指導」する立場を忘れてはなりません。良好な関係を築くことも大切ですが、時には「嫌われる勇気」を持って指導にあたることも必要だと思います。

また、生徒は思ったよりも教員をよく見ている、ということも実感しました。授業の内容はもちろんですが、日常での会話についても覚えている生徒もいて、自分の言動一つ一つを意識するようになりました。お互いに尊重しあうことで信頼関係が築けるのだと思います。

## ○部活動指導について

部活動は、生徒も、そして教員も多くを学ぶことができます。専門の競技でも、専門ではなくても、できれば毎日顔を出してあげましょう。初めのうちは、授業準備などで部活に行く余裕などないかもしれませんが。しかし、知識はなくても、顧問がいるだけで部活の雰囲気が変わることもあります。何よりも、生徒が安全に、安心してのびのびと部活動を行うためにも、顧問の存在は大きいものです。

## ○おわりに

教員というのは、何より自分自身が成長できる仕事だと思います。授業を通して、そして生徒との関わりの中で、時には予想もつかない反応もあり、様々な発見があります。最初はうまくいかずにつらいこともあります。そのつらい経験も次に活かす力になります。そして、自分のやり方でうまくいったとき、伝えたいことが伝わったときにやって良かったと強く感じます。それが私自身の「やりがい」だと思います。

教育実習や大学の授業を通して自分自身の教師像を持っている人も多いと思います。不安な気持ちもあるかもしれませんが、失敗を恐れずに、理想を持って何事にもチャレンジしてください。

## はじめに

「生涯学び続ける教員でありたい」

これは、教員採用試験の自己PR書に私が書いた言葉です。学ぶ楽しさや知る喜びを生徒に伝えたいと思うのなら、まず教員自身が率先して学ぶ姿勢を見せる事が不可欠だと思います。しかし、教科指導から部活動指導に至るまで、教員は様々な業務を抱えています。多忙な日々の中、業務をこなしながら学び続けるというのは決して簡単な事ではありません。

私の教員としての日々の実践例が、教職を志す皆さんの一助になれば幸いです。

## 実践① 日々の業務を可視化し、時間を有効活用する

教員としての仕事でまず皆さんがイメージするのは、教科指導や部活動指導といった、生徒に直接関わる業務かと思います。実際にはそれ以外にも「校務」という学校運営全体に関わる業務や、教員の資質向上を目的とした研修活動等も行っています。日々の授業準備をしながら、こうした業務を並行して行わなければなりません。

私はいつも、職員室の机の上に1枚のシートを置いています。そのシートに



は、今やらなければならない業務内容が1枚ずつ付箋で貼られています。教科指導は黄色、校務は青色…と、業務内容ごとに付箋の色分けをし、さらに優先度の高い順に並べておきます。こうする事で、今何をしなければならなくて、どの業務を優先して行うべきかがすぐ分かります。限られた時間の中で効率よく業務を進める工夫をする事で、多忙な中でも教材研究の時間を確保する事ができ、よりよい授業づくりに繋がっていきます。

## 実践② 絶えず自己研鑽に取り組む

授業準備やこうした様々な業務の合間を縫って、自身の専門分野について学びを深める時間も教員には欠かせません。しかし、学生時代のように落ち着いて学習に取り組む時間的余裕はありません。私は英語科の教員なので、日々の通勤時間を英語の勉強時間にあ

て、英語音声のリスニング等を行っています。また、スキマ時間にすぐ学習が出来るよう、英字新聞とノートを常に携帯し、気になった表現はすぐノートに書き込むようにしています。ほんの数分であっても、無駄なく自己研鑽に使えるよう日々意識しています。



ある女性通訳者の方が、ドキュメンタリー番組の中で「条件が整わないと頭に入

らない、と言っていたらいつまでも条件は整わない」と語り、育児や仕事の合間を縫って、場所や時間を問わず英語を学ぶ姿が大変印象的でした。環境を言い訳にする事なく、自身の専門性を絶えず磨いていく事が教員にも求められている資質であり、教育に携わる人にとっての大切な心構えだと私は考えています。

## 実践③ 原点を忘れない

幼い頃から教職を志していた私にとって、専修大学は夢を実現させる事ができた人生の原点の地です。田邊祐司教授のゼミナールで仲間たちと日々切磋琢磨しあい、朝から晩まで夢中で英語を学んだ大学生活が今でも私を支えています。卒業後も何度か大学を訪れ、学生たちの学ぶ姿に力をもらっています。

揺るぎない原点があることで、どれだけ日常の業務に追われていても「ずっと目指していた職業に、大好きな英語で携われる事」がどれだけ幸せな事かを実感することができています。

## おわりに

以前、専修大学の卒業生として、教職を志す学生向けのセミナーに参加しました。その時、「学生時代にやっておけば良かったと思うことは何ですか？」と1人の専大生から質問をされましたが、何も答えが浮かびませんでした。全てやり切ったという想いが強かったからです。

貴重な学生時代に、悔いのないよう学び抜いてください。学んだ分だけ、それが教員としての自信につながります。

今後の皆さんの大学生活が、より有意義なものとなりますように。

### ①はじめに

皆さん、こんにちは。私は相模原市立東林中学校で教員をしております戸田と申します。私は専修大学で多くの事を学び、今、教壇に立つことができている。現在、教員になる事を目標に尽力している皆さんに少しでも現場の事を知って頂いて今後の活力にして頂ければと思います。宜しくお願いいたします。

### ②教員になって

私は、卒業式の2週間後には、中学2年生の担任として教壇に立っていました。幼い頃からの夢であった教員になれたものの、その喜びに浸る暇もなく、目まぐるしい日々が続きました。生徒との信頼関係もすぐには構築できず悩み、授業もうまくいかず、仕事も大量にあり、精神的にも肉体的にも厳しい時期があり、自分を見失っていました。うまく言葉で表現できないですが、思い描いていたスタートと全く違った現実に圧倒されていたんだと思います。しかし、その日々が今の私を強くしたのかなと感じています。教員として未熟すぎる私に対して、容赦ない生徒たち、それに臆する自分。この状況を何とかしなければと考えた私は、「今状況から逃げることなく、生徒との信頼関係を築く」ということを徹底しようと考えました。冷静に状況を見たときに、私の味方をしてくれる生徒も多かったです。まずは、そういった生徒と「クラスを良くするにはどうしたらよいか」とシンプルで難しい課題を共に考え、行動しはじめました。私も、学級全体に時には個人的に自身の想いを積極的に伝え続けました。想いを伝えず、その場をやり過ごすほうが楽な時がありますが、正面からぶつかり、物事を解決していくほうが、教師として大人として私は大切だと思います。そういった姿勢を生徒たちに見せることで徐々に信頼関係を築くことができました。本文章の形式上、細かいことは割愛しましたが、まず、私が思う事は、子供たちの前に立ち、教員として職務を全うする以上、物事の本質を見極め、理不尽な事に

対して、しっかり筋を通し、子供たちを引っ張っていく事が大切であると思います。生徒一人一人にも個性がある様に、教員側にも一人一人の個性があると思います。その個性を発揮する根幹には、先ほど記した部分があると思います。

### ③授業について

私は、担任をしているので教科指導以外に道徳、学活、総合的な学習がありますが、ここでは、教科指導である社会科の授業について記したいと思います。昨年度は2年生4クラス、3年生1クラス、今年度は3年生4クラスを担当しています。どの仕事内容もそうですが、教科指導は特に試行錯誤の連続です。私は、毎時間、学習プリントを配布しています。また、必要なときに応じて、パワーポイントを作成し、活用しています。生徒たちの反応は、単元の内容などで様々です。正直、今の授業構成で生徒たちに良いものを与えられているかはわかりません。日々、教材研究に取り組むことは必須であり、先輩の先生方の授業を教科問わず、見学し、勉強させていただくことが大切であると感じます。今後の長い教員人生で、自身の授業に満足することなく、常に良いものを探求していきたいと思っています。

### ④最後に

「教員になってよかった」これが私の現在の気持ちです。嬉しいことよりも、辛いことが多いのも事実です。朝も早くて、帰りも遅い、土日も部活で休みもない。そんな状況でも、私は教員として仕事ができる事に大きな喜びと幸せを感じています。この仕事は、「人」が相手であり、そこには多くの想いや感情があります。私はまだ、教員として未完であり、今後も未完であり続け、常に目の前にいる子供たちの事を考え、職務を全うしていきたいと思っています。皆さんも、健康に気を付け、目標に向かって尽力してください。私も頑張ります。ありがとうございました。

## 1. はじめに

神奈川県に情報科教員として採用されてから、今年度で4年目となりました。非常勤講師として2年、臨時的任用教員として3年勤務し、採用試験は4度目で合格しました。正規採用となるまで年数を重ねてしまいましたが、その代わりに様々な学校で勤務することができ、自分の生徒への接し方や、授業のあり方を考える機会を多く得ることができたと感じています。そんな私が得た経験から感じていることを少しお話できればと思います。何かの参考にしていただけたら、とても嬉しいです。

## 2. 生徒と接するときのこと

生徒の価値観や考え方は、自分自身とは違うものです。自分にとっては何気ない言葉であっても、生徒にとっては大きな言葉であることがあります。自分が忘れてしまうような小さな言葉のつもりでも、生徒にとっては重く申し掛かる言葉であることがあります。生徒に自分の言葉を伝えることも大切なことですが、私はそれ以上に、生徒の言葉を聞くことが大切だと思っています。生徒の先の言葉を想像し、展開を読んでしまうこともあるかもしれませんが、もし次に何が言いたいのかわかったとしても、それは自分の解釈です。本当に生徒が言いたいことは、違うことかもしれません。だから最後の一言まで、生徒の話を聞くことを意識してほしいと思っています。自分の想像できない環境や状況、様々な気持ちを生徒は持っています。自分の経験や考えだけで、生徒を判断しないように心がけなければならないと思います。



「情報の科学」授業風景（スキュタレー暗号の実践）

## 3. 授業をするときのこと

教員として採用されている以上、大切なことは授業であると思います。教科「情報」は単位数が少ないこともあり、同じ科目で複数のクラスを持つことが多いため、何度も同じ授業を繰り返します。教員側は2回目、3回目の授業であっても、生徒にとっては最初で最後の授業です。何回目であろうとも、全力を尽くして授業に取り組むべきだと思います。

教科「情報」は、移り変わりが激しいです。授業の中で話したことが、1ヶ月後には覆ることもあります。昨年度教えていた内容が、まったく使えなくなってしまうこともあります。時折それが苦しくなることもありますが、おもしろいことだと思っています。ずっと勉強を続けながら、新しいことを伝えていくことができる教科だと感じるからです。もちろん変化の少ない単元もあります。しかし、生徒を取り巻くデジタル環境も移り変わりが激しいです。そのため、単元に変化が少なくとも、伝え方や例示するものをいかに工夫できるかを考えなければならないこともあります。それをどれだけ楽しんで、どこまで全力を尽くせるかが、授業をする上で大切なことだと思っています。

## 4. おわりに

偉そうなことを言いながら、私自身も日々迷走しています。生徒と話しているとき、授業をしているとき、「本当にこれでよいのか？」と何度考えたかわかりません。自分なりに悩んで伝えた言葉で、生徒を傷つけてしまったこともあります。長い期間をかけて準備をした授業で、生徒の学習意欲を高めることができなかったこともあります。

何が「正しい」のかは、誰にもわかりません。自分の言動が生徒にどのような影響を与えるのかも、具体的にはわかりません。それでも大切なことは、生徒のためにどうすればいいのか、何ができるのか、考え続けることだと思っています。そしてその考えを押し付けるのではなく、ただ生徒の隣に寄り添うような、そんな教員をともに目指してほしいです。

# 教員採用試験体験記

文学部日本語学科4年 田畑 真生

## 【はじめに】

この度、私は平成31年度公立学校教員採用試験の高校国語を受験し、合格することができました。微力ながら、この先採用試験を受けようと考えている方へ、少しでもお役に立てればと思い、私の体験記を書かせていただきます。

## 【試験に臨むまで】

私は小学生の頃から教員になることを夢見ていました。勉強が好きだったことや人と関わるのが好きだったため、自然と教員を志すようになったのです。しかし、それは教員の魅力的な一面しか見ていないということも、次第に痛感していました。そこで私は、大学入学と同時に塾講師のアルバイトを始めました。あえて集団授業も行うことができる大手の塾でアルバイトをすることを決め、「自分がここで経験できることはなんでもしよう」という決意のもとスタートしました。思い返せばクリスマスもバレンタインもお正月もろくにない大学生活でしたが、教員になるという意思を固めるためには必要な過程だったと強く感じています。特に、私は意識的に何か生徒に注意をするとき、「どうして注意しなければならないのか」ということを度々考えていました。『塾では他の同じように月謝を払って塾に通ってくれている生徒に迷惑がかかるからですむかもしれないが、では学校ではどうだろう、なぜ授業中は静かにしなければならないのか、制服は規定通りに着なければならないのか。』様々な事柄に対し自問自答してみました。塾ではもちろん生徒を注意しなければならない場面がありますし、保護者の方からご意見をいただくこともあります。ただ大学生活を送っているだけではきっと考えなかったであろう、教育の根幹の部分についてや、生徒とのコミュニケーション方法、保護者は何を求めているか、ほんの一部ですが、教員になる前に4年間かけて十分に考えることができたと思います。教員を志している方には、ぜひ塾講師が学校のボランティアに参加することをおすすめします。教員の仕事は給与のわりに大変だと世間では言われていますが、塾でのアルバイトの経験をしてみると何が大変なの



塾の授業のための板書案

か、又なぜそのような大変な仕事を続ける教師本来の魅力が何なのか、その一端が見えてくると思います。

## 【教員採用試験】

私が受けた自治体の採用試験の一次試験は7月の初めにありました。私が本格的に採用試験に向け勉強し始めたのは、願書を出し終えた5月からです。つまり、採用試験のために勉強したのは2ヶ月しかありません。活用したものは教職教養の暗記ブックとその自治体の過去問だけです。教職教養の暗記ブックは常に持ち歩き覚え直し、過去問は試験1ヶ月前から取り組み、少なくとも2周しました。確かに非常に少ない勉強量だったとは思いますが、しかし振り返ってみるとその2ヶ月だけでなく私には塾講師として日々奮闘した4年間があったからこそ採用試験に打ちむかうことができたと思います。教科の様々な問題について学習しながらも毎日一般教養の勉強をしているのと同じだったのではないかと思います。ほぼ毎日、生徒からくる質問に、教科を問わず対応していたことも大いに役立ちました。得意な文系科目だけでなく、時に調べながら理系科目に関する質問対応を行っていました。面接試験の対策についても同じです。教職教養を面接でも活かせるよう、必要な知識は自分の口で説明できるよう整理して覚え、塾講師を行いました。例えば自分が教員になったとき、この自治体にはどんな利益があるか。生徒や保護者の方に対して自分にしかできないことは何か。日本語学科という他にはあまりない自身の学科の強みが、どう教育の現場で活かせるかについてもよく考えました。まとめてみると面接では「日本語学科であること」「生徒の自主性を大切にする」という2つの考えを軸に全ての質問に答えるよう意識しました。教師像としての軸がしっかりと確立している人間の方が教育現場では必要とされていると思ったからです。以上が私が実際に行った勉強方法です。

## 【おわりに】

教員試験に向け何を勉強するかは勿論、それまでの4年間で教師としての意識をもってどう過ごすかの方が重要であったと感じています。思い返せばあつという間でした。来年試験を受けようと考えている人も、遅くはありません。ぜひ塾講師やボランティアを通して、「教育とは何か」についてよく考えてもらえればと思います。

この度、平成30年度神奈川県教員採用試験に合格し、私の夢であった高等学校英語科教員の道に進むことになりました。折角の機会を与えられましたので、ここでは合格に至る道程を振り返りながら、自分の体験をもとにした試験の「乗り切り方」を後輩のみなさんにお伝えします。

まず始めに採用試験の概要について述べます。ご存知の通り、採用までは1次試験、2次試験と選考があります。試験内容は、もちろん自治体により異なりますが、1次試験では、教職教養、一般教養からなるものと専門教科である英語の筆記試験があります。2次試験では個人面接、模擬授業、集団協議、小論文（1次試験時に実施）と技能試験（英語面接）があります。個人面接においては、教育に対する関心、情熱、使命感、その人の人間性などの教員的な資質を求められます。模擬授業・集団協議ではテーマに沿った授業、協議を行い、教科指導力などが試されます。小論文では、自分の意見を明確に論述することが求められます。

以上のように、1次試験から2次試験までの内容をカバーするためには、早い段階から計画的に対策する必要があります。遅くとも3年次には、情報収集をはじめとして計画を立てコツコツと試験対策に取り組むことが大切です。

私が1次試験に向けて行ったことは、効率的且つ効果的に対策をすることでした。はじめに述べた通り、1次試験では、教職教養（教育史、教育原理、教育心理、教育法規、教育時事）、一般教養（人文科学、社会科学、自然科学）と専門教科の筆記試験があります。この広範囲を網羅することは、1年では不可能に近いと考えていました。なので、私は出題傾向の高い範囲を優先的に学習し、徐々に範囲を広げていくという方法で取り組みました。傾向の情報収集としては、参考書や、教育時事、全国の過去問から読み取ることができます。具体的には、知識を得る過程として、参考書などの内容をノートに何度もまとめ、覚えるようにしていました。そして、ある程度覚えることができた後に問題集や過去問に取り組み、自分の苦手範囲を見つ

け、埋めるような形で対策していました。専門教科については、実用英語検定とTOEICの対策も兼ねて行っていました。また、1次試験時に2次試験での選考の対象となる小論文もあるので、日頃から、『教育新聞』や英語教育に関する雑誌を読みアイデアを集めていました。小論文を書く練習を行うことも必要です。

1次試験合格後、2次試験に向けて行ったことは、教員志望の仲間たちと協力し、学ぶ合うことでした。2次試験の個人面接や模擬授業などは、面接する相手や授業を見てくれる人がいないと成り立ちません。同じ専修大学の友人と夏休み中に大学へ行き、個人面接や模擬授業の練習、対策を行いました。具体的には、まず面接で話す内容や模擬授業の題材などを考え、集めていました。それらを基に練習や、こうしたほうが良いなどのフィードバックを重ねて改善し、納得のいくものへと仕上げていきました。そうした努力の結果、実際の試験には自信を持って臨むことができ、良い結果を出すことができたと感じています。

このような体験を振り返ると、やはり一番大切なことは、日頃から教員になるために必要なことは何かと自分に問いかけ、資質を磨いていくことだと考えます。英語力や教科指導力はもちろんのことですが、教員として大切なことは何かを見つけ、諦めずに努力し続けることで、採用試験のためだけでなく、理想とする教員像に近づけるのではないかと思います。

そして同時に、合格は先生方や切磋琢磨した仲間、家族の協力あってこそその結果だったとも実感しています。最後に、お世話になった先生方、私を様々な面で支えてくれた家族、そして同じ目標を持って共に学んだ仲間に対して、この場をお借りして感謝申し上げます。

今の私はまだ教員としての第一歩を踏み出したに過ぎません。今与えられている環境に感謝し、1日1日の学びを大切にすると共に、「学び続ける姿勢」を忘れずに日々努力し、励んでいきたいです。

まず初めに、この体験記が誰かの励みになれるように書かせてもらいます。

私が先生になりたいと思い動き始めたのは大学2年生の12月頃でした。当時は遊ぶことにしか頭がなく将来の夢もいつか見つかると思っていました。そんな中、二個上の先輩が先生になったのを見て普段ふざけてばかりいるのに頭いいんだ、かっこいいと思ったのが目指そうと思ったきっかけです。そこから私はすぐに動き始めました。大学3年生から教職課程を取り始め、3年生前期は月曜から金曜1~5限と無謀な履修を組みました。もちろんバイトも長期休暇をもらい、遊びも一切いかない覚悟を決めました。すぐに行動に移したことが教員採用試験合格につながったのだと思います。

私は生まれも育ちも東京都なので、最初は東京都しか受けなかつもりでいました。その中で、少し不安にもなりました。私は5限が終わってから図書館が閉まる9時までしか勉強できない中で、1年生から目指している人たちに勉強量で敵うわけがないと。また、東京都の採用試験は他県に比べて難しいと感じていました。なので、私は勉強の効率を上げ、さらには新卒で先生になるという目標を叶えるために2つのことを実践しました。

1つは、合格した先輩にたくさん話を聞くということです。実際に合格した先輩の話を聞くことで、「どんな教材がいいのか、今の段階でなにをしたらいいのか」そのような悩みはすぐに消え、勉強の効率がグンッと上がりました。その中で、一番最初に手をつけたのは過去問分析でした。分析するまではただがむしゃらに参考書とにらめっこする日々で

したが、10年間分の分析をして、どのような分野が出てどのような形式の問題が出されているかわかった途端になにか時間を取り返せた気になりました。なので、皆さんには過去問分析を最初に始めることを勧めます。

2つ目は、第一志望以外の他県の受験です。東京都を落ちたらどうしようという不安から大阪府、山口県、岐阜県も受験することにしました。正直、この3県を選んだ理由はどれも日にちが異なっているのと、東京都より自分が過去問分析をしてみて解きやすいと思う自治体というだけの理由です。言い換えれば、それほど新卒で先生になりたかったという思いがありました。

教員採用試験の一次試験は、第一志望の東京都以外には受かることができました。東京都に落ちてしまったのは悔しかったですが残りの3県は絶対に受かろうという気持ちになりました。大阪府だけ三次試験までありましたが、三次試験が山口県とかぶってしまったので辞退することになりました。その中で、東京都に落ちてしまった原因は勉強不足もあると思いますが、教育実習の後の期間の過ごし方にもあると思っています。自分の中で、教育実習で初めての教壇に立ちとても素晴らしい時間を過ごせたことに満足してしまい、勉強のラストスパートをかけることができませんでした。あの期間をがんばっていたら結果も違っていたかもしれません。

二次試験対策は、大学の先生方との面接練習、仲間たちとの集団討論などをメインにやりました。また、面接では自分がどういう人間で、今までの人生を振り返り、何をして何を感じたのかを徹底的に洗い出すとともに、自分の教育観をしっかりと持つことに時間をかけました。正直、自分に自信を持って面接に挑むことが大切だと思います。

山口県と岐阜県の採用試験に合格をし、来年から岐阜県で教育者の一歩を踏み出します。私が頑張ってきた中で、皆さんに伝えたいのは全力の覚悟を決めて目指せば夢はかなうということです。



家の階段の暗記用シート

## 1. はじめに

私は自分が目標とする教育を実践したいと考えており、そのために以前から県の教育委員会のホームページに記載されている教育方針などを調べたり、日本の様々な地域を訪れたりしていました。そして自分が理想とする教育を理想の環境で行いたいと思い、富山県を受験することを決意しました。

## 2. 一次試験

一次試験において筆記ではすべて記述形式で一般・教職教養と専門教養、そして集団討論があり、2年次から対策を始めました。

まず一般・教職教養は2. 3. 4年次に二年間東京アカデミーの学内講座を受講し、対策を行いました。一般教養はアカデミーでいただいた参考書を完璧になるまで何度も解き、教職教養はアカデミーの授業プリントなどを通学の電車で繰り返し読んで覚えました。

次に専門教養において日本史Bは高校で選択していなかったため、独学での勉強となり分かりやすい参考書などを書店で購入し、解き続けました。そして世界史も確実にとれるために大学受験で使っていた塾の参考書に加え、論述問題集なども解いていました。

続いて集団討論は2年次にアカデミーの講座で参加したのが最初でした。しかし自分は討論を苦手としていたため、講座だけではなかなか上手くいきませんでした。そこで他の自治体を受ける人に声をかけて、教育実習1担当の先生のご指導の下、4年次の春頃から週に1度集まって集団討論の練習をしていました。

実際に話す練習はとても新鮮で密度の濃い時間を過ごすことが出来ました。



試験勉強に利用した参考書

## 3. 二次試験

二次試験において筆記では論作文、そして個人面接、模擬授業がありました。

まず論作文はアカデミーの講座で2年次から始めていましたが、3年次の秋頃まで何度講座で書いた論作文を添削していただいても低い評価が続き、どうしても点数をとることが出来ませんでした。そこで繰り返し添削

で指摘された書き方を直したり、講座の時間以外でも論作文を提出し指導を受けたり、大学で行われていた論作文の授業に参加したりなどを続けました。

次に個人面接においては集団討論と同様に、アカデミーの講座に加えて「教育実習1」担当の先生にご指導いただいたり、大学の先輩、友達、家族など様々な人に見てもらい、アドバイスをいただきました。

最後に模擬授業はどの範囲がくるのかわからなかったため、大まかに単元の導入と本時の目標、展開の流れをノートなどにまとめておき、ランダムに時間を計って練習していました。授業は主に大学の先輩に繰り返しアドバイスをいただく中で改善したり、実際に教室を借りて板書の練習をしたりしていました。二次試験よりまずは一次試験をやらないと、と思うかもしれませんが一次試験が終わってから二次試験までの期間が短い自治体が多いと思うので、とにかく前もって早めにコツコツ二次試験対策をしておいた方が良いかもしれません。



教員採用試験勉強対策ノート

また二次試験で人間性を見られる際に、大学などで行ってきたいろいろな経験はとても役に立つと思います。

## 4. 最後に

合格番号が出された瞬間、今までのどんな苦しかったことも辛かったことも全部吹っ飛んでしまうくらいうれしくて呆然としたことを覚えています。

最後にこれまで試験の勉強などについて書いてきましたが、大学で大切なのは経験もまたとても大きいと思います。私は世界史の教員になりたいくて、肌で感じられる授業が出来るよう一つでも多くの国を旅して実際に目で見たり聞いたことを吸収しようと思い、実行してきました。今思うと、大学での経験はすべて教員への道につながっていると感じます。

これからも新しい場所でより一層多くの経験をし、生涯にわたって学び続けていく教員になりたいと思います。

## はじめに

私は平成30年度実施、東京都公立学校教員採用候補者選考小学校全科に合格し、小学校5年生からの夢である「教師」として、4月から教壇に立つことが決まりました。私の背中を全力で後押ししてくれた先生、共に切磋琢磨し成長した仲間、そして何よりどんな時でも一番のみかたでいてくれた家族の存在があったからこそ、私は頑張り続けることができたと思えます。

今から記すこの体験記が、私と同じように「教師」の道を志す誰かの力に少しでもなれば幸いです。

## 一次試験 ～教職教養～

私は嶺井正也先生が発足した“バンビの会”というグループに所属していました。バンビの会では主に、出題頻度の高い条文の空欄補充や適切語句の選択、正誤問題など本番の試験に近い状態のプリントに取り組み、間違った問題があれば解説を聞くなどして学習を進めていました。東京都は五肢択一式の問題で、そのほとんどが正しいものを選択し解答する力が求められています。私はバンビの会では特に正誤問題に力を入れるなどして、“自分の受ける自治体の出題方法に近い問題形式”に慣れるよう、数多くの問題をこなしてきました。また、東京都の過去問は問題文を読めば何番が答えか分かってしまうほど何十周も取り組み、東京都の出題傾向を分析し、対策しました。

## 一次試験 ～専門教養～

専門教養は今年度の試験から最低基準点が設けられ、対象教科全てにおけるある一定の専門的知識が必要不可欠となりました。そのため、得意教科を伸ばすよりは苦手教科、領域でどこまで点数を取ることができるのが課題でした。専門教養は小学校全科の場合、中学校あるいは高等学校の基礎基本を確実に押さえることが重要なため、教科書をもとに抜けている知識を詰め直すなど、今までの学内テスト対策同様自分のやりやすい方法で取り組みました。教職教養と同じく過去問は徹底的に傾向分析し対策しました。

## 一次試験 ～小論文～

小論文は、齋藤博志先生の学内講座と東京アカデミーや資格の学校TACなどでおこなわれている無料講座を積極的に活用し、対策しました。特に齋藤先生の講座では、小論文

のベースである柱の作り方をはじめ、構成の仕方について丁寧かつ分かりやすく学ぶことができ、どんなテーマがきても柔軟に対応することのできる素地を作ることができました。教職教養と専門教養の筆記試験では伝えることのできない自分の熱意がこの1050字程度のレポートで伝えられるよう心がけました。過去問は、どのような形式で出題されているのか、傾向を知るといった目的からしっかり目を通す必要があると思えます。

## 二次試験 ～個人・集団面接～

専修大学主催の講座でのみ、対策をしました。正直、一次試験の結果も分からないため、ギリギリまでふわふわした気持ちで過ごしていたかと思います。講座では、先生方が面接官役として入室から退出までの行動一つ一つをチェックし、アドバイスしてくださいました。本番はもちろん緊張し、上手く質問に対し答えることのできなかつたものもありました。しかし「私を採らなきゃ損をするぞ!」ぐらい堂々とした姿勢で、自信を持って面接に挑むことができました。もちろん、学内の講座がなければこのような自信は生まれることがなかったでしょう。

## 最後に

まず私は、この場を借りて大学4年間共に「教師」という道を目指し、切磋琢磨し成長した友人へ感謝を述べたいと思います。彼女は私にとってかけがえのない存在でした。苦楽を共にした戦友といっても過言ではありません。教員採用試験は、本気で目指す人ほど辛く苦しい道のに感じると思えます。プレッシャーはもちろん、自分の不甲斐なさに「私は教師に向いていないのではないか。」という自己嫌悪に陥ることがあるかと思えます。そんな時こそ力になってくれるのが、友人です。先生方です。そして何より家族の存在です。私は私に関わってくれた全ての方々に感謝しています。そんな感謝の気持ちを忘れずに、これから先何十年とある「教師」の道を歩んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、皆さんの夢が、願いが叶いますように。心から願っています。



4年間一緒に教員を目指した仲間と（左が筆者）

## はじめに

私は母校の私立相洋高等学校にて、5月28日から6月16日の3週間教育実習に行ってきました。担当のホームルームクラスは2年2組で、授業を担当したクラスは2年2組に加えて2年3組と1年2組を受け持ち、3週間で合わせて26時間の教壇実習を行いました。今回は教科指導についてと生徒との関わり方について、実習を経て感じたことをお話ししたいと思います。

## 教壇実習について

実習を通して一番感じたことは、教材研究が全てということです。まずは自分が扱う教材をどれだけ理解することができるかが、いい授業をするために最も大切なことだと感じました。私は実習が始まる1ヶ月前の事前打ち合わせの時点で、扱う教材や範囲などが決まっていたのですが、その間教材研究をあまりしていなかったことが一番の失敗でした。

実習が始まってからでは、教材研究にかけられる時間も限られてくるので、早くから取りかかることで余裕を持って調べることができ、それがいい授業へと繋がると思います。

また、教壇実習では生徒に考えさせることを中心にした授業展開を心がけて取り組みました。生徒個人・全体への質問や投げかけを中心に進行し、答えは生徒に考えてもらい、すぐに言わない、板書しないという方法で授業を行いました。指導教諭の先生からの、「初めは簡単で答えやすい質問を投げかけ、慣れてくると少し難しい質問にもためらいなく答えてくるようになる」というアドバイスもあり、どのクラスでも発言が飛び交い、コミュニケーションの多い活気ある授業ができたことはよかったと思います。この方法で大切になることは生徒が考える時間を設けることです。しっかりと自分で考えてもらうことで、内容理解へと繋がり、それを発言することで内容の定着にもなると感じました。自分の考えを周りの生徒と共有してもらうことも効果的だと思います。

## 生徒との関わりについて

生徒の名前を覚えることが一番大切だと感じました。自分は空き時間などを利用し、すぐに名前を覚えたことで、会話のきっかけに

もなり信頼関係を早くから築くことができ、生徒との距離がかなり縮まったと思います。そして生徒の名前を覚えたことで教壇実習の時にかなり役立ち、授業を円滑に進めることができました。まずは名前を覚えることがひとつポイントになると思います。

また、授業中もそれ以外の時間も生徒との会話で敬語はあまり使いませんでした。自分のやりやすいやり方ということで指導教諭の先生に許可をもらい、普段の会話と同じように生徒ともやり取りをしたことで、いい意味で壁をつくらずに関わることができたと思います。会話の中では、生徒との共通の趣味などを見つけるなどが効果的でした。スマホゲームや好きなスポーツまたは音楽など、共通の話題で盛り上がることで話しかけてくれるようになり、信頼関係を深めることができたと思います。生徒と比較的年齢が近いことは大きなアドバンテージになると感じました。

こうした生徒との関わりは良い評価を受けましたが、一方で、生徒と教師という関係を大切に、その場に応じた言葉づかいで接するべきという少し厳しい評価も受け、賛否両論でした。先生方の意見を聞きながら行動することの大切さを学びました。

## 最後に

生徒との関わりから授業実践まで、すべてがとても貴重な経験でした。これから教育実習に行く皆さんには、それぞれ実習生や先生方と意見交換を行いつつ自分なりのやり方を見つけながら挑戦してほしいと思います。3週間大変だとは思いますが、楽しむことを忘れずに頑張ってください。



前から2列目左から4番目が筆者

## 教育実習を終えて（英語）

新潟県立佐渡中等教育学校 文学部英語英米文学科4年 高橋 大智

私は6月4日から6月15日の2週間、母校である新潟県立佐渡中等教育学校で教育実習を行いました。担当科目は英語、クラスは5年2組（高校2年生）を担当しました。教壇実習に関しては英語を15時間、LHRを1時間受け持ちました。

私が実習期間中に苦労したのは、教壇実習をしっかりと行うということと生徒たちに受け入れてもらうということです。今回はこの2点に対する実際に行った工夫や解決策について実習体験を踏まえながらお話ししていきたいと思います。

初めての教壇実習ではしっかりと準備を行って臨みましたが、計画していたことの半分程度しか授業ができませんでした。どうしたらいいのかわからず、授業後指導担当の先生に質問に行ったところ、「次の流れを理解し、先生は生徒が活動している間に次の活動の準備まで終わらせて円滑に次の活動に入れるようにしなさい。」とアドバイスをいただきました。それを受けて振り返ってみたところ、生徒が活動している間、机間巡視だけを行っており、次の活動で使うCDの準備は一切できていませんでした。限られた時間の中でより多くの活動を取り入れるのならば、こういった無駄な時間は省き、もっとほかのことに使うべきだと思い、その次の時間から意識的に動いてみたところ、ほぼ計画通りに授業を行うことができました。

この他に私が教壇実習の際に気を付けたことは、教材研究です。教える側の我々が生徒以上に本文の内容を分かっている必要があるのはもちろんですが、本文以上のことにも目を向ける必要があると思います。実際実習で扱ったセクションはユダヤ人迫害につい

てのものでした。本文にはその内容については書かれていましたが、そこに至る経緯までは書かれていませんでした。導入でその当時の時代背景やそもそもなぜ迫害が起きたのかななどを説明したところ、その後の本文内容にもすっと入ることができました。このように知識として知っておくだけで生徒の答えを導く、もしくは理解を深める手助けにもなります。

実習初日、私は生徒たちに受け入れてもらえるだろうか、仲良くなれるだろうか、そういった不安でいっぱいでした。その日はまず、クラスの生徒の名前と顔を必死に覚えめました。その次に自己紹介の際に教えてもらった特技や趣味なども一緒に覚えめました。しかし、なかなか話しかけるきっかけが見つけれずにいました。お昼の時間になってお弁当を食べながら話そうと思い、教室に行ってみました。すると生徒たちは温かく受け入れてくれました。趣味の話や部活のこと、1週間後に迫っていた体育祭のことなどたくさん話をしました。それから実習最終日まで毎日教室で一緒にお昼を食べました。数日たったころには、「昼休みバスケしよう!」、「放課後部活来てね!」と言ってくれる生徒もいました。最初は不安でしたが、生徒たちと仲良くなった途端に教育実習がものすごく楽しいものになりました。そして最終日が近づくとつれて寂しさもこみ上げてきました。

私の実習体験から皆さんに伝えたいことは、とにかくいろんなことにトライしようということです。失敗したら次にその反省を生かして前よりもよくなるように努める。実習中はその繰り返しだと思います。私も何度も失敗し、そのたびに担当の先生からご指摘やアドバイスをいただき次までに克服する課題として意識していました。一生に1度きりの教育実習ですから、多くのことを学び吸収してください。私は空いている時間に他の科目の授業や実習生の授業も見学するようにしました。その結果、自分の授業に還元できることも多く学べました。

これから実習に行かれる皆さんも、このような貴重な機会をぜひ楽しんで、実のあるものにしてほしいと思います。



## 1. はじめに

私は5月14日から6月1日までの3週間、母校である横浜市立西柴中学校で、教育実習を行わせていただきました。学級は1年生、授業は2年生を担当しました。実習の2週間ほど前に事前打ち合わせを行い、その際に、担当教諭から自分が担当する授業の範囲が2年生の歴史的分野の江戸時代であり、実習の2週目から行うことや、担当するクラスなどを教えていただきました。また、実習に際して、「自分の顔色を窺わず、君のやりたいようにやって、実習を楽しんでくれ」という言葉を担当教諭の方からいただき、その言葉を常に意識しながら実習を行いました。

## 2. 実習期間について

1週目は、2週目以降の自分の授業の参考にするために授業見学を行い、2週目は、自分の授業に加え、クラスの学活・清掃の指導・体育祭の練習の指導などを行い、その週の土曜日には、実際に体育祭に参加しました。3週目は、授業見学や授業を行い、最終日には研究授業を行いました。

実習全体を通じて、私が最も意識したことは、「できる限り長い時間生徒と接する」ということです。もちろん、教材研究などの授業の準備を疎かにしたわけではありませんが、休み時間には生徒と一緒に遊び、部活動に参加するなどして、生徒とできるだけ多く関わるようにしました。また、2週目以降は、担当教諭がクラスの生徒と毎日1人1人とやり取りをしていた、「連絡ノート」を代わりに書かせていただくことで、生徒の個性を見極め、クラスの生徒と親交を深めることができました。授業に関しては、2年生であったため、普段は関わることができず、最初は距離を感じ苦労しましたが、授業前後に生徒と雑談し、授業の内容も、生徒が興味・関心を持ってくれそうな小ネタや豆知識を盛り込むことで、授業を前向きに受けもらえるよ

うに努力することで、徐々に生徒も授業に対して前向きに授業に取り組み、笑顔で授業を受けてくれるようになりました。また、部活動では、私が所属していたハンドボール部に参加させていただきました。顧問の先生が、私がお世話になった時の先生であり、担当教諭の先生が副顧問であったため、初日から参加し、さらに、休日の練習にも参加させていただきました。部活動に参加する中で、最も感じたことは、チームスポーツにおいては、チームの弱点を克服し、強みを伸ばすために、生徒たちが自ら考え、話し合うことで、授業内では、身に着けることが容易ではない、協調性や主体性を身に着けることができるのではないかということです。この気づきを通して、私は、教えるのではなく最低限のアドバイスをを行い、少しずつ生徒たちが自ら考えて努力するよう努めることができました。実習の一日の流れとしては、朝8時前後に登校し授業を行い、午後4時ころから部活動に参加し、部活動が終わった後、次の日の授業の準備や、クラスの生徒への連絡ノートの記入などを行い、夜8時前後に学校を出るという感じでした。非常に忙しかったですが、1つ1つの仕事にやりがいや楽しみを見つけ、3週間の実習を楽しみ、非常に意義のあるものとすることができました。

## 3. 最後に

今回の教育実習では、大学での模擬授業では味わえない緊張感だけでなく、現在の子供たちの現状や、教育現場の実情を肌で感じることができました。これから、教育実習を行う皆さんは、非常に大きな不安を抱えられているとは思いますが、始めてみると、とても楽しいものです。授業づくりも大切だとは思いますが、それ以上に生徒と関わるができる時間を大事にし、皆さんが充実した時間を過ごすことができるよう願っております。頑張ってください。

## 教育実習を終えて（商業）

群馬県立高崎商業高等学校 商学部会計学科4年 中村 柊斗

### はじめに

私は平成30年6月4日から6月15日までの二週間、母校の群馬県立高崎商業高等学校で教育実習を行ってまいりました。担当クラスは1年6組で、ホームルームや簿記の授業を受け持ち、そして部活動などにも参加いたしました。

ここでは私が教育実習を通して感じたことをお話しさせていただきます。何かのご参考になれば幸いです。

### 教壇実習

教育実習が始まる前、教壇に立つということは生徒から注目されることだと思っていました。しかし想像とは裏腹に、自己紹介で教壇に上がった時ですら全員が私のほうを向いて話を聞いているということはなく、実習前に抱いていた緊張はそこでなくなりました。とはいえ、私はホームルームや科目指導で教壇に立つ際は、いかに生徒の注目を自身に向けさせるかというところに工夫を凝らし、自分のスキルを磨くとともに生徒との関わりを深めていきました。

また科目指導についてですが、指導案・板書・授業準備など様々なことを担当の先生からご教示いただきました。その中で一番重要だと感じたのは、机間指導です。先ほども申し上げましたが、初めて教壇から生徒たちを見たとき何をしているのかがよく見えました。ですから、最初の授業は机間指導のことは意識せず、演習に取り組んでいない生徒や手悪さをしている生徒などを教壇の上から注意しました。その後担当の先生に、「教壇からは生徒の様子が見えているようで見えていない」というアドバイスをいただき、半信半疑で実践してみたところ、ノートをとっているようで落書きをしている、理解して演習を黙々とこなしているようでその実見当違いな答えを書いているなど、教壇の上からではわからなかったことが机間指導により明らかになりました。それからは、板書しているとき以外、机間指導に力を入れ、集中できる授業の実現に努めることができました。

### 生徒との関わり

教育実習で生徒とかわかる機会は思ってい

た以上に少なく、ホームルームと教科指導以外でかわかる機会はほとんどありませんでした。したがって、初めの2、3日は会話をする機会がなく、担当した1年6組の生徒と二週間で良い関係が築けるかどうか非常に不安でした。その中で生徒とのかかわりのきっかけとなったのは、私の場合掃除の時間でした。はじめは漠然と清掃をこなしていましたが、比較的私語が許される環境でもある掃除の時間は会話のチャンスだと思い、教室掃除担当の生徒の一人に声をかけました。内容は検定や先生のことなどあまり中身の詰まっていなかったものですが、それをきっかけに授業やホームルームでの発問も容易になりました。私に限ったことかもしれませんが、授業のように完全に生徒が縛られた環境ではなく、清掃や部活、休み時間のように、ある程度生徒の自由が設けられている時間がかかわりのきっかけとしては有効的であると学びました。



最終日にいただいた手紙入りメイソンジャー

### 終わりに

ここまでで有用性のあるお話ができたかどうかは疑問ですが、これから教育実習に行く皆さんにお伝えしたいことは、いろいろな先生のような授業展開に触れてほしいということです。生徒として授業を受ける側だった時にわかりやすい、或いはわかりづらいと感じた授業展開を、今度は教える側の視点で見たときに、こういう発問だと理解が深まるのだろうかということや、こういう言い回しが生徒の理解を得づらいなどと言ったことが明確になってきます。これは自分が担当する教科だけではなく、全く分野が異なるものでも同じことがいえると考えられます。おそらく、教育実習でしか他分野の授業展開を観察し考察できる機会はないですので、自ら学びに行く姿勢を忘れずに、教育実習を楽しんでいたきたいと思います。

## 教育実習を終えて（情報）

私立山村学園高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 千代田 一輝

### 【はじめに】

みなさんが教職を志すキッカケは何だったのでしょうか。部活動などの学校生活から「先生」という職業に憧れなどのキラキラしたものを感じたからでしょうか、学校生活に対して自分だったらこうしたい、という熱い気持ちがあるからでしょうか。私は、以上のこと以外にも様々な理想を抱き、4年間教職課程で学んできました。

今回の教育実習体験記では、それらを踏まえた上で生徒がどのように成長して欲しいのか、何を学んで欲しいのか、そのためにはどのような指導をした方がいいのかを考え、悩んだ末に、実際に教育現場に参加して、生徒に指導をしてきたことについて述べたいと思います。

### 【実習校について】

私は5/28～6/16の18日間、埼玉県の山村学園高等学校で情報科の教育実習を行いました。ホームルームの担当クラスは特別進学クラスSAコースという進学に特化したクラスでした。実習の3週間前に担当の先生と打ち合わせがあり、大まかな指導範囲やクラスの特徴を教えてくださいました。

教育実習生とはいえ我々は教壇に立ち生徒に指導する立場となります。そのため、校長先生からは「一教師としての振舞い」を行ってほしいとご指導を受けました。



### 【教壇実習にあたって】

1週目は授業見学と教材研究の時間でした。2週目からの教壇実習では、情報処理室という生徒1人1台のパソコンが割り当てられた教室で行いました。そのため、中間モニターに映す用の授業用スライドと生徒に書き込みをしてもらうためのプリントと書画カメラで適宜中央モニターに映すためのメモの

入った教科書の3点を準備して臨みました。実習期間を通して自分は7クラスの授業を持ち、5つの教材を用意して計27回の教壇実習を行いました。

副教科という位置付けのこの教科の重要性を生徒に感じてもらうために、導入や例をできるだけ面白く、興味をそそられる内容に仕上げることを工夫しました。

### 【教育実習を終えて】

教育実習を通して生徒に一番伝えたかったことは、高校生のうちに勉強をすることの意義を自分で考える時間を取ることの重要性でした。それを伝えるため私の体験だけではなく自分の周りの大学生にも意見や話を聞き、複数の意見を生徒に披露することができました。結果として生徒が自分の夢を私に相談してくれたり、勉強に対する熱量が変わっているように感じられとても嬉しかったです。

当然のことではありますが、準備から教壇実習まで本気で取り組みました。その結果生徒が自分の授業や話に耳を傾け、授業の振り返りシートにはたくさんの意見や感想を書いてくれたことがとても嬉しかったです。さらには、実習最後に担当クラスの生徒から色紙をもらい「千代田先生が実習生で良かった」と言ってもらいました。

この教育実習は4年間の教職課程に最高の意味を持たせてくれました。全ては自分が本気で誠実に向き合うことから始まります。そのあとに相手との信頼関係をどれだけ築きあげることができるかが重要になると思います。これは、社会に出てからも必須なことだと思います。そのスキルをこの段階で培うことができ良かったです。

### 【おわりに】

教員は生徒のことを第一に考え行動する職業だと私は考えています。生徒一人ひとりに向き合い、どんなニーズがあるのかを分析して、クラスごと、もっと言えば生徒ごとにアプローチを変える必要があります。これは非常に時間と労力がかかることです。しかし、教員の振る舞いは、生徒の人生に影響を与えるだけの力があります。その影響をできる限りプラスの形で与えられるように、みなさんもこれからの教職課程での学びに励んでほしいと心から願っています。

# 教育実習を終えて（数学）

和光市立第二中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 佐藤 凌

## はじめに

私は5月7日から5月25日までの3週間、埼玉県にある母校の和光市立第二中学校へ教育実習に行ってきました。担当学年は2年生で、担当クラスは2年3組をさせていただきました。授業は1年生2クラスと2年生4クラスで数学、2年生1クラスで道徳の授業を行いました。

## 授業見学について

私は空き時間があるときは、積極的に授業見学をするように心がけていました。授業見学をすることで、クラスの雰囲気や生徒がどんなことを考えているのが観察することができます。私は実習前に模擬授業等で授業をすることはありましたが、実際の生徒に授業をする経験はありませんでした。そのため、現在の中学生が何を考えているのかわかりませんでした。そのような状態でいきなり教壇実習を行うことは不安であると同時に、生徒にも良くないことだと思いました。見学した教科は数学が多かったですが、自分の担当するクラスの外教科の授業も多く見学するようにしました。なぜなら、生徒の普段とは違う一面を見ることができるからです。教科や先生が変わると、発言回数が多くなったり、ワークシートに自分の意見をたくさん書いたりする生徒がいます。もちろんその逆もあります。他教科の授業見学を通して、なぜこのようなことが起こるのか考え、自分の授業改善に役立てることで、生徒が私の授業で、数学の授業で楽しく勉強することができるようになるかもしれません。例えば、発問の仕方や板書の方法、生徒の活動方法など、授業のスタイルに関することは、教科が違ってても勉強になることが多いポイントでした。

## 教壇実習について

私の教壇実習は4日目から始まりました。2年生4クラスのうち、教育実習の期間は、1クラスを指導教諭、残りの3クラスを私が担当することになりました。私が教壇実習をする前に、同じ単元での指導教諭の授業見学

をすることができました。板書や発問、発問に対する生徒の反応を中心に観察し、それらを参考にしながら授業を組み立てていきました。しかし、実際に教壇に立ってみると、生徒への説明や机間指導に時間がかかってしまい、計画通りに授業を進めることができなくなってしまいました。授業内で扱うことのできなかつた分は次の授業に持ち越しになり、次の授業も時間内に終わることができなくなる悪循環になってしまいました。この状況を改善するために、私は生徒への発問や説明を具体的にすることを意識しました。生徒に演習や話し合いをさせるときは、時間制限を設けて、メリハリをつけるようにしました。時間制限を設けることで、生徒は時間を意識するようになりました。生徒が短い時間で問題を解こうとする様子や、自分の意見を簡潔に伝えようとしている様子が見られるようになりました。また、生徒が活動している途中であっても授業を進めなくてはならないときがあります。そのような場合でも、時間制限を設けることで、時間の目安にすることができます。これらの結果、2週目からの教壇実習では、時間内に授業を終わらせることができるようになりました。実習期間は忙しい中で、授業内容を修正する必要があります。どのようなことでもいいので、意識して改善していくことで少しずつ成長することができました。

## 最後に

実習期間は長いようであつという間の3週間でした。実際の現場で生徒と触れ合い、授業をすることで私自身の課題がたくさん見えてきました。1つ1つ課題を改善していくと同じ数かそれ以上の課題が見つかります。実習が終わった時も課題は山積みのままでした。課題がなくなることはないと思いますが、事前準備の段階で、目標や課題、現場で試したいことなどを見つけて実習に挑むとより充実した教育実習になると思います。



2列目右から5番目が筆者

## 1. はじめに

私は4年の11月中旬に2週間小学校へ教育実習に行ってきました。学年は元気いっばいの1年生で、環境に恵まれながら非常に密度の濃い時間を過ごしてきました。私は幼少期から小学校の教員を目指し、玉川大学との連携プログラムによって免許を取得しています。ダブルスクールが開始してからは正直苦しいことも多く、同じように頑張る友人や家族、先生方の支えなしには続けられなかったかもしれません。この小学校の実習はそんな大学生生活の集大成のような気持ちで臨みました。その実習を終えて私なりに<授業>と<児童との関わり>という2つの視点でお話したいと思います。

## 2. 教材研究と授業実践から

実習前は高等学校での教育実習を5月に終えていたものの、初めての小学校での授業と予想外の1年生ということに不安ばかりで、実習中も落ち込んだり悩んだりと試行錯誤する日々でした。私は春から小学校教員になることが決まっていたこともあり、指導教諭はじめ先生方に多大なるご尽力を頂き2日目から授業実践を行うという短期集中の日程でより充実した実習となりました。

授業実践を重ねる中で改めて印象強く学んだことは、「授業は児童とつくり上げる」ということです。一見当たり前のように感じるかもしれませんが、これは確かな学級の実態把握と教員としての力量が問われるとても難しいことでした。もちろん授業前に教科書や指導書を読みこみ“単元を通して何が理解できればよいのか”、“その中でこの1時間では何を理解させればよいのか”を常に意識しながら教材研究を行い、指導案を作成してから授業をします。しかし、それはあくまでも予定で1時間ごとの授業は児童の反応や様子から大きく変化することもあるということです。それが実態に応じた指導に繋がり、より理解を深める授業展開のチャンスになると感じました。また、投げかけた発問に対して挙手をする児童が少ないのは“主体的じゃないから”と捉えるのではなく、発問が伝わっていないことやそれ以前の内容が定着していないことを表しているということも授業実践を通して学びました。

## 3. 1年2組の児童と過ごした2週間から

1年2組は本当に素直で天真爛漫な児童が多い学級で、初日からすんなりと、そして

温かく私を受け入れてくれました。その中でも私が2週間大切にすることは、児童と過ごせる時間は積極的に児童と関わり、1日に1回はクラスの全員と話すことです。小学校は全教科の授業準備に加えて、積み上がる各教科のノートやワークシートの添削などやる事が溜まっていきます。それでも短い時間でも教室にいて児童と話したり、休み時間に鬼ごっこをしたりと出来る限り一緒に過ごすことを心掛けました。

そうすることで、その日の児童の様子や一人一人の児童理解にもつながり、日を重ねるごとに児童との距離がぐっと近くなっていきました。そして時間を重ねるごとに児童側も私のことを理解していき、私が知らない学校のことを教えてくれたり、よりたくさん話しかけてくれたり、授業への意欲的な参加をしてくれたりと2週間の中で児童が助けてくれたことも多くありました。これらのことから児童と積極的にコミュニケーションを図り、お互いに信頼関係を築いていくことの意味や大切さを改めて感じることができました。

## 4. おわりに

これから校種を問わず教育実習に行く皆さんは、楽しみでワクワクしたり、私と同じように不安でドキドキしたりする人がいるかと思います。そんなときは深呼吸をして、肩の力をホッと抜くことをお勧めします。そして、学ばせて頂くという謙虚な気持ちと積極的な姿勢をもって臨めば、先生方も子どもも必ず応えてくれるのではないかと私は思います。もし皆さんが将来教員になったとしても、教育実習生という立場で学べるのは一度きりです。皆さんが悔いのないよう精一杯楽しみ、実りある実習期間を過ごせるよう心から祈っています。また、私のこの教育実習の話が少しでもお役に立てれば幸いです。



算数の授業中「誰に答えてもらおうかな」

「介護等の体験」という言葉を聞くと、多くの方が、その施設の利用者の方の生活介護を行うことであるとイメージされるのではないだろうか。私も、その1人だった。しかし、今回の7日間で私が想像していたイメージは大きく変わり、同時に非常に多くのことを学ぶことができた。今回は、社会福祉施設での5日間、特別支援学校での2日間の体験についてまとめていく。自分が体験を通して、実際に感じたことを伝えることが求められていることであると理解しているため、文章の中にマイナスのイメージを持つ言葉を使用してしまい失礼な表現になってしまう部分もあるが、その点に関しては、ご理解をいただきたいと思う。

## 1、特別支援学校

特別支援学校では、私は高校3年生のクラスの担当となった。クラスの人数は、男子6名、女子2名の計8名のクラスであった。私が配属されたクラスは、比較的重度の障がいを持つ生徒たちであり、体験当初はコミュニケーションをはかるのが困難であった。体験を通す中で、徐々にクラスの生徒たちとも距離を縮めていくことができた。今回の体験を通して、私は大きく学んだことがある。それは、「特別支援学校に通う生徒たちと私には殆ど差異がない」ということである。話を理解するのに少し時間がかかってしまったり、自分の意思を相手に伝えるのが多少困難であったりはするが、喜怒哀楽を全身を使って表現したり、授業の中で与えられた課題に対して、非常に熱心に取り組んでいる姿がみられた。大変失礼な表現になってしまうが、私たちはつい、なんらかの障がいを持った方々をみかけたりする際に、「大変そうだな」、「辛そうだな」というような先入観を抱いてしまいがちである。私も、そんな考えを持つ1人だった。しかし、生徒たちは、非常に楽しそうに毎日の学校生活を過ごしていた。今思えば、そんな考えを持っていた自分が非常に恥ずかしく感じる。「今日の給食はなにかな」、「今日の体育はプールだ!」というような、

いかにも学生らしい生き生きとした姿を私にみせてくれた。そんな生徒たちの明るい姿に私も元気を貰った。大切なことを気づかせてくれた生徒たちに、この場を借りて改めて御礼をしたい。本当にありがとう。

## 2、社会福祉施設

社会福祉施設では、主に自分よりも上の世代の方と交流することが中心であった。若くて自分と同年代の方もいる一方で、70歳を超える方々との交流もあった。体験の中心となったのは、午前中は主に利用者の方と一緒に軽作業を行い、午後は金銭管理や趣味の時間にお邪魔させて頂くという流れであった。社会福祉施設の体験で、私が大きく学んだことは、利用者の方々の自立に向けた強い姿勢である。午前中は仕事、午後は自己管理、私生活もいくつかの制限はあるが、基本的には自由に行動することができる。つまり、殆どの方が職員の方の支援を頼りにすることなく、自立に向けて毎日の生活を送っているのである。また、交流を通して、非常に多くの年代の方とお話をする時間を設けていただいたが、どの方も、しっかりとした明確な目標を持っており、その意思を私に伝えてくださった。「社会福祉施設」という環境の中であっても、利用者の方1人1人の意思の強さ、懸命に毎日過ごしている姿に、私は多くの元気を頂いた。

## 3、体験を通して

今回の体験を通して、私は自分の中にあった誤った固定概念を取り払うことができたように感じる。それは、体験を通さなければ理解することが難しい、「特別支援学校」や「社会福祉施設」の方々と直接交流をさせていただくことで、自分が知らなかった1人1人の思いの強さに気付くことができたことである。これは、体験をしなければ、伝聞では決して理解できるものではないと私は思っている。最後に、今回の体験に関係した全ての方々に、この場を借りて御礼を申し上げたい。

## 1. はじめに

教職公開講座に出席し、改めて教員になることに対し向き合えたと感じる。出席する前は、自己の課題として「教員」という職業選択は自身が持つ憧れだけで目指していいのが疑問であった。自分に教員という職業が向いているのか、自分で思い込んでいるだけなのではないかと様々な不安があった。



## 2. 先生方の話のなかで印象に残ったもの

ある先生は、お話の中で「小学校の教員になりたいという強い志のもと教員になった」とおっしゃっていた。憧れだけではなく、強く志すことが必要不可欠であることを再確認した。また、実在する先生に憧れたり、ドラマの主人公になりたいと思うことも重要だが、生徒が求めるニーズに応えられる教員になることが重要だとも学んだ。理想の教員像だけでは、生徒との心のつながりや直面する課題に真正面から向き合うことができないだろう。私自身、高校の恩師に憧れている部分もあり、ドラマに登場する金八先生のような人情深い教員にもなりたい。だからこそ、教員には、生徒のニーズを見極められるよう努力し続けることが求められる。

最も印象に残ったものとして、「教員の仕事はどんな仕事よりもブラック企業であることは間違いない。しかし、子どもの成長が一瞬の出来事でもうれしく、そのうれしく思う気持ちが大切。」という言葉である。当たり前のように感じられる喜びは当たり前ではなく、特別であることを認識しながら教員という職業に向き合わなければならないと感じた。

先生方から提示していただいた資料の中

に一日のタイムスケジュールが記載されていたが、毎日が怒涛の流れであることが分かった。しかし、ブラック企業だといいながらうれしそうに話す先生方の様子を見てみると、「労働時間や拘束時間が長いからブラックである」と言い切るのには間違っているように感じた。子どもの成長が手に取るようにわかる職業は他にはなく、唯一無二のやりがいのある職業であると感じた。

## 3. 新たな課題

新たに生じた課題として、インクルーシブ教育をどのように行うべきか、という点である。日本国内でもグローバル化が進み外国から日本へ転校して来る子どももますます増えてくる。また障がいのある子どもが学級にいる場合もあるだろう。その際に、どのように学習を進めていくべきなのか模索する必要がある。一人の子にだけ向き合うのではなく、学級全体で対応できることも同時に考えなければならない。自分が担任を持つ前に、少しでもその方法を獲得し、皆が安心して過ごせる教室を提供できるよう心掛けたい。



## 4. おわりに

今回の「教職公開講座」に出席して最も学んだことは、「教員」という仕事は子どもの成長を見届けるだけではなく、後押しする役割も持ち合わせているということである。しかし現状では、子ども一人ひとりに合ったサポートをするための体制が整ってはおらず、今後も教員の多忙化はしばらく続くように感じた。だからといってあきらめるわけではない。さまざまな課題を同じ学校の先生方や大学生活で得た仲間と共に解決し、子どもを育てる楽しみや喜びを感じられる教員に私は就きたい。

## 1. はじめに

このページを読んでくれている皆さんに伝えたいことがあります。教育学会での知見は、皆さんが将来教育に携わるか否かに関わらずどこかで役に立ちます。寝ていたら損だということです。

専修大学教育学会は現職教員のOB・OGを中心に教育について見識を深める場として、例年、本学教授や外部講師による講演会と現職教員による研究報告会があります。教育学会では、教育現場の複雑さ・大変さ・やりがいを知ることができるとともに、子供や社会と関わっていく際にどのような点に注意すればよいか考えることができます。

## 2. 講演会について

今回は本学人間科学部の村松<sup>つとむ</sup> 励教授から、「生徒の問題行動の理解と指導」について講演していただきました。生徒の問題行動を心理学の観点や統計データから分析・理解し、その支援をどのように行っていくか述べられていました。私自身、心理学には興味があるものの、問題行動を起こす生徒の心理を勉強する機会はほぼ無かったので、貴重な講演を聞くことができ勉強になりました。その中でも2点印象に残ったことがあります。

1点目は非行を行う生徒の特徴の変化です。従来は集団で暴走するなど大人への反抗を前面に出すような非行が多かったのに対し、現代では単独でひっそりとした非行が多くなりました。非行問題が発覚した時、何でこの子が？と思うような生徒が増えているのです。また、集団非行の場合、集団内でのルールを守るよう徹底されており、非行問題発覚後に本来のルールを守ることへの適応能力があるのに対し、単独非行ではその適応能力が低いとの統計も示されており驚きました。

2点目は学級内での“キャラ”の問題です。今、学校現場では生徒の“個性”に目を向け個別に指導していくことが求められています。本当はいじられたくないがクラスでの居場所を失うのを恐れ、いじられキャラを演じるという生徒は楽しい学校生活を送れません。教員がキャラを個性と誤認識すると指導方法も不適切になり、キャラが原因でいじめや不登校、非行に発展すると対応も複雑になるため、個別に指導することの大変さを感じました。

発見しにくくなった現代の問題行動には、教員が生徒の声を聴くとともに家庭・警察・ソーシャルワーカーなどと連携して指導して

いく姿勢が求められていると村松教授は述べています。



## 3. 研究報告会について

今回は小・中・高それぞれ1人ずつ、現職教員の方から「コミュニケーションの変化に伴う教育現場の対応」について実践報告をしていただきました。どの先生方も現在の児童生徒のコミュニケーションの特徴や傾向に合わせて対応を工夫されていることが分かりました。児童生徒はもちろんのこと保護者へのインターネット教育の実施・対面的コミュニケーションを増やす工夫・教員自身がSNSやICTを使いこなすことなど対応の糸口はさまざまでした。

先生方の研究報告会を総合して感じたことがあります。それは、現代の児童生徒は私たちが思っている以上に多くの時間を非対面的コミュニケーション（SNSなど文字を使った表情の見えないやりとり）で過ごしているということです。そこでやりとりが教員に見えにくくなっていることから、児童生徒間のトラブルの発見が難しくなっています。しかし、私はそれは何も学校現場に限らないことなのではないかと考えました。私は日頃、ちはやふるで有名な競技かるたの練習会に参加しています。地域の練習会に行くと、多くの小中学生と関わる機会があり、彼らが自分用のスマートフォンを持っていることも珍しくありません。練習会に来る小中学生の間でSNSによる喧嘩があったことを思い出し、教員だけではなくこのような場に関わる大人でもコミュニケーションの変化に対応していく必要があるとはっとさせられました。

## 4. おわりに

問題行動を起こす少年少女の心理や現代の児童生徒のコミュニケーションの変化を知ることができました。今回得られた知見をもって、今後子供や社会と関わっていきたいと思います。

## はじめに

教職実践演習とは、教職課程4年間の総仕上げとして教育実習後の後期に履修する科目です。私は、神山安弘先生の授業を履修しました。この講義のねらいは、変化の激しいこれからの社会において、あらゆる教育課題にどのように向き合っていく必要があるのか、目の前の子ども達の変化とどのように関わるべきなのか、講義や議論を通して考えを深めていくことです。

90分間の授業では、前半に教育課題の現状を講義型で学習し、後半にその教育課題について各グループに分かれ、仲間と共に議論を行いグループごとに発表することで、意見を共有しました。また、授業の中で、現職の校長先生方から、実際の学校現場での現状や教育課題を伺う機会もありました。そのため、身近な事柄をより深く学ぶ、実践的な学習の時間でした。

## 教職実践演習から

私はこの教職実践演習を通して、教員になるという強い意志を持つことができたと感じています。また、改めて自分自身の教育観を考え、軸となるもの、理想の教師像を見つけることもできました。その中でも特に私が大事にしていきたいと思うことは、3つあります。

1つ目は、常に学び続ける教師であることです。なぜなら、毎日様々なことが起きる社会の中で、1人の教育者として子ども達と関わる際に自分自身を変えられないままでは、対応できないことがたくさんあるということ。この講義を通して感じたからです。特に、授業内でのグループワークで話題にした教育課題（部活指導、不登校、学力テスト等）は多種多様な意見が出て、改めて色々な観点から物事を捉え、考えながら実践することの大切さを学びました。

2つ目は、授業を支える学級経営を大切にすることです。なぜなら、子ども達の居場所となる学級経営こそが、個人と協働の学びの力を育てる土台になるからです。特に、授業見学に行った学校では、グループワークを円

滑に行い、生徒参加型の授業が行われていました。その背景には、自分という存在がクラスで認められているという安心感と、他者の意見を認められる環境作りがされており、改めて学級経営の大切さを実感しました。また、この講義を通して、子ども達の学びの力を最大限に伸ばすために、一人一人が活躍できる居場所となる学級経営を大事にしたいと思いました。

3つ目は、子どもの可能性を追求し、信じることです。神山先生は講義の中で「10回の指導が駄目でも、11回目の指導をすること」とおっしゃっていました。たとえ子どもに何度裏切られたとしても、決して切らずに見捨てない姿勢で日々子ども達の声に耳を傾け、子ども達と向き合う姿勢を大事にしていきたいです。

## 最後に

教職実践演習の講義を通し、多くの先生方から話を聞く機会をいただき、たくさんのことを学ばせていただきました。それはまた、自分自身の教育観の軸を確立すると共に、今教師に求められていることはどんなことであるか、学校や教師の役割について、改めて考える機会でもありました。この場をお借りして、教員を目指す私達学生に、熱い言葉で教員という仕事のやりがいを指導してくださった先生方に心より感謝申し上げます。そして、この教職課程を取ったことで多くの先生方や仲間と出会えたことは、何より大きな財産です。教師という仕事は、人との繋がりがとても深いように感じます。この仕事を通して、私は色々な人と出会い、子ども達の人生の一部に関われること、繋がれることを喜びに、人との繋がりを楽しめる自分でありたいと思います。そして、学び続ける姿勢を大事に、この4年間の教職課程で得た自分の目指す教師像を忘れず、今後も努力していきたいです。



「教職実践」の授業で発表する筆者

# 教科研修生体験レポート

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科3年 諸星 晴彦

私は2018年9月から神奈川県立百合丘高等学校に教科研修生として参加させていただきました。毎週木曜日の2限目「社会と情報」という授業に参加させていただきました。

私が教科研修生に応募した理由は、教員を目指すにあたり実際の教育現場でどのように授業が行われているのか自分の目で確かめたいと思ったからです。現場の先生の授業を直接見ることで、どのように授業を行えば良いのかを学ぶことができると考えたからです。また、先生がどのような授業を行っているだけでなく、実際の高校生はどのような生徒なのかも自分の目で確かめたいと思ったのも理由の1つです。授業を行う上では、生徒と一緒に授業を作り上げることが重要なことであり、そのためには実際にどのような生徒がいるのかを知ることが必要だと考えたからです。

情報の授業なので、基本的にパソコン室での授業でした。そのため研修では、机間指導を中心に行い、わからないことがあった生徒からの質問などに答えるということが多かったです。実際の生徒を相手にしているので、間違っただけなどを教えることは許されず、強い責任感を持って研修を行いました。

研修を通して、自分が生徒として授業を受けていた高校時代や大学で模擬授業をしたりするだけでは気がつかないことに多く気がつくことができました。百合丘高校の社会と情報の授業では、担当の先生の他にティーチングアシスタントの先生がおり、先生が2人体制での授業でした。そのためティーチングアシスタントの先生にどのような役割があるのかを知ることができました。情報の授業ではパソコンを使って作業をする中で遅れてしま

う生徒がどうしても出てきてしまいます。そういうときなどに、ティーチングアシスタントの先生にサポートをお願いしているのが印象的でした。また、印象に残っていることとしては生徒主体の授業が行われていたことも挙げられます。授業の中でわからないことなどは生徒同士で積極的に話し合い、活動に取り組んでいることが印象的でした。パソコンを使用しての個人作業が多くなってしまいう中で、生徒同士で積極的に話し合いを行える雰囲気を作ることが大事なことだと思いました。

研修では他の授業の見学をする機会も設けられました。自分の専門の教科でなくても授業のやり方は参考になる部分がありました。印象に残っているのは英語の授業で、ペアワークを中心に行っており、授業にとっても活気がありました。そういった部分は自分が授業を行う上でも参考にしようと思いました。

研修の反省点としては、もっと積極的に生徒とコミュニケーションをとるべきだったということが挙げられます。研修は週に1回のみで、生徒とコミュニケーションをとる時間があまりなかったということもありますが、授業前の休み時間に早くパソコン室に来た生徒に自分から積極的に話しかけることなどはできたので、そういうことをもっとやっておけばよかったと感じます。生徒と一緒に授業を作り上げるためにはコミュニケーションがきちんと取れていないといけないと思うのでそういう面でも生徒とコミュニケーションを積極的に取る必要があると思います。

4年生になったら教育実習があり、教育実習の前にこうして実際の現場を知り、新たな発見や反省点などに気がつくことができたことはとてもよかったです。今回の研修での発見や反省点を生かして教育実習に臨みたいと思います。

とても短い期間でしたが、実際の現場を知ることができ、この研修はとても有意義な研修になりました。そして、実際の現場を知ることにより教師という仕事に魅力を感じ、改めて教師になりたいと感じました。今回の研修でお世話になった方々にはとても感謝しております。ありがとうございました。



授業で制作された作品

私は7月12日から毎週木曜日に川崎市立南生田中学校でボランティア活動（部活動指導）を行っています。このボランティア活動を始めたきっかけとしては大学での教職の授業を受けている中で校長先生の経験がある方からの言葉があったからです。それは、「大学の授業を受けているだけでは分からないことがある。だから、教育の現場でしか分からないことを知ることは大事なんだ」という言葉でした。その方にとっては何気ない一言であったかもしれませんが、自分自身が想像していることと現在の教育現場は何が違うのだろうかという疑問を持ちました。しかし、私は中学社会と高校の地理歴史、公民、商業の計4つの教員免許の取得を目指していることから時間割にあまり余裕がなく、南生田中学校の校長先生と話し合った結果、今年度は部活動指導のボランティア活動を始めることになりました。

このボランティアを始めるにあたって、私は身だしなみやマナーなどはもちろんのこと、生徒と同じ目線になって接するということが心がけました。その上で学んだことや気づいたこと、苦労したことなどを知り得たことで、今後の自分には何が必要であるのかが、以前より明確になったと強く感じています。

現在、南生田中学校では放課後、校庭で5つの部活動が活動しており、その中で私は野球部の部活動指導をしています。平日は1時間半程度の練習であることや、多くの部が活動していることから時間も場所も限られており、満足な練習が出来ない中でどのような指導をしてあげたら良いのかと悩みました。そこで私が心がけたのは生徒（選手）の立場になって考え、とことんその物事について話し合うことでした。例えば、私が気になったプレーがあった際には「今のプレーはどのような意図でやっていたのか」とその生徒に聞いて、自分の考えを伝えた上でこのようなやり方もあるのだと共有することでお互いが学んでいくことを特に力を入れて行ってきました。

このことから私は気づいたことがあります。それはこのような指導をするにはまず、生徒の目線になって考えなければ、生徒が思っていることを感じ取りにくいということです。現在、多くの企業が新入社員に求める能力としてコミュニケーション能力が最重要

視されていますが、それは教育の現場であってもとても重要なものであると気づきました。また、コミュニケーションを積極的に取っていくと次から会った時に「こんにちは。」と生徒の方から言ってくれたり、大会で強い相手と戦うことになった際にアドバイスを求められたりするようになり、コミュニケーションの大切さを改めて学びました。積極的に生徒と会話してきたことがこのようなことにつながったのではないかと考えています。



練習後のミーティング

しかし、このボランティア活動で苦労したことも生徒とのコミュニケーションでした。私はこのボランティア活動を行う時に自分から進んで話しかけることを心がけていましたが、初対面の人に話しかけられると緊張をしてしまうのか、黙って行ってしまったり一人でいることが多い子などがおり、コミュニケーションの取り方について考えさせられました。そのような中で一人ひとりとコミュニケーションを取ることがこんなにも難しいのかと改めて実感しました。その一方で、自分から話し続けることが生徒の心を開く近道だと学びました。

私は今回のボランティア活動で多くの経験をしたことで「教育の現場でしか分からない」ことが少し分かったように感じています。そのため、来年度以降から部活動指導だけではなく、生徒に勉強も教えたいと考えています。これらからさらなる学びを得て、これからの人生に活かしていけるように日々努力を重ねていきたいと強く思っています。このような貴重な体験をさせて頂いた川崎市立南生田中学校の先生方、生徒の皆さん、様々なご支援をくださった大学関係者の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

教員となるまでに経た歳周りよりも、教員となってからの歳周りのほうが長くなった。愕然としているうちに退職辞令を拝命した。自分とほぼ同時期に誕生した専修大学松戸高校の歴史に、現時点で半分ほど関わったことになる。気恥ずかしさと誇らしさの中での再任用は、少なくとも自分には有難い。そうした中、この夏に昭和末の卒業生から結婚披露宴に招かれた。まさに人生100年の時代、次の半世紀にむけスタートを切ろうという。初婚の女性である。人生、いろいろ。招待状にはダメもとで学校宛に送りましたと書かれていた。公立学校の異動原則を考えれば、年賀状のやり取りでもしていない限り教員との連絡は困難である。だが、私立学校の場合、そうとは言い切れない。新しい家族を連れて学校説明会や文化祭などに顔を出してくれる卒業生もいる。親子二代で担当をすることもある。自分の母校に誇りを持ち、選択肢の一つから入学と卒業を親子で果たしてくれる人たちの存在は、学校の歴史と教員自身の誇りである。



公立校と私立校との違いは応募の段階で個々の学校を知るところにあらう。私立学校には建学の精神が、その学校の置かれた歴史と共にある。旧制中学から新制高校への移行、創立から中学や高校の併設など、学校説明会で述べられる様々な事柄から独自性が感じられ、実に興味深い。公立学校のような異動がないところに私立学校の特色がある、とはよく言われる。しかし、定年制度もあるし、実際には多彩な職歴のある方々で構成されている。もちろん、自分のように同じ現場に居続けることが偉い訳ではないし、専修大学松戸高校もその時代ごとで状況に応じた変化を

遂げている。年代によって学校の印象さえ異なるのはごく自然のことだ。学校を構成する生徒は入学や卒業を通じ、教職員も発生業務も様々な事情で動いていく。それが学校の歴史となる。

近年の教職課程では、専修大学を筆頭に模擬授業や授業構成、指導計画の作成から生徒とのレスポンスの展開など、実に丁寧な指導がされている。教材作りに不可欠なパソコンの扱いなど、学生時代で体得すべきスキルになった。しかし、実習で現場に立ち、その使命や役割の大きさを実感して各種採用試験に臨む点は、今も昔も変わらない。縁あって教育現場に立つと、学校組織は各自の思いを持つ教職員と生徒や保護者によって構成されている。それらの思いが一致すれば、学習指導案なりライフデザインは成功なのだろう。しかし、現場を構成する四つの立場は、どこもそう互いの腹案の通りにならない。教育職員を目指す人々は、現場が近づくにつれ自分の思いが膨らむ。そして現場で思いの叶った喜びもあれば、打ち砕かれた挫折もある。指導案はあくまで案であり指導計画は所詮計画でしかない。そして現場に立てば、現実自分と生徒が、保護者や同僚たちがそこにいる。

小学校の場合はまた別格だが、中学・高校は教科単位での指導となる。そしてどの教科でも、教員は自分の担当教科に誇りを持って臨む。それは教職課程選択時から必要なことであろう。芸術や保健体育など実技教科の体得感を筆頭に、その教科ならではの学ぶ喜び、アルキメデスが叫んだような「エウレカ！」が必ず存在する。誰しも入浴時に積年の課題が解けるとは思うまい。こうした意外性も醍醐味といえよう。教員なら誰でもいう。教えることは教わる事であり、学ばせることは学ぶことだ、と。「面倒臭いから面白い」と言う人もいる。至言である。相手のあることで、始めから自分の思い通りだったら相手と関わる必要もないし、人を操作しようなど不遜なことではないか。大学での教壇実習はもちろん、現場での実習期間で得られるものは非常に大きい。教職課程を選択した皆さんには、そこで得られたものを糧にし、更に次のステージにつなげていかれることを願うばかりである。

# 司書・司書教諭・学校司書課程



図書館本館（生田キャンパス 9号館）

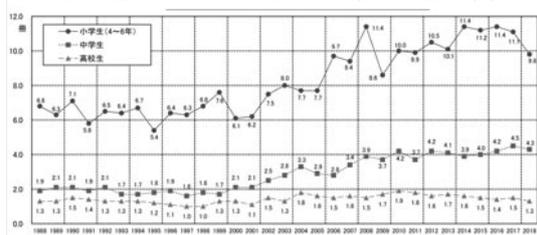
# 子どもの読書と学校教育

ネットワーク情報学部 兼任講師 竹村 和子

「あなたが今読んでいる本は、何ですか?」「ここ1か月で、何冊本を読みましたか?」「児童生徒におすすめの一冊は、何ですか?」と問われて、どんな回答をしますか。

公益社団法人全国学校図書館協議会は、毎日新聞社とともに毎年「学校読書調査」を実施し、機関誌『学校図書館』や毎日新聞の紙面で公表しています。そのデータや分析結果は、テレビやラジオ、新聞や雑誌などのマスメディアをはじめ、様々なところで取り上げられています。

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



近年は、高校生の不読率が問題になっています。勿論、高校生の中には読書が好きで、幅広い分野の本を読んでいる生徒、月に何冊もの本を読んでいる生徒がいることも事実です。受験に関係してくるので、必要に迫られて読んでいる生徒もいるかもしれません。読む生徒とそうでない生徒が両極化しているのです。今、国も自治体も、高校生の不読率を解消すべく対策を講じているところです。

不読者は、高校生だけでしょうか。児童生徒に本を手渡していく側の教員は、どうでしょう。大学生は、どうでしょう。「実は、読書があまり好きではないので」とか「忙しくて読む暇が無いので」という回答も耳にします。

確かに教員の仕事は、日々の授業だけではありません。部活動、生徒指導、その他校務分掌上の仕事があり、労働時間や働き方などについて見直しが必要であることは、最近のマスメディアでも報じられ、文部科学省も対策を立てようとしています。

国語の教科書には、「読書への誘い」として、数多くの本が紹介されています。多忙な教員であっても、教材研究の時や授業に臨む前に、これらの本を手に取り、ざっと目を通しているはずで

2001年12月「子ども読書活動の推進に関する法律」が制定され、第2条に「子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付

けていく上で欠くことのできないものである（以下省略）」と規定しています。この法律の第8条に基づき、国は、「子ども読書活動推進基本計画」を、第9条により地方自治体は、「子ども読書活動推進計画」を策定しています。4月23日が「子ども読書の日」と定められたのも、この法律の第10条によるものです。

2002年に、第一次基本計画。2008年に第二次基本計画。2013年に第三次基本計画が策定されています。第三次計画で目標とした進捗での改善が図られていないことなども課題となり、第四次基本計画では、読書習慣の形成に向けて発達段階ごとの効果的な取り組みの推進。友達同士で本を薦め合うことなど読書への関心を高めるための取り組みの充実、スマートフォンなど情報環境の変化が子どもの読書に与える影響の把握・分析などが盛り込まれ、2018年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。基本計画は、策定しただけではなく実際に取り組まなければ意味がありません。

では、「読書」とは、何でしょう。何を読むことをイメージしますか。現職の教職員を対象としたある研修会で問ってみました。「小説や物語を読むこと」という回答が大半でした。皆さんは、いかがでしょうか。

では、タブレット端末などの電子媒体でこれらを読むことはどうでしょうか。デジタルネイティブの児童生徒にとって、媒体の違いは、意識するものではないかと思えます。

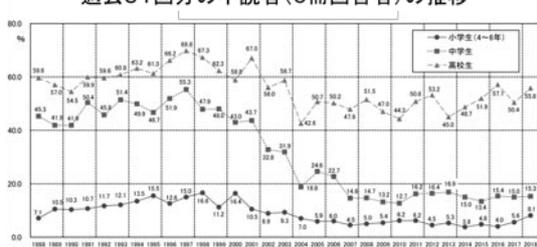
2008年2009年版の学習指導要領中学校国語科「C読むこと」には、「ここでいう「読書」とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。そして、



それらの本や文章などから得た内容を「情報」としている。」と、文化審議会答申を受けた文言が記されています。

文学的な作品の登場人物を通して、様々な人々の生き方や考え方を追体験し、共感したり反発したりしながら、他人の気持ちを理解し、自らの価値観を形成していきます。また、感性の育成にもなります。論説文や説明文を読むことで、筆者や自分と対話をしながら読み進め、新たな知識を得ることができます。自らの考え方を再認識したり、考えを深めたり、自己の成長へと繋がっていきます。

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



2008年に改正された「学校教育法」第2章義務教育第21条第5号には「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基本的な能力を養うこと」が明記されています。努力目標ではなく、達成目標なのです。また、2005年7月に制定された「文字活字文化推進法」第3条第3項では、「学校教育においては、すべての国民が文字・活字文化の恵沢を享受することができるようにするため、その教育の課程を通じて、読む力及び書く力並びにこれらの力を基礎とする言語に関する能力（以下「言語力」という）の涵養に十分に配慮されなければならない。」と記されています。

阪本一郎は、1960年頃から既に、「読書は教育課程（カリキュラム）と切りはなされた領域としてではなく、学校教育計画全般と関連して重視されるべきだ」と述べています。滑川道夫は読書教育について、「広く読書に関する生活指導であると思っている。つまり児童生徒が現在および将来の生活の中で必要とされる読書に関する態度・習慣・技術能力を指導することである」と言っています。

学校教育において読書は、教育活動の一環なのです。ですから、優れた読み手を育てるために、読み方のskillを身につけさせることも必要なのです。例えばLiterature circleは、1990年代アメリカで研究実践され、近年では日本でも取り組まれている読書指導法です。さらに、情報を受け取るだけではな

く、本を読み、著者の考えや情報を読み解きながら、自分の考えを形成していくような、能動的な読み（Interactive reading）が求められています。

さて、これまで読書の重要性について述べてきましたが、では読書の指導は、誰が担うのでしょうか。司書教諭や学校司書など、学校図書館担当者でしょうか。国語教員でしょうか。否、全教員が、指導するものなのです。その指導を支えるのが学校図書館なのです。黒沢浩は、「読書教育の実践としての読書指導は、学校図書館を基礎にしてはじめて実践できる」と述べています。学校図書館の意義、役割、重要性については、様々な先人たちが異口同音に申していました。

今求められている「主体的・対話的で深い学び」を展開していくために、学校図書館の存在が不可欠であることは、改めて述べるまでもありません。知識を得ることだけではなく、その知識を使って実社会と関わり、どう生かしていくかが大切になります。そうした学びを支えることができる学校図書館メディアは、果たして十分に整備されているのでしょうか。

残念ながら、自治体による意識の温度差は否めません。そこで、今、学校図書館の館長である校長のリーダーシップが強く求められています。既に校内研究の中心に、学校図書館教育を掲げ、教科教育の年間指導計画などにも位置づけて実践している学校も多くあります。教材準備の資料の確保、児童生徒の多様なニーズに応えるために、図書予算をどう捻出するか、試行錯誤しているところもあります。

国は、2017年に第5次の「学校図書館図書整備等5か年計画」を策定し、地方交付税措置をしています。しかし、使いみちが自治体の裁量である交付税措置ですので、学校図書館の図書購入などとしてきちんと予算化されなければなりません。学校、PTA、学校評議員や地域の人々、議員などからの予算化要求をしているところもあります。

専修大学の大学図書館には、豊富な資料があります。神田校舎近くの千代田区立図書館には、ユニバーサルデザインの資料もあります。神保町といえば古書店街。「本」に関してこれほど恵まれた大学はそう多くないでしょう。未来を担う児童生徒のために、これから教員、司書教諭を目指す学生の皆さんに大いに期待したいです。

# 図書館実習を終えて

私は8月7日から20日のうち10日間、栃木県宇都宮市にある宇都宮市立中央図書館で実習をさせていただきました。宇都宮市には中央、東、南、河内、上河内の5つの図書館と、17の生涯学習センター図書室・図書館ブランチがあります。中央図書館は各図書館とセンターを束ねる中央館の機能を担っています。また、他館からの返却本や相互貸借資料を各図書館に配送する中継地点としての役割、障がい者サービスにおいて中心的な役割を果たしています。



宇都宮中央図書館入口

10日間で、図書館で行っている多くのサービスや業務について詳細な説明をいただき、とても多くの業務を体験させていただきました。その中で特に印象的であった3つの事について書かせていただきます。

1つ目は搬送作業です。これは、相互貸借で貸出され返却された本や予約の入った本を、一度中央図書館に集め、配送先の図書館ごとに振り分け、箱詰めをしてまた搬送する作業です。毎日午後、多くの本が運ばれてきます。運ばれてきた本を各図書館ごとに振り分けた後、予約本と返却本にわけて箱詰めしていきます。その際、各図書館に搬送する本を傷つけないよう、端から形の大きい順にそろえて詰めていきます。中継地点となる中央図書館ならではの仕事であると感じました。

2つ目は排架作業です。毎日やらせていただきましたが、ただ排架するだけではなく、利用者が快適に利用できるように正確に排架をする必要があります。1階の一般書架の場合には広いフロアをあちこちと多くの本を



排架の前に本を整理

持って移動するため、体力が必要であり、終わった後にはどっと疲れを感じま

した。また、利用者に請求された資料や予約資料を探す際にも、正確な場所がないと普段より探す時間がかかったりします。利用者目線でも業務をする立場でも正しく排架されている事は重要であると、直に感じました。



予約本を探す

3つ目は6日目にお話を伺った障がい者サービスについてです。中央図書館で点訳・音訳校正指導員をしている、宇都宮市視覚障害者福祉協会会長でご自身も視覚障がいをお持ちである小池上惇さんと障がい者サービス担当の職員の方から、お話を伺いました。中央図書館で提供されている障がい者サービスの内容以外に、点字の歴史や視覚障害を持つ人の生活についても詳細に説明をしてくださり、また、普段使用している音訳資料再生機器について機能や使い方を実際に操作していただきながら解説していただきました。視覚障がいをお持ちの方とお話しすることも初めてであり、なにより実際にサービスを受けている方からサービスの良さや改善点を聞いたことはとても勉強になりました。初めて知ることとても多く非常に刺激を受けました。

これらの他にも、幼児向け・小学生向けおはなし会や発明王エジソンについての子供向けのイベント、選定会議の様子を見学させていただきました。

中央図書館の実習以外に、初日に宇都宮東図書館、3日目に宇都宮南図書館を見学させてもらう事ができ、職員の方に丁寧な概要や業務の説明・案内をしていただきました。各図書館で力を入れているサービスや収集する資料方針の違いや図書館ごとの雰囲気の違いを感じることができ、とても刺激的でした。

10日間の実習で、利用者目線や普段の授業を受けているだけではわからない、図書館で働く楽しさ、実際の現場の様子、苦労や問題点などを肌で感じる事ができました。現場で働いてみて、実際に働く職員の方と話す機会もあり、これまで以上に図書館や司書について深く考える機会であったと感じました。

最後に、お忙しい中、実習を受け入れてくださり密なスケジュールを組み、指導してくださいました職員の皆様方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

# 卒業生から 採用試験体験記&学校図書館での仕事について

神奈川県立相模原総合高等学校 学校司書 河村 知佳 (平成26年度文学部日本語学科卒業)

昨年の司書課程懇談会で、4年間受け続けた採用試験のお話をしました。その時の内容をここにまとめます。また、現在の学校司書としての仕事内容についても触れます。

## ■司書正規職員への道

私は大学在学中から司書の正規職員を目指して採用試験を受けていました。昨年、4度目の挑戦で神奈川県の採用試験に合格し、現在は学校司書として県立高校に勤務しています。嘱託や契約社員などで図書館に勤めながら、独学で公務員試験を受けていました。合格した年に特に大事にしていたのは情報収集です。①求人情報②受験先の情報③試験に役立つ情報の3種類に分けて説明します。①は最も重要で、どこで司書の採用が実施されるのかという情報のことです。希望する自治体のHP、日本図書館協会HP、ツイッターなどをこまめにチェックしておくとうれしいです。②受験する自治体が決まったら、その自治体の情報を集めます。月に1~2回程度発行される広報紙(県のたよりなど)は必ず目を通した方がよいです。また、受験する自治体の図書館には可能な限り足を運ぶことをお勧めします。



入口からの眺め(相模原総合高校図書館)

隅々まで観察して、良い点と改善点を見つけておくと、ESの作成時や面接の際のネタになります。③模試の情報を把握しておくことも、計画的に試験勉強をする上では重要になります。人気の模試(教養試験模試と論文模試がセットになっているものなど)はすぐに予約がいっぱいになるので注意が必要です。もちろん、情報収集だけでなく試験勉強も重要です。予定を立てて、計画的に進めてください。また、「司書を目指したきっかけは?」という質問への答えを必ず用意しておいてください。私が受けた全ての面接試験でこの質問をされました。

## ■学校図書館での仕事

現在の職場である神奈川県立相模原総合高

等学校は、全日制的総合学科です。多様な選択科目が設けられ、生徒は卒業後の進路希



上階からの眺め(相模原総合高校図書館)

望に応じた学習に取り組んでいます。また、開校以来続いている朝の読書活動が評価され、平成28年には「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学省表彰を受賞しました。そのため、朝読書の本を求めて来館する生徒や、「何か面白い本ない?」といったレファレンスがよく寄せられます。また、本校は生徒によって時間割が異なり、空き時間を図書館で過ごす生徒が多くいます。そのため、図書館には開館から閉館まで常に生徒がおり、活気のある雰囲気の特徴です。課題や進路・受験に関するレファレンスは、この空き時間の際に受けることが多いです。また本校では、図書委員会の生徒や図書館友の会という同好会の生徒たちに、装備や配架などのお手伝いをしてもらっています。新米司書の私を支えてくれるありがたい存在です。このように、生徒と接することのできる点が、学校で働くことの最大の魅力だと感じています。

## ■合格のその先へ

採用試験に合格してからが本番です。ようやく司書としてのスタートラインに立てた喜びで、たいていのことは乗りきれます。学校司書は一人職場で不安なことも多いですが、生徒や先生方が助けてくれますし、他校の先輩司書にも気軽に相談することが出来ます。そして、神奈川の司書は研修が充実してるんでしょ?とよく言われますが、まさにその通り!採用一年目の半年間は、月に1度新採用学校司書研修があります。予算の使い方や図書委員会の運営についてなど、研修の内容は非常に細かく、新米司書の不安を軽減してくれるものとなっています。司書の職に就くのは簡単なことではなく、採用後も永続的な勉強が求められますが、その分やりがいも大きいです。志を高く持って、採用試験にチャレンジしてください。



黒門（平成 22 年復元・神田キャンパス）

# 学芸員課程



展示実習室（生田キャンパス 2号館）

# 埋蔵文化財保護行政の仕事

松本市教育委員会 文化財課 小山 奈津実 (平成23年度文学部人文学科歴史学専攻卒業)

## 1 はじめに

私は平成24年3月に専修大学文学部を卒業し、松本市教育委員会文化財課の嘱託職員を経て、現在は同課の正規職員として勤務しています。大学で専攻していた考古学に携われる仕事に就くことができ、喜びと難しさを感じながら、日々業務に励んでいます。ここでは、資格課程を受講している皆様に、松本市の事業を通じて埋蔵文化財保護行政の仕事についてご紹介したいと思います。



速報展

## 2 仕事の概要

私が勤務している長野県松本市は、県中部に位置する人口約23万人の都市です。天守が国宝に指定されている松本城や、東日本で最も古い古墳の一つとされる弘法山古墳があるなど、市内のいたるところに文化遺産が見られ、環境そのものを博物館とする、「松本まるごと博物館」という博物館活動も展開されています。

私たちの主な業務には、遺跡の発掘調査、発掘調査成果の普及公開活動及び史跡整備事業が挙げられます。その中でも埋蔵文化財の仕事でまず思い浮かぶのは遺跡の発掘調査ではないかと思います。この発掘調査というものは大きく2種類に分けられます。1つ目は、開発事業等により遺跡が破壊されてしまう場合に行う緊急発掘調査です。これは開発工事等で遺跡が破壊されてしまう前に遺跡の記録・保存をする調査になります。発掘調査の大半はこの緊急発掘調査にあたり、現在、松本市でも市街地の道路改良事業等による緊急発掘調査が頻繁に行われています。2つ目

は、史跡整備事業としての学術調査です。現在、松本市では殿村遺跡と小笠原氏城跡の2つの史跡整備事業を抱えています。殿村遺跡は、平成20年の発掘調査で東日本でも古い段階に位置付く15世紀の石積みが見つかった遺跡です。地元の要望を受けて遺跡の現地保存が決定しており、将来的に遺跡を整備・活用するために、遺跡の範囲や内容をより具体的に明らかにするための発掘調査を行い、遺跡や周辺の歴史を総合的に理解するために、地元の方への聞き取り調査を行っています。小笠原氏城跡は、室町時代に信濃守護であった小笠原氏の居城跡である井川城・林大城・林小城の総称であり、平成29年に井川城と林大城が国史跡に指定され、平成31年には林小城も追加される見込みです。これらは松本城の築城以前の様子を物語る重要な遺跡であり、調査・整備に取り組んでいます。

発掘調査の多くは、先述したように、開発事業等により遺跡が破壊されてしまうために実施されます。開発の計画にあたり開発事業地が埋蔵文化財包蔵地(遺跡)に該当するか開発業者等から照会があります。開発事業地が遺跡に該当する場合は遺跡の有無、範囲、深度などを知るために試掘調査を行います。そして、試掘調査の結果に基づき、工事で遺跡が破壊されてしまう場合は遺跡が現状のまま保存できないかなどを協議し、その上で遺跡の破壊が避けられない場合に発掘調査を実施します。現在、松本市に埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は742あり、これまでの発掘調査総件数は660件以上に及びます。近年では年に10件前後の発掘調査を実施しています。

発掘調査は正規職員1名、嘱託職員1名の計2名で現場の運営・管理などを行っています。現場の作業員さんは地域の方々に募集を行い、臨時職員として採用しています。作業員さんの中には10年以上勤めている方もおり、作業を進めていく上で非常に心強い存在です。松本市は近年、市街地の道路改良事業により発掘調査件数が多く、季節を問わず通年で発掘調査を実施しています。そのため、夏は炎天下、冬は寒空での作業となり、身体

的には非常に厳しい仕事であると感じています。なので、作業員さんの体調管理や事故が起こらないように安全管理に気を付けながら日々作業を進めるように努めています。外での作業は天候に左右されて大変な面もありますが、発掘調査によって松本市の歴史を解明していくことができることに、楽しさとやりがいを感じています。



発掘報告会

発掘調査終了後は検出した遺構や出土した遺物の整理作業及び報告書作成を行います。整理作業をすることで、調査した遺跡はどのようなものなのかをより深く理解・検討していきます。そして、後世の人に調査成果を伝えていくために報告書という形にして残します。発掘調査は通年で行っているため、現場作業をしながらの整理作業・報告書作成は非常に困難ではありますが、ここでも作業員さんの力を借りることで作業を進めていきます。私たちの仕事は作業員さんの協力なくしてはできない仕事であるということを強く感じています。報告書の刊行が終わると、出土した遺物などは博物館に収蔵されて、松本市立博物館や松本市立考古博物館で遺跡の説明パネルや遺物の展示に活かされるようになります。

最後になりますが、松本市の発掘調査成果の普及公開活動についてもご紹介します。私たちは遺跡の発掘調査成果を市民の方々に知ってもらい、まちづくりや地域づくりに活用してもらいたいという想いを抱いています。そのため、埋蔵文化財について市民の方々に知ってもらう機会となる普及公開活動に意欲的に取り組んでいます。松本市で行っ

ている普及公開活動は、発掘現場の現地説明会、発掘調査を実施している地区での公民館講座、小中学校等での現場公開や出前講座、発掘報告会などが挙げられます。特に、`発掘された松本、と名付けた発掘報告会は、その年に実施した発掘調査の調査成果の概要や出土遺物の展示をする速報展と共に企画を立てて、平成14年から毎年2月に実施しています。発掘報告会には近年200名以上の方に参加していただいております。多くの市民の方々に埋蔵文化財に対して関心を持ってもらえ、嬉しく感じています。普及公開活動を通して、地域の方々から、自分が住んでいる地域にこのような歴史があったと知ることができて嬉しい、地域を誇りに思う、などの言葉をいただけることがあり、大きなやりがいを感じています。

### 3 おわりに

私は松本市の正規職員に採用されるまでの2年間嘱託職員として勤務をしながら、採用試験を受けていました。仕事をしながらの就職活動は決して楽ではありませんでしたが、嘱託職員時代の経験は確実に現在に活かされていると感じています。学芸員や埋蔵文化財職員の採用人数は少なく、就職活動は決して簡単なことではないと思います。この道での就職を強く希望するのであれば、もちろんすぐに就職できるに越したことはありませんが、嘱託職員等の職に就いて経験や実績を積みながら就職活動をしていくことも一つの選択肢なのではないかと思います。目標を持ち、諦めることなく頑張りたいと願っています。



現地説明会

# 博物館実習を終えて

神奈川県立神奈川近代文学館 文学部日本文学文化学科3年 小島 苑華

私は神奈川県横浜市の「港の見える丘公園」のそばにある神奈川県立神奈川近代文学館に7月17日から23日の6日間、実習に行きました。この館は神奈川県ゆかりの作家や文学に関連した資料の収集、保存、展示を行う博物館と、日本近代文学専門の図書館、イベントホールの三つの機能を持つ総合博物館です。



文学館外景

今回は企画展の展示替えの期間に実習を行ったので、展示替えの作業を手伝わせていただいたり、雑誌や単行本の保存の仕方を体験させていただいたり、展示会の準備はどのようなスケジュールで行われるのかを教えてくださいました。学芸員の様々な業務を職員の方のお話や体験を通して学んでいきました。

中でも印象に残ったのは、企画展「没後10年 石井桃子展 一本を読むよろこび」の展示準備を手伝わせていただいたことです。石井桃子さんは昭和初期に活躍した主に児童文学を手がけた作家・翻訳家で、子どもたちによりよい文学を提供するために尽力した方です。企画展では、彼女の生涯を追いながら作品や関連資料を紹介していました。

展示準備ではまずローケースやパネルを配置図通りに設置しました。今回の博物館実習の参加者は私を含めて11人で、様々な大学から来ているため全員が初対面でした。ケースやパネルは重いため、最低でも2人で運ばなければなりません。初めはケースを運ぶのをためらったり一歩引いてしまいました。しかし全員と声をかけ合って作業をするうちに実習のメンバーとも打ち解け、積極的に動けるようになり、分からない部分を職員の方に尋ね、自ら配置図を見て指示を出すまでになりました。

私は実習に行くまで大学で学芸員について学んできましたが、「学芸員は孤独に調査研究を行う人だ」というイメージが拭えませんでした。ですが、実際にローケースやパネルを動かす力仕事や仲間とコミュニケーション

をとりながら作業をすることで、このイメージは覆され、学芸員も力仕事が多く、人と協力しながら作業をしていることが分かりました。

さて、石井桃子さんは児童文学の作家だと先に述べました。加えて企画展は夏休み中に開催することもあり、親子連れが主なターゲットになっています。このように展示会にはターゲットがいて、展示や館内の設備を調整します。私が行った準備の中に塗り絵の見本を作るという作業がありました。展示館のエントランスホールに子どもが飽きないように遊べるスペースを設け、私が作った塗り絵の見本はそこに置かれました。塗り絵以外にも木のイラストのパネルと小さな折り紙を用意して、折り紙で鳥を作ってパネルに貼ってもらうものもありました。準備をして展示会にどの年齢層が来館するのかを考え、それに応じたサービスを提供することも学芸員の仕事であることが分かりました。また、夏休みで親子連れが出掛ける時期に合わせて児童文学関係の展示を開催することが来館者数や収入を増やす方法ということが分かり、博物館経営の一端を学ぶことができました。

最後に、準備に関わった企画展を最初から最後まで見させていただきました。自分が準備に関わった展示会だったので、今まで見てきた展示会とは違った視点で見ることができました。

今まで学芸員について大学で勉強してきましたが、座学で勉強して分かったつもりでも、学芸員の仕事を体験してみると全く違う印象を受けました。特別展という文学館にとって大事な業務に携わることができ、博物館経営や展示会企画の仕事を身をもって理解することができました。力仕事や集中力が求められる仕事も多く大変な部分もありましたが、他大学の大学の実習のメンバーとも仲を深められ、充実した博物館実習でした。この実習で感じたことを忘れずにこれからも勉強を続けていきたいです。



企画展チラシ

学芸員課程

Pano a Pano

私は7月24日から7月31日までの7日間（29日を除く）で神奈川県秦野市堀山下にある秦野市立桜土手古墳展示館で実習を行いました。この館は同市が運営する展示館で、桜土手古墳群の出土遺物の他に秦野市内の遺跡から出土した資料を所蔵・展示、また専修大学にも所蔵されている『秦野市史』の編纂を行っています。

今回の実習では大きく分けて3つの学芸員の館務に携わらせて貰いました。1つ目は親子向けの「勾玉作り」、2つ目に企画展会場作り、3つ目に企画展の資料集めといった流れで行いました。

1つ目の「勾玉作り」では子どもを対象にし、親子で実際に古墳時代の勾玉作りを体験していただくといったコンセプトの下、石材を切る作業から親子で行ってもらい、アクセサリ作りをするといった企画でした。今回は勾玉作り講師兼主催である生涯学習文化振興課の方の指導の下、勾玉の基本的な作り方を各ペア1人ずつ実習生が付き添うという型式で指導をしました。どういう指導をすれば分かりやすかつ、子ども達を飽きさせずに勾玉を作っていたか、4日間考え、毎日反省の工夫を重ねて指導しました。

2つ目は4日間の「勾玉作り」が終わった後にすぐに企画展の『山の日 丹沢と暮らしー江戸時代から現代へー』が開かれるので、会場作りを行いました。この企画展では、まず展示ケースに江戸時代から現代までの丹沢に関する資料を展示しました。具体的には江戸時代の古文書や、その当時の農作業、林業に使われていた道具、また昭和になると写真の技術が登場するため、古写真などを展示しました。さらにこの企画展の目玉でもある丹沢の大絵図を地元の所有者からお借りし、展示させていただきました。古文書やその他の資料は、展示ケースの中でどういった配置にした方がより来館者に見やすいかや資料を傷みにくくするなど、あらゆることを考えながら配置しな



『山の日 丹沢と暮らしー江戸時代から現代へー』  
展示パネル作成風景



「勾玉作り」作業風景

ければいけなかったのが非常に大変でした。また大絵図に関してもお借りした資料であり、扱いに関して一番慎重にならなければいけなかったのが非常に大変でした。

3つ目は準備した企画展が終了するとすぐに新しい企画展『秦野・鉄道ものがたりー明治から平成までー』に移行するため、秦野の鉄道に関する新聞の記事を集めました。具体的に使用した新聞は『横浜貿易新報』という現在の神奈川新聞の前身となる新聞から情報を収集しました。しかし、実際に莫大な新聞から一つ一つ見て探すのは時間がかかるため、新聞発刊一覧を使用し、その中から探し出して、該当する新聞をコピーしてパソコンに打ち込むという作業をしました。この新聞は明治から昭和初頭に発刊されていたものであるために、言い回しやニュアンス、字体が旧字体・異体字といった現代日本語との違いがあり、打ち込みには相当な労力を使いました。しかし、この実習に参加させてもらわなければこういった体験や勉強はできず、古い新聞を読む機会は無かったのではないかと感じています。

今回の実習で実際に学芸員として仕事に携わらせて頂きましたが、他では中々味わうことのない貴重な体験ができました。資料を展示するだけではなく、来館者とのコミュニケーションをとったり、生涯学習の一環として体験学習を行ったりと常に来館者側からの立場になる必要があることを実感しました。また、来館者に何かを伝えていくような仕事であると感じました。例えば、今回の「勾玉作り」では子ども達にただ勾玉作りを体験していただく訳ではなく、現代のような便利な道具が無い古代で、どのように作っていたかを伝えるといった目的がある事を実感させて貰いました。それを体感する貴重な時間を過ごすことができたと思います。

# 第1回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員のしごと」開催の記録

文学部 教授 高島 裕之

それまでは博物館学、博物館実習などの基本的な科目しかなかった学芸員課程が本格的に整えられたのは、1988年に専任として、亀井明德先生が着任されてからである。その後1994年に内田欽三先生が着任し、専任担当者2人体制が確立され、以来30年、多くの方々のご理解とご協力により、少人数による充実した実習を重視した形でカリキュラムが拡充されてきた。また2017年に2号館に展示実習室、博物館実習室が開設され、「博物館実習」の中で本格的な展示実習が可能となった。

そこで今回、卒業生・ゲストスピーカーの講演と施設の対外的な公開を合わせた第1回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員のしごと」を、教務課資格課程係に協力いただき、2018年12月15日に開催するはこびとなった。日程は土曜日の午後、会場を展示実習室のある2号館ラーニングシアター201に設定した。講師は卒業生2名とゲストスピーカー1名の3名にお願いし、休憩や展示実習室見学をはさみながら、プログラムを進めた。参加者は、学芸員課程の受講生を中心に学外の一般参加者も含め、132名であった。

卒業生の竹内智晴氏（石岡市教育委員会文化振興課）は、「地域の文化財を守る・活かす一市役所文化財担当職員の仕事紹介」と題し、茨城県石岡市の市職員として、文化財担当の仕事やその1日のスケジュールも交え、解りやすく解説いただいた。石岡市は、常陸国分寺跡、常陸国府跡など重要な遺跡を有しており、埋蔵文化財、民俗資料調査、石岡市立ふるさと歴史館での展示活動も含め、「守る」、「活かす」をキーワードとして具体例を挙げながら、学生に日頃から様々なことに興味を持つことの重要性をアドバイスくださった。



竹内智晴氏の講演

同様に卒業生の細川海里氏（公益財団法人メトロ文化財団地下鉄博物館）は、「企業博物館における学芸員の職務の実際」と題し、博物館と企業との関わりに触れながら、交通系の博物館としての様々な実例を紹介いただいた。シュミレーター型展示を行なうための映像撮影や、大型車両の配車など、地下鉄博物館な



細川海里氏の講演

らでは興味深いエピソードを、お聞かせいただいた。

ゲストスピーカーの高木結美氏（独立行政法人国立文化財機構・文化財活用センター）は、「美術展覧会の事業構造と舞台裏」と題し、東京国立博物館で開催された著名な展覧会がどのような形で運営されるのか、その裏側について講演いただいた。「モノに礼を尽くす」などのキーワードを掲げ、企画展を支えるスポンサーの後援、協賛など関わり方の違いや、興味がない人を含めて見学者を展示にどのよう



高木結美氏の講演

に呼びこむのが、展示の運営を考えるうえで貴重な具体例をお示しいただいた。3人の講師の話は千差万別であり、貴重なスライドを交えながら「博物館、学芸員のしごと」の多種多様さを改めて認識できる、内容の濃い講演であった。同時にそれぞれの話の共通点として、仕事を成し遂げるためには成し遂げるための「強い思い」が重要であることを、参加者にメッセージとして送っていただいた。

また講演の間に展示実習室の展示を一般参加者も含め、広く公開した。展示では「博物館実習」受講者が展示制作および見学者対応を行ない、博物館実習の概要と共に、資料を記録する方法として拓本を紹介した。拓本を採った江戸時代の柄鏡の解説もあり、1年間の授業内容を深めるうえでも教育効果が挙げられていると考えられる。



展示実習室の一般公開

今回の一般参加者のアンケートでも「実際の現場での話を聞くことができ興味深かった」、「学芸員課程の学生の展示を見て学習してみたいと感じた」、「ぜひ2回目も開催してほしい」など、評価いただいている。学芸員課程の授業を補う形で、今現在の現場の状況をふまえた講演を拜聴できるのは、たいへん有意義な機会であり、講演いただいた先生方をはじめ、改めて関係各位に感謝申し上げます。第1回は30年の区切りということでのセミナー開催であったが、展示実習室の一般公開と共に、学内外の様々なご意見、ご協力をいただきながら、2回、3回と継続していきたいと考えている。

# データ編



2号館3号館（奥）（生田キャンパス）

平成30年度 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

平成30年5月1日 現在

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	22(4)	27(4)	12(0)	25(1)	86(9)
		国際経済	4(1)	11(4)	8(0)	17(4)	40(9)
	法	法律	17(3)	12(2)	15(2)	15(9)	59(16)
		政治	13(3)	8(1)	7(3)	7(2)	35(9)
	経営	経営	13(2)	11(2)	8(0)	8(1)	40(5)
		マーケティング	16(3)	16(2)	13(4)	22(8)	67(17)
	商	会計	1(0)	7(3)	5(3)	7(0)	20(6)
		日本語	20(12)	17(12)	17(7)	22(6)	76(37)
	文	日本文学文化	28(17)	25(20)	17(9)	20(7)	90(53)
		英語英米文	25(9)	20(8)	16(3)	14(5)	75(25)
		哲	5(1)	6(1)	3(3)	8(7)	22(12)
		歴史	30(6)	35(6)	26(9)	29(8)	120(29)
	人間科	環境地理	10(1)	5(1)	5(0)	2(1)	22(3)
		人文・ジャーナリズム	14(7)	6(2)	4(1)	1(0)	25(10)
ネットワーク情報		20(2)	15(3)	12(4)	14(0)	61(9)	
心理		1(0)	2(0)	1(1)	2(0)	6(1)	
小	社会	4(2)	11(5)	6(3)	4(1)	25(11)	
	計	243(73)	234(76)	175(52)	217(60)	869(261)	
二部	経済	経 済	8(2)	4(0)	3(0)	8(1)	23(3)
	法	法 律	2(0)	2(1)	5(1)	13(0)	22(2)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1(0)	4(2)	3(1)	3(0)	11(3)
	小	計	11(2)	10(3)	11(2)	24(1)	56(8)
合 計			254(75)	244(79)	186(54)	241(61)	925(269)
科 目 等 履 修 生			-	-	-	-	14(2)
大 学 院 生			-	-	-	-	3(2)
総 合 計			254(75)	244(79)	186(54)	241(61)	942(273)

司書課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	1(0)	1(1)	4(1)	4(1)	10(3)
		国際経済	0	1(1)	2(1)	0	3(2)
	法	法律	1(1)	7(6)	6(3)	6(4)	20(14)
		政治	0	1(0)	1(1)	2(0)	4(1)
	経営	経営	1(1)	1(0)	3(3)	1(1)	6(5)
		マーケティング	1(1)	2(2)	4(4)	1(0)	8(7)
	商	会計	0	1(1)	1(1)	4(3)	6(5)
		日本語	7(7)	4(4)	10(8)	2(2)	23(21)
	文	日本文学文化	29(27)	29(23)	38(33)	15(10)	111(93)
		英語英米文	1(1)	4(3)	2(2)	1(1)	8(7)
		哲	4(2)	4(2)	8(8)	4(3)	20(15)
		歴史	2(0)	12(6)	15(11)	8(3)	37(20)
	人間科	環境地理	1(1)	5(3)	2(1)	2(2)	10(7)
		人文・ジャーナリズム	6(5)	4(4)	3(2)	3(3)	16(14)
ネットワーク情報		2(1)	2(2)	6(5)	11(8)	21(16)	
心理		1(1)	1(1)	1(1)	0	3(3)	
小	社会	3(3)	3(3)	5(4)	5(2)	16(12)	
	計	60(51)	82(62)	111(89)	69(43)	322(245)	
二部	経済	経 済	0	2(1)	2(2)	4(1)	8(4)
	法	法 律	3(3)	1(1)	1(1)	5(3)	10(8)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	2(2)	1(1)	1(0)	1(1)	5(4)
	小	計	5(5)	4(3)	4(3)	10(5)	23(16)
合 計			65(56)	86(65)	115(92)	79(48)	345(261)
科 目 等 履 修 生			-	-	-	-	5(5)
大 学 院 生			-	-	-	-	2(1)
総 合 計			65(56)	86(65)	115(92)	79(48)	352(267)

司書教諭課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	1(0)	0	0	0	1(0)
		国際経済	0	0	0	1(1)	1(1)
	法	法律	0	0	0	1(1)	1(1)
		政治	0	1(0)	0	0	1(0)
	経営	経営	1(1)	0	1(1)	0	2(2)
		マーケティング	0	2(2)	2(2)	2(0)	6(4)
	商	会計	0	0	0	2(1)	2(1)
		日本語	3(3)	4(4)	3(3)	1(1)	11(11)
	文	日本文学文化	10(9)	7(6)	6(5)	0	23(20)
		英語英米文	2(2)	2(1)	0	0	4(3)
		哲	0	2(1)	1(1)	2(2)	5(4)
		歴史	0	3(1)	3(2)	0	6(3)
	人間科	環境地理	0	0	0	0	0
		人文・ジャーナリズム	4(4)	2(2)	0	0	6(6)
ネットワーク情報		0	1(1)	0	2(2)	3(3)	
心理		1(1)	1(1)	0	0	1(1)	
小	社会	0	1(1)	0	0	1(1)	
	計	22(20)	25(19)	16(14)	11(8)	74(61)	
二部	経済	経 済	2(0)	0	0	1(0)	3(0)
	法	法 律	0	0	0	1(0)	1(0)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	1(0)	0	1(0)
	小	計	2(0)	0	1(0)	2(0)	5(0)
合 計			24(20)	25(19)	17(14)	13(8)	79(61)
科 目 等 履 修 生			-	-	-	-	1(0)
大 学 院 生			-	-	-	-	0
総 合 計			24(20)	25(19)	17(14)	13(8)	80(61)

データ編

Pano. a Pano.

学校司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	1( 0)	0	0	0	1( 0)
		国 際 経 済	0	0	0	0	0
	法	法 律	0	0	0	1( 1)	1( 1)
		政 治	0	1( 0)	0	0	1( 0)
	経 営	経 営	1( 1)	0	0	0	1( 1)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1( 1)	0	1( 1)	0	2( 2)
	商	会 計	0	0	0	1( 1)	1( 1)
		日 本 語	3( 3)	0	0	0	3( 3)
		日 本 文 学 文 化	9( 9)	0	1( 1)	1( 1)	11( 11)
		英 語 英 米 文	2( 2)	1( 1)	0	0	3( 3)
		哲 学	1( 0)	1( 0)	1( 1)	0	3( 1)
		歴 史	0	0	0	0	0
		環 境 地 理	0	0	0	0	0
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ス ム	1( 1)	0	0	0	1( 1)
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	0	1( 1)	1( 1)
	人 間 科	心 理	0	0	0	0	0
社 会		1( 1)	0	0	0	1( 1)	
小 計		20( 18)	3( 1)	3( 3)	4( 4)	30( 26)	
二 部	経 済	経 済	0	0	0	0	0
	法	法 律	1( 1)	0	1( 1)	0	2( 2)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0	0
小 計		1( 1)	0	1( 1)	0	2( 2)	
合 計		21( 19)	3( 1)	4( 4)	4( 4)	32( 28)	
科 目 等 履 修 生		—	—	—	—	3( 3)	
大 学 院 生		—	—	—	—	1( 1)	
総 合 計		21( 19)	3( 1)	4( 4)	4( 4)	36( 32)	

学芸員課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	0	0	2( 2)	1( 0)	3( 2)
		国 際 経 済	0	1( 1)	0	0	1( 1)
	法	法 律	0	0	0	0	0
		政 治	0	0	0	0	0
	経 営	経 営	1( 0)	0	0	1( 1)	2( 1)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1( 0)	1( 0)	2( 0)	4( 0)
	商	会 計	0	1( 1)	0	0	1( 1)
		日 本 語	2( 1)	0	1( 1)	1( 1)	4( 3)
		日 本 文 学 文 化	4( 4)	6( 5)	8( 7)	3( 3)	21( 19)
		英 語 英 米 文	1( 0)	0	1( 1)	0	2( 1)
		哲 学	2( 0)	6( 3)	9( 8)	0	17( 11)
		歴 史	18( 5)	27( 11)	26( 14)	4( 3)	75( 33)
		環 境 地 理	2( 1)	6( 3)	3( 1)	0	11( 5)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ス ム	5( 2)	2( 2)	3( 1)	0	10( 5)
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	0	0	0
	人 間 科	心 理	0	1( 1)	0	0	1( 1)
社 会		2( 2)	2( 1)	2( 2)	1( 1)	7( 6)	
小 計		37( 15)	53( 28)	56( 37)	13( 9)	159( 89)	
二 部	経 済	経 済	0	0	0	1( 1)	1( 1)
	法	法 律	0	0	1( 0)	0	1( 0)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0	0
小 計		0	0	1( 0)	1( 1)	2( 1)	
合 計		37( 15)	53( 28)	57( 37)	14( 10)	161( 90)	
科 目 等 履 修 生		—	—	—	—	3( 3)	
大 学 院 生		—	—	—	—	6( 2)	
総 合 計		37( 15)	53( 28)	57( 37)	14( 10)	170( 95)	

平成30年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科	取得人数	中学1種		高校1種		中学専修		高校専修		合計			
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数				
一 部	経 済	経 済	7( 1)	社 会	6( 0)	地 理 歴 史	5( 1)	公 民 業	5( 1)	—	—	—	—	16( 2)	
		国 際 経 済	8( 2)	社 会	8( 2)	地 理 歴 史	4( 1)	公 民 業	6( 2)	—	—	—	—	18( 5)	
	法	法 律	8( 5)	社 会	5( 4)	地 理 歴 史	8( 5)	公 民 業	7( 5)	—	—	—	—	20( 14)	
		政 治	7( 2)	社 会	5( 2)	地 理 歴 史	5( 2)	公 民 業	5( 1)	—	—	—	—	15( 5)	
	経 営	経 営	8( 1)	社 会	4( 1)	公 民 業	4( 0)	商 業	3( 0)	—	—	—	—	11( 1)	
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	11( 3)	社 会	5( 1)	地 理 歴 史	6( 1)	公 民 業	5( 1)	—	—	—	—	—	22( 6)
		会 計	4( 0)	—	—	商 業	4( 0)	—	—	—	—	—	—	—	4( 0)
	文	日 本 語	16( 4)	国 語	14( 4)	国 語	16( 4)	—	—	—	—	—	—	—	30( 8)
		日 本 文 学 文 化	15( 7)	国 語	10( 5)	国 語	15( 7)	—	—	—	—	—	—	—	27( 13)
		英 語 英 米 文	12( 5)	外 国 語(英 語)	8( 4)	外 国 語(英 語)	12( 5)	—	—	—	—	—	—	—	20( 9)
		哲 学	7( 6)	社 会	7( 6)	地 理 歴 史	7( 6)	—	—	—	—	—	—	—	19( 17)
		歴 史	23( 6)	社 会	20( 4)	地 理 歴 史	23( 6)	—	—	—	—	—	—	—	61( 14)
		環 境 地 理	2( 1)	社 会	1( 1)	地 理 歴 史	2( 1)	—	—	—	—	—	—	—	4( 3)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	1( 0)	社 会	1( 0)	地 理 歴 史	1( 0)	—	—	—	—	—	—	—	3( 0)
ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	3( 0)	数 学	2( 0)	数 学	2( 0)	—	—	—	—	—	—	—	6( 0)	
人 間 科	心 理	2( 0)	社 会	2( 0)	公 民 業	1( 0)	—	—	—	—	—	—	—	3( 0)	
	社 会	4( 1)	社 会	2( 0)	地 理 歴 史	4( 1)	—	—	—	—	—	—	—	8( 1)	
小 計	138( 44)	—	100( 34)	—	187( 64)	—	—	—	—	—	—	—	287( 98)		
二 部	経 済	経 済	6( 1)	社 会	3( 1)	地 理 歴 史	3( 1)	公 民 業	4( 0)	—	—	—	—	11( 2)	
	法	法 律	2( 0)	社 会	1( 0)	地 理 歴 史	1( 0)	公 民 業	1( 0)	—	—	—	—	3( 0)	
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1( 0)	社 会	0	地 理 歴 史	0	公 民 業	0	—	—	—	—	1( 0)	
	小 計	9( 1)	—	4( 1)	—	11( 1)	—	—	—	—	—	—	—	15( 2)	
科 目 等 履 修 生	9( 0)	国 語	0	国 語	0	国 語	0	—	—	—	—	—	—	—	
		外 国 語(英 語)	1( 0)	外 国 語(英 語)	1( 0)	外 国 語(英 語)	1( 0)	—	—	—	—	—	—	—	
		社 会	3( 0)	社 会	3( 0)	地 理 歴 史	4( 0)	公 民 業	7( 0)	—	—	—	—	—	
		数 学	0	数 学	0	数 学	0	—	—	—	—	—	—	—	—
		小 計	9( 0)	—	4( 0)	—	12( 0)	—	—	—	—	—	—	—	16( 0)
大 学 院 生	7( 3)	国 語	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		外 国 語(英 語)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		社 会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		小 計	7( 3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	163( 48)	—	108( 35)	—	210( 65)	—	—	—	—	—	—	—	330( 105)		

1 ( )内は、女子で内数である。  
2 この表は、教員免許状一括申請をした数である。

平成30年度 司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科	司 書	司 書 教 諭	学 校 司 書	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	1( 0)	0	0	1( 0)
		国 際 経 済	0	1( 1)	0	0
	法	法 律	4( 3)	1( 1)	1( 1)	0
		政 治	1( 0)	0	0	1( 0)
	経 営	経 営	1( 1)	0	0	1( 1)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1( 0)	0	1( 1)
	文	会 計	3( 3)	0	1( 1)	0
		日 本 語	3( 3)	0	0	4( 4)
		日 本 文 学 文 化	18( 13)	4( 3)	0	7( 7)
		英 語 英 米 文	0	0	0	0
		哲 学	4( 2)	0	0	1( 1)
		歴 史	4( 2)	1( 1)	0	24( 12)
		環 境 地 理	2( 2)	0	0	2( 1)
	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	2( 2)	0	0	2( 2)	
ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	5( 5)	0	1( 1)	0	
人 間 科	心 理	1( 1)	0	0	0	
	社 会	3( 3)	0	0	4( 4)	
小 計	52( 40)	8( 6)	3( 3)	48( 33)		
二 部	経 済	経 済	0	1( 0)	0	1( 1)
	法	法 律	2( 0)	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0
	小 計	2( 0)	1( 0)	0	1( 1)	
科 目 等 履 修 生	2( 2)	国 語	2( 2)	1( 0)	3( 3)	1( 1)
		外 国 語(英 語)	1( 1)	0	0	1( 0)
		小 計	3( 3)	1( 0)	3( 3)	2( 1)
大 学 院 生	1( 1)	0	0	1( 0)		
合 計	57( 43)	10( 6)	6( 6)	51( 35)		

( )内は、女子で内数である。

データ編

Pano a Pano

## 平成30年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	秋田県	秋田市立桜中学校	社会	経済	経済	
	秋田県	鹿角市立十和田中学校	国語	文	日本語	
	福島県	いわき秀英中学高等学校	社会	経済	国際経済	
関東	茨城県	常総市立北海道西中学校	社会	経済	国際経済	
	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	茨城県	茨城県立土浦第三高等学校	商業	商	マーケティング	
	茨城県	茨城県立太田第一高等学校	国語	文	日本語	
	茨城県	常総市立石下中学校	国語	文	日本文学文化	
	栃木県	栃木県立さくら清修高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	栃木県	栃木県立足利高等学校	国語	文	日本語	
	栃木県	栃木県立矢板東高等学校	地理歴史	文	歴史	
	栃木県	文星芸術大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	群馬県	群馬県立高崎商業高等学校	商業	商	会計	
	群馬県	渋川市立渋川中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立上尾高等学校	公民	経済	国際経済	
	埼玉県	埼玉県立朝霞高等学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	西武学園文理中学・高等学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	小鹿野町立小鹿野中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	西武台高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	埼玉県	和光市立第二中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	山村学園高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	四街道市立四街道中学校	社会	経済	国際経済	
	千葉県	市原市立千種中学校	国語	文	日本語	
	千葉県	浦安市立日の出中学校	国語	文	日本語	
	千葉県	流山市立西初石中学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉県立柏井高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉県立国府台高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	東京都	本郷高等学校	公民	経営	経営	
東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営		
東京都	関東国際高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
東京都	東京都立桜町高等学校	国語	文	日本語		
東京都	東京都立昭和高等学校	国語	文	日本文学文化		
東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化		

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	多摩大学目黒中学校・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	駒場学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	哲	
	東京都	江戸川区立鎌田小学校	全科	文	哲	
	東京都	東京成徳大学高等学校	公民	文	哲	
	東京都	東京都立美原高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立江戸川高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	朋優学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	町田市立町田第一中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立芦花高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	岩倉高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立井草高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立狛江高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	大東文化大学第一高等学校	公民	人間科	心理	
	東京都	江戸川区立二之江中学校	社会	人間科	社会	
	東京都	東京都立上水高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史(日本史)	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立新栄高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	鎌倉市立深沢中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	相模原市立相武台中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立内出中学校	社会	経営	経営	
神奈川県	大和市立鶴間中学校	社会	経営	経営		
神奈川県	神奈川県立伊勢原高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
神奈川県	神奈川県立厚木商業高等学校	商業	商	会計		
神奈川県	神奈川県立湘南高等学校	国語	文	日本語		
神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	国語	文	日本語		
神奈川県	神奈川県立厚木北高等学校	国語	文	日本語		
神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	国語	文	日本語		
神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	国語	文	日本語		

# 平成30年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生			
				学部	学科	専攻	
関東	神奈川県	神奈川県立上鶴間高等学校	国語	文	日本語		
	神奈川県	柏木学園高等学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	相洋高等学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	藤沢市立湘洋中学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	藤沢市立村岡中学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	横浜市立港南台第一小学校	全科	文	日本文学文化		
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	神奈川県立岸根高等学校	国語	文	日本文学文化		
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	英語	文	英語英米文		
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	英語	文	英語英米文		
	神奈川県	橘学苑高等学校	英語	文	英語英米文		
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	英語	文	英語英米文		
	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	英語	文	英語英米文		
	神奈川県	海老名市立海老名中学校	社会	文	哲		
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	公民	文	哲		
	神奈川県	相模女子大学中学部・高等部	社会・歴史・公民	文	哲		
	東	神奈川県	横浜市立森中学校	社会	文	哲	
		神奈川県	神奈川県立深沢高等学校	地理歴史	文	歴史	
		神奈川県	横浜市立西柴中学校	社会	文	歴史	
		神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	地理歴史	文	歴史	
		神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	地理歴史	文	歴史	
		神奈川県	横浜創英高等学校	地理歴史	文	歴史	
		神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
		神奈川県	横浜市立戸塚高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
		神奈川県	神奈川県立上矢部高等学校	地理歴史	文	歴史	
		神奈川県	横浜創英高等学校	地理歴史・公民	文	人・ジャーナリズム	
		神奈川県	神奈川県立生田高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
		神奈川県	横須賀学院高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
		神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	地理歴史	人間科	社会	
		神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	公民	人間科	社会	
		神奈川県	神奈川県立霧が丘高等学校	国語	文学研究科	日本語日本文学	
甲信越	新潟県	新潟県立十日町高等学校	国語	文	日本語		
	新潟県	新潟県立佐渡中等教育学校	英語	文	英語英米文		

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生			
				学部	学科	専攻	
甲信越	新潟県	新潟県立新津高等学校	地理歴史	文	歴史		
	山梨県	甲府市立西中学校	社会	経済	経済		
	山梨県	南部町立南部中学校	社会	経営	経営		
	山梨県	山梨県立巨摩高等学校	国語	文	日本語		
	山梨県	山梨県立身延高等学校	英語	文	英語英米文		
	山梨県	山梨学院高等学校	地理歴史	文	歴史		
	長野県	松商学園高等学校	商業	商	会計		
	長野県	上田市立第五中学校	国語	文	日本語		
	長野県	長野県長野東高等学校	国語	文	日本語		
	長野県	塩尻市立塩尻西部中学校	国語	文	日本文学文化		
	長野県	長野県諏訪清陵高等学校	公民	文	哲		
	長野県	長野県松本蟻ヶ崎高等学校	地理歴史	文	歴史		
	北陸	富山県	富山市立北部中学校	社会	文	哲	
		石川県	金沢市立工業高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
石川県		白山市立北星中学校	国語	文	日本文学文化		
石川県		金沢市立工業高等学校	英語	文	英語英米文		
東海	岐阜県	岐阜県立斐太高等学校	公民	経営	経営		
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	商業	商	マーケティング		
	静岡県	静岡市立蒲原中学校	国語	文	日本語		
	静岡県	富士市立富士川第一中学校	社会	人間科	心理		
	愛知県	豊橋市立南陽中学校	社会	文	歴史		
	三重県	三重県立木本高等学校	公民	経済	経済		
	三重県	熊野市立有馬中学校	社会	経済	国際経済		
	三重県	鈴鹿中学・高等学校	社会・地理歴史	商	マーケティング		
近畿	京都府	宇治市立黄檗中学校	社会	商	マーケティング		
中国	広島県	広島城北中・高等学校	英語	文	英語英米文		
四国	高知県	高知県立高知小津高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
	高知県	高知県立伊野商業高等学校	商業	商	会計		
九州・沖縄	福岡県	福岡県立小倉高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
	福岡県	福岡市立福翔高等学校	地理歴史	文	環境地理		
	熊本県	熊本県立八代東高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
	大分県	大分高等学校	商業	経営	経営		
	大分県	大分東明高等学校	公民	商	マーケティング		

データ編

Pano a Pano

## 平成30年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東 東	茨城県	茨城県立下妻第二高等学校	地理歴史	法	法律
	茨城県	古河市立古河第二中学校	社会	法	政治
	埼玉県	埼玉県立越ヶ谷高等学校	地理歴史	法	政治
	千葉県	千葉県立成田国際高等学校	公民	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	淑徳中学高等学校	地理歴史・公民	法	法律
東京都	武蔵野市立関前南小学校	全科	法	法律	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東 東	東京都	順天中学高等学校	社会・地理歴史	法	法律
	神奈川県	神奈川県立綾瀬西高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	地理歴史・公民	法	法律
	神奈川県	川崎市立野川中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	相模原市立鶴野森中学校	社会	法	政治
	神奈川県	平塚市立神田中学校	社会	法	政治
近畿 九州 沖縄	奈良県	五條市立五條西中学校	社会	法	政治
鹿児島県	鹿児島高等学校	地理歴史	法	法律	

## 平成30年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道 東北	青森県	青森県立八戸商業高等学校	商業	商	マーケティング
	宮城県	宮城県気仙沼高等学校	公民	科目等履修生	
関東 東	茨城県	茨城県立緑岡高等学校	地理歴史	科目等履修生	
	埼玉県	埼玉県立浦和東高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	戸田市立戸田東中学校	社会	経済	経済
	埼玉県	上尾市立大谷中学校	社会	法	法律
東京都	中野区立第八中学校	社会	経済	経済	
東京都	江東区立平久小学校	全科	経済	経済	
東京都	東京都立神代高等学校	公民	法	法律	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東 東	東京都	東京都立上野高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都立第三商業高等学校	商業	商	マーケティング
	東京都	港区立港南中学校	社会	科目等履修生	
	東京都	東京都立小松川高等学校	英語	科目等履修生	
神奈川県	横浜市立港南中学校	社会	経済	経済	
東海	愛知県	東邦高等学校	公民	経済	経済
近畿	滋賀県	滋賀県立野洲高等学校	公民	法	法律
九州 沖縄	宮崎県	宮崎県立都城商業高等学校	商業	経済	経済

## 平成30年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	栃木県	宇都宮市立中央図書館	文	日本文学文化	
	埼玉県	さいたま市立中央図書館	文	日本文学文化	
	埼玉県	さいたま市立中央図書館	経済	経済	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	八王子市中央図書館	経済	経済	
	東京都	墨田区立ひきふね図書館	文	歴史	

## 平成30年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	青森県	青森県立郷土館	文	日本文学文化	
	福島県	須賀川市立博物館	文	日本文学文化	
関東	栃木県	栃木県立博物館	文	英語英米文	
	群馬県	高崎市少年科学館	文	日本文学文化	
	群馬県	群馬県立歴史博物館	文	歴史	
	埼玉県	朝霞市博物館	文	歴史	
	埼玉県	行田市郷土博物館	人間科	社会	
	千葉県	千葉県立中央博物館	文	歴史	
	千葉県	千葉県立加曾利貝塚博物館	文	歴史	
	千葉県	船橋市郷土資料館	文	歴史	
	東京都	八王子市郷土資料館	経済	経済	
	東京都	進化生物学研究所	文	日本文学文化	
	東京都	東京おもちゃ美術館	文	日本文学文化	
	東京都	家具の博物館	文	日本文学文化	
	東京都	進化生物学研究所	文	日本文学文化	
	東京都	進化生物学研究所	文	日本文学文化	
	東京都	板橋区立郷土資料館	文	日本文学文化	
	東京都	古代オリエント博物館	文	哲	
	東京都	昭和のくらし博物館	文	哲	
	東京都	中野区立歴史民俗資料館	文	歴史	
	東京都	野球殿堂博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
東京都	目黒区美術館	文	歴史		
東京都	大田区立郷土博物館	文	歴史		
東京都	日本カメラ博物館	文	歴史		

	所在地	実習館名	実習学生			
			学部	学科	専攻	
関東	東京都	進化生物学研究所	文	環境地理		
	東京都	進化生物学研究所	文	環境地理		
	東京都	町田市立自由民権資料館	法	法律		
	神奈川県	川崎市立日本民家園	経済	経済		
	神奈川県	理科ハウス	経営	経営		
	神奈川県	箱根町立郷土資料館	文	日本語		
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本文学文化		
	神奈川県	伊勢原市立子ども科学館	文	哲		
	神奈川県	相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみほら	文	哲		
	神奈川県	電車とバスの博物館	文	歴史		
	神奈川県	平塚市博物館	文	歴史		
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	文	歴史		
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	歴史		
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	歴史		
	神奈川県	シルク博物館	文	歴史		
	神奈川県	電車とバスの博物館	科目等履修生			
	甲信越	新潟県	新潟県立歴史博物館	文	歴史	
		長野県	長野市立博物館	人間科	社会	
北陸	富山県	富山県水墨美術館	文	環境地理		
	石川県	石川県立歴史博物館	文	歴史		
東海	静岡県	佐野美術館	文	日本文学文化		
	静岡県	沼津市明治史料館	文	歴史		
	静岡県	静岡市立登呂博物館	文	歴史		
	静岡県	裾野市立富士山資料館	文	歴史		
	静岡県	富士山かぐや姫ミュージアム	文	歴史		

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科	
平成26年度	平26 経済・経済	真岡市立真岡中学校	常 勤	社 会	
	平23 法・法律	蕨市立北小学校	専 任	全 科	
	平24 法・法律	松田町立松田中学校	専 任	社 会	
	平26 法・法律	南伊豆町立南伊豆東中学校	常 勤	社 会	
	平24 法・政治	白山市立美川中学校	専 任	社 会	
	平24 法・政治	伊勢崎市立あずま小学校	専 任	全 科	
	平26 経営・経営	相模原市立相陽中学校	非 常 勤	社 会	
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	常 勤	社 会	
	平26 商・会計	福島県立福島商業高等学校	常 勤	商 業	
	平24 文・日本語日本文	横浜市立寺尾中学校	専 任	国 語	
	平25 文・日本語日本文	川北町立川北中学校	専 任	国 語	
	平25 文・日本語日本文	東庄町立東庄中学校	専 任	国 語	
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川崎高等学校	非 常 勤	国 語	
	平26 文・日本語	学校法人美萩野学園（美萩野女子高等学校）	常 勤	国 語	
	平26 文・日本語	学校法人創志学園（クラーク記念国際高等学校）	常 勤	国 語	
	平26 文・日本語	茅ヶ崎市立円蔵中学校	常 勤	国 語	
	平26 文・日本文学文化	玉名市立伊倉小学校 玉名市立梅林小学校	臨時的任用	理科・算数 全	
	平26 文・日本文学文化	富士宮市立富士宮第二中学校	非 常 勤	国 語	
	平26 文・日本文学文化	岩手県立花泉高等学校	常 勤	国 語	
	平26 文・日本文学文化	川崎市立中野島中学校	臨時的任用	国 語	
	平26 文・日本文学文化	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語	
	平26 文・日本文学文化	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非 常 勤	国 語	
	平26 文・日本文学文化	学校法人福島成蹊学園（福島成蹊学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語	
	平成27年度	平22 文・英語英米文	相模原市立相陽中学校	専 任	英 語
		平23 文・英語英米文	伊勢原市立山王中学校	専 任	英 語
		平23 文・英語英米文	南足柄市立南足柄中学校	専 任	英 語
平23 文・英語英米文		学校法人獨協学園（獨協中学・高等学校）	専 任	英 語	
平24 文・英語英米文		川崎市立中野島小学校	臨時的任用	全 科	
平26 文・英語英米文		学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	非 常 勤	英 語	
平26 文・英語英米文		学校法人郁文館夢学園（郁文館高等学校）	常 勤	英 語	
平26 文・英語英米文		学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	英 語	
平26 文・英語英米文		学校法人二松學舎（二松學舎大学附属柏中学校・高等学校）	非 常 勤	英 語	
平26 文・英語英米文		学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	非 常 勤	英 語	
平25 文・人文		学校法人自然学園（自然学園高等学校 神奈川学習センター 栄真学園高等部）	常 勤	地 理 歴 史	
平26 文・哲		埼玉県立本庄特別支援学校	期限付(介護休暇代替)		
平26 文・歴史		東京都立田柄高等学校	専 任	地 理 歴 史	
平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報		館山市立船形小学校	専 任	全 科	
平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人常盤大学（常盤大学高等学校）	専任(期限付)	情 報		
平成27年度	平26 人間科・社会	府中市立府中第六小学校	専 任	全 科	
	平26 人間科・社会	相模原市立大沢中学校	専 任	社 会	
	平26 人間科・社会	前橋市立箱田中学校	専 任	社 会	
	平24 院文・修士	神奈川県立伊志田高等学校	専 任	国 語	
	平25 院文・修士	川崎市立塚越中学校	専 任	社 会	
	平27 経済・経済	学校法人徳心学園（横浜中学・横浜高等学校）	非 常 勤	社 会	
	平21 法・法律	武蔵野市立桜野小学校	専 任	全 科	
	平25 法・法律	松戸市立第六中学校	専 任	英 語	
	平26 法・政治	横浜市立日限山中学校	専 任	社 会	
	平27 法・政治	学校法人堀井学園（横浜創英高等学校）	非 常 勤	社 会・地理歴史	
	平26 経営・経営	学校法人作陽学園（岡山県作陽高等学校）	非 常 勤	情 報	
	平27 経営・経営	石川県立輪島高等学校	専 任	公 民	
	平27 商・マーケティング	野田市立東部中学校	非 常 勤	社 会	
	平27 商・マーケティング	座間市立西中学校	非 常 勤	社 会	
	平27 商・マーケティング	岐阜県立各務原西高等学校	常 勤	情 報	
	平27 商・マーケティング	長野県諏訪実業高等学校	常 勤	商 業	
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川中島中学校	専 任	国 語	
	平27 文・日本語	川崎市立西高津中学校	臨時的任用	国 語	
	平27 文・日本語	愛知県立犬山南高等学校	専 任	国 語	
	平27 文・日本語	横浜市立上大岡小学校	専 任	全 科	
	平27 文・日本語	神奈川県立大和高等学校	臨時的任用	国 語	
	平27 文・日本文学文化	内灘町立内灘中学校	専 任	国 語	
平27 文・日本文学文化	横浜市立南高等学校附属中学校	専 任	国 語		
平27 文・日本文学文化	寒川町立旭が丘中学校	専 任	国 語		
平27 文・日本文学文化	静岡県立三島北高等学校	専 任	国 語		
平27 文・日本文学文化	伊那市立高遠中学校	非 常 勤	国 語		
平27 文・日本文学文化	山梨市立山梨南中学校	非 常 勤	国 語		
平18 文・英語英米文	津山市立津山東中学校	専 任	英 語		
平22 文・英語英米文	東京都立墨田工業高等学校	臨時的任用	英 語		

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科	
平成27年度	平24 文・英語英米文	川崎市教育委員会 (小学校)	専 任	全 科	
	平24 文・英語英米文	静岡県立浜名高等学校	専 任	英 語	
	平26 文・英語英米文	神奈川県立厚木北高等学校	専 任	英 語	
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学 (日本大学鶴ヶ丘高等学校)	専 任	英 語	
	平27 文・英語英米文	埼玉県立所沢商業高等学校	期 限 付	英 語	
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園 (立花学園高等学校)	非 常 勤	英 語	
	平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園 (堀越高等学校)	非 常 勤	英 語	
	平27 文・英語英米文	神奈川県立有馬高等学校	専 任	英 語	
	平27 文・英語英米文	長野県明科高等学校	常 勤	英 語	
	平27 文・英語英米文	神奈川県立菅高等学校	専 任	英 語	
	平27 文・歴史	沼津市立今沢中学校	常 勤	社 会	
	平27 文・歴史	学校法人星野学園 (星野高等学校)	常 勤	地理歴史・公民	
	平27 文・歴史	鎌倉市立玉縄中学校	臨時的任用	特別支援	
	平27 文・歴史	学校法人盈進学園 (東野高等学校)	非 常 勤	地理歴史	
	平27 文・歴史	横浜市立菅田中学校	専 任	社 会	
	平26 文・環境地理	茨城県立石岡第二高等学校	専 任	地理歴史	
	平27 文・環境地理	萩市立木間小・中学校	非 常 勤	社 会	
	平27 文・環境地理	長門市立三隅中学校	非 常 勤	社 会	
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立横浜栄高等学校	専 任	情 報	
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立上石神井中学校	非 常 勤	数 学	
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立大泉第二中学校	非 常 勤	数 学	
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人拓殖大学 (拓殖大学第一高等学校)	非 常 勤	数 学	
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立八潮南高等学校	非 常 勤	数 学	
	平25 院経営・修士	学校法人鷗友学園 (鷗友学園女子高等学校)	専 任	情 報	
	平24 院文・修士	学校法人向上学園 (自修館中等教育学校)	専 任	英 語	
	平成28年度	平28 経済・経済	市川市立東国分中学校	少人数学習等担当補助教員	社 会
		平28 経済・経済	神奈川県立深沢高等学校	常 勤	地理歴史
		平21 法・法律	藤沢市立湘南台中学校	専 任	社 会
平26 法・法律		むつ市立大畑中学校	非 常 勤	社 会	
平28 法・法律		学校法人旭川宝田学園 (旭川明成高等学校)	専 任	地理歴史・公民	
平28 法・法律		野田市立東部中学校	専 任	社 会	
平26 法・政治		川崎市立橋中学校	専 任	社 会	
平28 経営・経営		川崎市立高津中学校	非 常 勤	社 会	
平26 商・マーケティング		綾瀬市立落合小学校	専 任	全 科	
平28 商・マーケティング		山梨県立塩山高等学校	期 限 付	商 業	
平28 商・マーケティング		海老名市立柏ヶ谷中学校	非 常 勤	社 会	
平28 商・マーケティング		学校法人矢谷学園 (鳥取城北高等学校)	非 常 勤	商 業	
平25 文・日本語日本文		学校法人成田山教育財団 (成田高等学校)	専 任	国 語	
平27 文・日本語		神奈川県立鎌倉高等学校	専 任	国 語	
平28 文・日本語		大和市立つきみ野中学校	臨時的任用	国 語	
平28 文・日本語		学校法人菅生学園 (東海大学菅生高等学校)	非 常 勤	国 語	
平28 文・日本語		富士宮市立富士宮第四中学校	常 勤	国 語	
平28 文・日本語		上田市立塩田中学校	常 勤	国 語	
平28 文・日本語		神奈川県立保土ヶ谷高等学校	期 限 付	国 語	
平28 文・日本語		北区立堀船中学校	期 限 付	国 語	
平28 文・日本文学文化		学校法人明星学園 (浦和学院高等学校)	常 勤	国 語	
平28 文・日本文学文化		東京都立杉並工業高等学校	専 任	国 語	
平28 文・日本文学文化		学校法人明星学園 (浦和学院高等学校)	常 勤	国語・書道	
平22 文・英語英米文		足立区立伊興中学校	専 任	英 語	
平26 文・英語英米文		大村市立西大村中学校	臨時的任用	英 語	
平28 文・英語英米文		神奈川県立厚木清南高等学校	期 限 付	英 語	
平28 文・英語英米文		日本工業大学駒場中学校・高等学校	非 常 勤	英 語	
平28 文・英語英米文		学校法人立花学園 (立花学園高等学校)	非 常 勤	英 語	
平28 文・英語英米文	浦添市立神森中学校	専 任	英 語		
平28 文・英語英米文	荒川区立諏訪台中学校	期 限 付	英 語		
平28 文・哲	学校法人東海山形学園 (東海大学山形高等学校)	非 常 勤	地理歴史		
平26 文・歴史	千葉県立船橋夏見特別支援学校	臨時的任用	特別支援		
平26 文・歴史	神奈川県立麻生総合高等学校	専 任	地理歴史		
平27 文・歴史	静岡県教育委員会	専 任	社 会		
平27 文・歴史	葉山町立南郷中学校	専 任	社 会		
平28 文・歴史	学校法人沼津学園 (桐陽高等学校)	非 常 勤	地理歴史		
平28 文・歴史	神奈川県立相模原高等学校	専 任	地理歴史		
平28 文・環境地理	伊勢崎市立宮郷中学校	臨時的任用	社 会		
平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立綾瀬西高等学校	専 任	情 報		
平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立飯能高等学校	専 任	数 学		
平26 人間科・社会	港区立白金小学校	専 任	全 科		
平28 人間科・社会	富士市立岩松中学校	専 任	社 会		
平28 院文・修士	学校法人駿台学園 (駿台学園中学・高等学校)	常 勤	国 語		
平28 院文・修士	神奈川県立大楠高等学校	専 任	英 語		
平28 院文・修士	学校法人成立学園 (成立学園中学・高等学校)	常 勤	英 語		

データ編

Passo a Passo

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成	平23 経済・経済	川崎市教育委員会	専 任	全 科
	平23 経済・経済	東京都教育委員会	期 限 付	全 科
	平27 経済・経済	福井県立武生商業高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 経済・経済	市川市立第五中学校	専 任	社 会
	平28 経済・経済	調布市立第三中学校	専 任	社 会
	平28 経済・経済	神奈川県立商工高等学校	期 限 付	地 理 歴 史・公 民
	平29 経済・経済	相模原市立東林中学校	専 任	社 会
	平29 経済・経済	藤沢市立湘南台中学校	臨時的任用	社 会
	平29 経済・経済	学校法人上野塾（東京実業高等学校）	非 常 勤	商 業
	平22 経済・国際経済	北区立桐ヶ丘中学校	専 任	社 会
	平25 法・法律	足立区立東洲江小学校	専 任	全 科
	平26 法・法律	川崎市教育委員会	専 任	社 会
	平22 法・政治	学校法人八洲学園（福岡女子商業高等学校）	専 任 勤	商 業
	平29 法・政治	静岡県立御殿場高等学校	専 任	公 民
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	専 任	社 会
	平29 経営・経営	岐阜市立岐阜商業高等学校	常 勤	商 業
	平28 商・マーケティング	学校法人国際学園（星槎国際高等学校（湘南学習センター））	常 勤	情 報
	平29 商・マーケティング	学校法人調布学園（田園調布学園中等部・高等部）	専 任	情 報
	平29 商・マーケティング	学校法人三島学園（東北生活文化大学高等学校）	常 勤	商 業
	成	平29 商・会計	東京都立千早高等学校	専 任
平29 商・会計		神奈川県立厚木商業高等学校	専 任	商 業
平29 商・会計		茨城県立磯原郷英高等学校	常 勤	商 業
平23 文・日本語日本文		神奈川県教育委員会	専 任	全 科
平29 文・日本語		学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	国 語
平29 文・日本語		船橋市立葛飾中学校	常 勤	国 語
平29 文・日本語		江戸川区立南葛西中学校	期 限 付	国 語
平29 文・日本語		学校法人松薫学園（焼津高等学校）	常 勤	国 語
平29 文・日本語		神奈川県立磯子高等学校	臨時的任用	国 語
平29 文・日本語		南部町立南部中学校	期 間 採 用	国 語
平26 文・日本文学文化		菊池市立隈府小学校	専 任	全 科
平29 文・日本文学文化		神奈川県立新羽高等学校	臨時的任用	国 語
平29 文・日本文学文化		学校法人大谷学園（横浜隼人中学・高等学校）	非 常 勤	国 語
平29 文・日本文学文化		長野県伊那北高等学校	専 任	国 語
平29 文・日本文学文化		神奈川県立白山高等学校	専 任	国 語
平29 文・日本文学文化		長野県諏訪実業高等学校	専 任	国 語
平25 文・英語英米文		神奈川県教育委員会	専 任	英 語
平27 文・英語英米文		さいたま市立原山中学校	専 任	英 語
平27 文・英語英米文		東京都立葛飾商業高等学校	専 任	英 語
年		平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	専 任
	平28 文・英語英米文	神奈川県立二宮高等学校	専 任	英 語
	平28 文・英語英米文	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校）	常 勤	英 語
	平29 文・英語英米文	川崎市立高津中学校	臨時的任用	英 語
	平29 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	臨時的任用	英 語
	平29 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	非 常 勤	英 語
	平29 文・哲	神奈川県立相模原総合高等学校	専 任	公 民
	平26 文・歴史	千葉県立大網高等学校	常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平29 文・歴史	小千谷市立総合支援学校	常 勤	社 会・地 理 歴 史・公 民
	平29 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属浦安高等学校・中等部）	特 任	社 会
	平29 文・歴史	神奈川県立平塚湘風高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平29 文・歴史	藤沢市立大庭中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平29 文・歴史	学校法人聖パウロ学園（聖パウロ学園高等学校）	常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平29 文・歴史	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非 常 勤	社 会・地 理 歴 史・公 民
	平29 文・歴史	学校法人常葉学園（常葉学園橘中学校・高等学校）	常 勤	社 会・地 理 歴 史・公 民
	平29 文・歴史	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平29 文・歴史	神奈川県立伊勢原高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平29 文・環境地理	美郷町立西郷中学校	常 勤	社 会
	平29 文・環境地理	相模原市立大沢中学校	常 勤	社 会・特 別 支 援
	平29 文・環境地理	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
度	平29 文・人文・ジャーナリズム	山梨県立甲府昭和高等学校	専 任	公 民
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園（玉川学園中学部・高等部）	専 任	数 学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	茨城県立真壁高等学校	非 常 勤	数 学
	平29 院文・修士	静岡県立御殿場南高等学校	専 任	国 語
	平29 院文・修士	神奈川県立鶴見高等学校	臨時的任用	英 語
	平25 経済・経済	練馬区立中村小学校	専 任	全 科
	平28 経済・経済	横浜市立小坪小学校	専 任	全 科
	平28 経済・経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平30 経済・経済	藤沢市立秋葉台中学校	非 常 勤	社 会
	平30 経済・経済	北九州市立木屋瀬小学校	常 勤	全 科
平30 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史	

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成	平26 法・法律	学校法人角川ドワンゴ学園 (N 高等学校)	専 任	地理歴史・公民
	平26 法・法律	木更津市立馬来田小学校	専 任	全 科
	平27 法・法律	山梨大学附属小学校	専 任	特別支援
	平28 法・政治	松戸市立第一中学校	専 任	社 会
	平30 法・政治	東京都立新宿山吹高等学校	専 任	公 民
	平30 法・政治	神奈川県立川崎高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	専 任	社 会
	平30 経営・経営	岐阜県立岐阜城北高等学校	常 勤	商 業
	平30 経営・経営	神奈川県立小田原東高等学校	臨時的任用	商 業
	平30 経営・経営	清川村立緑中学校	専 任	社 会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	臨時的任用	全 科
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	専 任	商 業
	平29 商・マーケティング	学校法人上野塾 (東京実業高等学校) 大田区立志茂田中学校 目黒区立東山中学校	非 常 勤	社 会 民
	平30 商・マーケティング	学校法人京華学園 (京華商業高等学校)	非 常 勤	商 業
	平30 商・マーケティング	学校法人安部学院 (安部学院高等学校)	専 任	商 業
	平30 商・会計	茨城県立土浦第三高等学校	専 任	商 業
	平30 商・会計	岐阜県立岐阜各務野高等学校	常 勤	商 業
	平22 文・日本語日本文	東京都教育委員会	専 任	国 語
	平27 文・日本語	新島村立式根島小学校	専 任	全 科
	平28 文・日本語	綾瀬市立北の台中学校	専 任	国 語
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	専 任	国 語
	平30 文・日本語	学校法人高松学園 (飯田女子高等学校)	非 常 勤	国 語
	平30 文・日本語	相模原市立東林中学校	非 常 勤	国 語
	平30 文・日本語	学校法人武蔵野学院 (武蔵野中学高等学校)	常 勤	国 語
	平30 文・日本語	神奈川県立伊勢原高等学校	期限付任用	国 語
	平30 文・日本語	学校法人駿台甲府学園 (駿台甲府学園中学校・高等学校)	期限付任用	国 語
	平30 文・日本語	松田町立松田中学校	専 任	国 語
	平30 文・日本語	千葉県立松戸馬橋高等学校	期限付任用	国 語
平30 文・日本語	多摩市立青陵中学校	臨時的任用	国 語	
平30 文・日本文学文化	学校法人横浜学院 (横浜女学院中学・高等学校)	常 勤	国 語	
平30 文・日本文学文化	埼玉県立小川高等学校	常 勤	国 語	
30	平28 文・英語英米文	川崎市立大師中学校	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	学校法人明星学園 (浦和学院高等学校)	常 勤	英 語
	平30 文・英語英米文	横浜市立鶴見中学校	臨時的任用	英 語
	平30 文・英語英米文	大田区立蓮沼中学校	臨時的任用	英 語
	平30 文・英語英米文	横浜市立田奈中学校	臨時的任用	英 語
	平30 文・英語英米文	学校法人タイケン国際学園 (日本ウェルネス高等学校・東京キャンパス)	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	市原市立ちはら台西中学校	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立綾瀬高等学校	専 任	英 語
	平28 文・哲	新発田市立外ヶ輪小学校	専 任	全 科
	平28 文・哲	新潟県立高田特別支援学校	専 任	社 会
年	平30 文・哲	常総市立菅生小学校	非 常 勤	全 科
	平28 文・歴史	学校法人日本体育大学 (日本体育大学柏高等学校)	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	千葉県立八千代西高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	学校法人富士学園 (静岡県富士見高等学校)	非 常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平30 文・歴史	学校法人世田谷学園 (世田谷学園中学校・高等学校)	非 常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平30 文・歴史	神奈川県立七里ガ浜高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	東京文理学院高等部	非 常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平30 文・歴史	栃木県立鹿沼高等学校 栃木県立鹿沼南高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	群馬県立館林商工高等学校	常 勤	地 理 歴 史・公 民
	平30 文・歴史	江戸川区立瑞江中学校	専 任	社 会
	平30 文・歴史	愛川町立愛川中原中学校	専 任	社 会
	平30 文・環境地理	糸魚川市立糸魚川小学校	常 勤	全 科
度	平27 文・人文ジャーナリズム	川崎市立田島支援学校 桜校	専 任	特別支援
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都教育委員会	専 任	数 学
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	西伊豆町立西伊豆中学校	臨時的任用	数 学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立大泉学園中学校	専 任	数 学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大妻学院 (大妻多摩中学高等学校)	非 常 勤	数 学
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	山梨県教育委員会	期限付任用	数 学
	平30 人間科・心理	香取市立栗源中学校	常 勤	社 会
	平30 院文・修士	川崎市立京町中学校	非 常 勤	国 語
	平30 院文・修士	福島県立磐城高等学校	常 勤	英 語
	平29 院文・博士	学校法人成蹊学園 (成蹊高等学校)	非 常 勤	地 理 歴 史

## 司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学付属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	（株）雄松堂書店
武蔵大学図書館	青山学院女子短期大学図書館
東京大学法学部図書館	国土館大学鶴川図書館
日外アソシエーツ（株）	追手門学院大学附属図書館
見附市立図書館（新潟県）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
（株）有隣堂	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
女子栄養大学図書館	神奈川県立相模原総合高等学校
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	横須賀市立中央図書館
東京医科大学図書館	（株）三省堂書店
杉並区中央図書館（東京都）	神奈川県立図書館
横浜市立図書館	江東区立亀戸図書館
キハラ（株）	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
専修大学図書館	法政大学多摩図書館

## 学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
宮城県栗原市役所	通信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
日野市郷土資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	

平成30年度 資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程 学校司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象 年次	行事	対象 年次	行事	対象 年次	行事	対象 年次
4月	上旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部3月 履修科目登録および履修修正（全学年）							
	中旬	介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
5月	中旬	実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会	3 3・4						
	上旬	教育実習事前ガイダンス 教育実習 (5月～11月)	4 4						
	下旬	介護等の体験開始 (5月下旬～3月上旬)	3・4					館務実習事前ガイダンス 博物館見学実習 博物館実習（館務実習） (5月～1月)	3・4 3・4 3・4
6月	上旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出	3 3	図書館実習 事前ガイダンス	3・4	司書教諭修了証書 申請ガイダンス (3年次までに司 書教諭の単位をす べて修得した者)	4		
	下旬	教員免許状一括申請 ガイダンス	4						
7月	下旬	前期試験（全学年）							
8月	上旬	夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 前期追試験（全学年）							
				図書館実習 (8月～9月)	3・4				
9月	下旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス (4年次で司書教 諭の科目を履修し た者)	4	館務実習登録ガイダンス (第1回)	2・3
10月	上旬	教職公開講座	1～4						
11月	中旬							館務実習登録ガイダンス (第2回)	2・3
	下旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	中旬			司書課程就職 (進路)懇談会 図書館実習 報告会	1～4 1～4			学芸員課程セミナー	
1月	中旬 下旬	後期試験（全学年）							
2月	中旬	後期追試験（全学年）							
3月	22日	教員免許状の交付	4					館務実習承諾書の提出	2・3

## 平成30年度 資格課程活動報告

日 付	事 項	場 所	参加者
平成30年 4月10日	川崎市多摩区3大学連携事業学校教育ボランティア派遣学校向け説明会	川崎市多摩区役所	教員1名 職員1名
4月20日	平成30年度 東京都私学適性検査説明会	アルカディア市ヶ谷	職員1名
5月12日 ～13日	平成30年度 全国大学博物館学講座協議会全国委員会	國學院大學	職員1名
5月13日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会2018年度定期総会・東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会および情報交換会	北里大学	教員2名 職員3名
5月19日 ～20日	全国私立大学教職課程協会2018年度定時社員総会（定期総会）・第38回研究大会	ホテルロイトン札幌、 酪農学園大学	教員2名 職員1名
6月8日	平成30年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会	県立国際言語文化アカデミア	職員1名
6月16日 ～17日	平成30年度 全国大学博物館学講座協議会全国大会	長崎国際大学	職員1名
6月22日	平成30年度 第1回横浜市大学連携・協働協議会	横浜市教育委員会 事務局	教員2名 職員3名
6月30日	平成30年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会 研究会	駒澤大学	職員5名
7月7日	平成30年度 資格課程懇談会	専修大学	教員28名 (内兼任17名) 職員6名
7月15日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会研究部総会、第1回研究部会・研究懇話会	日本体育大学	職員1名
8月2日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第101回）傍聴	一橋大学一橋講堂	職員1名
10月3日	横浜市大学連携・協働協議会 横浜市で実施する短期学校インターンシップについての打合せ	横浜市教育委員会 事務局	教員2名 職員2名
10月20日	平成30年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会 総会	昭和女子大学	職員5名
10月27日 ～28日	平成30年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会大会	東京農業大学	教員1名 職員1名
11月17日	全国私立大学教職課程協会2018年度研究交流集会	東北学院大学	教員1名 職員1名
12月16日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 第2回研究懇話会	東洋学園大学	職員3名
12月20日	平成30年度 第2回横浜市大学連携・協働協議会	横浜市教育委員会 事務局	教員1名 職員1名
12月20日	平成30年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会	めぐろパーシモンホール	職員2名
平成31年 1月25日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第103回）傍聴	三田共用会議所	職員1名
1月30日	平成31年度 教育実習大学担当者説明会（横浜市）	横浜市教育委員会 事務局	職員3名
2月23日	平成30年度 神奈川地域私立大学教職課程研究連絡協議会	フェリス女学院大学	教員1名 職員2名

## 平成30年度 教職相談実施結果

### 1 実施期間

平成30年4月～平成31年1月

### 2 実施日・担当者

校舎	担当者	相談日(4月～8月)	相談日(9月～1月)
生田	齋藤 博志	木曜日 12:00～15:00	木曜日 12:00～14:00
	神山 安弘	金曜日 11:00～13:00	金曜日 12:20～13:00
	額井 正也	木曜日 10:45～13:05	月曜日 10:45～13:05
神田	神山 安弘	木曜日 12:00～14:00	木曜日 12:00～13:00

### 3 実施結果

(1) 齋藤 博志 商学部特任教授・神山 安弘 文学部特任教授 生田・神田校舎実施結果

①月別曜日別相談者数(生田・神田校舎)

校舎	曜日\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
生田	木曜日	26	14	8	24	—	1	4	2	4	0	83
	金曜日	7	10	9	12	—	0	4	3	6	0	51
神田	木曜日	1	0	2	0	—	0	0	0	0	0	3
合計		34	24	19	36	—	1	8	5	10	0	137

②学部学科別相談者数(生田・神田校舎)

学部	経済		法		経営		商		文							人間科		大学院	卒業生	合計
	経済	国際経済	法律	政治	経営	マーケティング	会計	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲	歴史	環境地理	人文ジャーナル	ネットワーク情報	心理	社会			
人数	15 (4)	8 (3)	3 (2)	0	5 (1)	2 (2)	0	5 (3)	13 (3)	3 (2)	13 (4)	59 (10)	0	1 (1)	8 (1)	0	0	1 (1)	1 (1)	137 (38)

( )内の人数は実数

③相談者学年(生田・神田校舎)

学年	1年	2年	3年	4年	大学院	卒業生	合計
人数	5	0	9	121	1	1	137

④相談内容(生田・神田校舎)

一次試験対策	論文文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合計
16	33	39	13	4	3	11	25	20	164

⑤その他の主な内容

・教員採用選考に向けた準備 ・教職課程の履修登録について ・教員採用の校種選択について ・私立学校の採用面接のポイントについて ・教員採用選考に向けた準備と企業への就職の考え方について ・教員採用の現状について ・面接票の記入内容について ・世界史対策について ・教員採用、教育実習と就活の両立は可能か ・卒業後の進路について ・臨時的任用教員の手続き手順について ・私立高教員採用に向けて(志望校の絞り込み) ・中期留学と玉川大学の連携(小学校課程)の両立は可能か ・教職(4月からの教職の職務内容)について ・2次面接の結果報告 ・私立高教員採用面接に向けて ・教員採用試験勉強の時間がとれないことについて

⑥相談日数(生田・神田校舎)

校舎	曜日\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
生田	木曜日	3	3	4	4	—	1	4	2	3	1	25
	金曜日	3	3	4	4	—	2	4	1	3	1	25
神田	木曜日	3	4	4	4	—	2	4	2	3	1	27
合計		9	10	12	12	—	5	12	5	9	3	77

(2) 額井 正也 専修大学名誉教授 生田校舎実施結果

①相談者数

4月～8月(3月含む) 各回 平均5名  
 在学生：文学部哲学科2名、大学院文学研究科日本語日本文学専攻修士課程1名  
 卒業生：文学部歴史学科1名、経済学部経済学科1名  
 他に、静岡、山梨、千葉県にいる卒業生に対してはメールで対応

9月 各回 平均2名  
 在学生：文学部哲学科2名(インターネットを使った大学院試験対策)

10月～1月 各回 平均4名  
 在学生：文学部英語英米文学科4名  
 卒業生：2名

2月 各回 平均15名  
 在学生：2～4年生23名  
 卒業生：2名

②相談内容

主に一次試験対策、教職教養試験対策、小論文対策(一次試験が終わった後は二次試験対策、大学院入試対策)

③相談日数

4月～8月 10回(夏期休暇期間は別曜日)  
 9月 6回(インターネット)  
 10～1月 12回(月曜日2時間目)  
 2月 4回(月曜日2・3時間目)

## 平成30年度 教職相談ミニ自主講座実施結果

### 1 実施期間

平成30年9月27日(木)～平成31年1月10日(木)

### 2 実施日・担当者

木曜日 全11回 13:00～14:00(60分間)  
 担当者：齋藤 博志 商学部特任教授

### 3 参加者数

(1) 学年別人数 6名(延べ26名)

学年	1年	2年	3年	4年	合計
人数	2	0	2	2	6

(2) 参加者学部学科

経済学部経済学科、文学部英語英米文学科、文学部歴史学科、人間科学部社会学科

### 4 講座内容

第1回 論文の書き方と論文構造  
 第2回 問題把握と全体構想・論文の構造化  
 第3回 序論の書き方と柱の立て方  
 第4回 価値論と事例  
 第5回 方策とまとめ  
 第6回～第11回 実践編

## 平成30年度 教員採用試験対策特別講義実施結果

### ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第1回・2回

1. 実施日 第1回 平成30年8月4日(土) 10:00~15:30  
第2回 平成30年8月6日(月) 10:00~15:30
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 421教室・422教室・423教室・424教室
3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者(卒業生も受講可)
4. 担当講師 【第1回】平成30年8月4日(土) 【第2回】平成30年8月6日(月)  
① 齋藤 博志 商学部特任教授 ① 齋藤 博志 商学部特任教授  
② 神山 安弘 文学部特任教授 ② 神山 安弘 文学部特任教授  
③ 角田 真紀子 経済学部講師 ③ 福山 文子 経営学部講師  
④ 小峰 直史 文学部教授 ④ 望月 俊男 ネットワーク情報学部准教授
5. 内容 (1) 面接票、指導案等の作成指導  
(2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業
6. 提出物 各自該当するものを当日持参  
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 第1回 平成30年8月4日(土) 14名(内卒業生4名)  
第2回 平成30年8月6日(月) 13名(内卒業生4名)
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

### ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第3回

1. 実施日 平成30年8月10日(金) 11:00~16:00
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 426教室・428教室
3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者(教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生でも受講可)
4. 担当講師 ① 長船 孝明 経済学部兼任講師(昭和53年 商学会会計学科卒)  
(元東京都立荒川商業高等学校校長)  
② 矢吹 芳洋 経済学部教授  
③ 中野 育男 商学部教授  
④ 福山 文子 経営学部講師
5. 内容 (1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義(東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等)  
(2) 個別指導(主に個人面談)
6. 参加者 12名(内卒業生3名)
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

### ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第4回

1. 実施日 平成30年8月16日(木) 11:00~17:00
2. 実施場所 専修大学生田研修館 1階 101・103・104・105
3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者(卒業生も受講可)
4. 担当講師 ① 齋藤 博志 商学部特任教授  
② 神山 安弘 文学部特任教授  
③ 矢吹 芳洋 経済学部教授  
④ 森田 司郎 法学部教授
5. 内容 (1) 個人面接  
(2) 集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
6. 提出物 各自該当するものを当日持参  
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 13名(内卒業生5名)
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

### ・教員採用試験対策特別講義 第1回

1. 実施日 平成30年7月14日(土) 10:00~12:30
2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次~4年次(教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可)
4. 担当講師 伊藤 雅夫 先生 本学卒業生(昭和54年 経済学部経済学科卒)  
江東区教育委員会ブリッジスクール(元江東区立第二砂町中学校校長)
5. 内容 (1) 自己紹介および現在の学校現場について  
(2) 求められる教師像(役職の立場から思うこと)  
(3) 人物試験(二次試験)の学習の仕方とその実際
6. 参加者 21名(内卒業生0名)
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

### ・教員採用試験対策特別講義 第2回

1. 実施日 平成30年11月24日(土) 13:30~16:00
2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次~4年次(教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可)
4. 担当講師 東京アカデミー講師  
片貝 哲氏(東京アカデミー町田校 事務局次長)  
平成30年度採用試験二次試験合格者  
平野内 直樹(神奈川県教育委員会・中学校国語・文学部日本文学文化学科4年)  
城 優伍(神奈川県教育委員会・高等学校英語・文学部英語英米文学科4年)  
舛野 雄大(横浜市教育委員会・中学校社会・文学部歴史学科4年)
5. 内容 (1) 東京アカデミー講師から各教育委員会の採用試験の概要説明  
(2) 平成30年度採用試験二次試験合格者の体験談および質疑応答(司会:砂原 由和 ネットワーク情報学部教授)
6. 参加者 21名(内卒業生0名)
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

## 平成30年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成30年10月6日(土)
2. 時間 13時00分～17時10分
3. 場所 専修大学生田校舎 1号館
4. 参加人数 I部：採用試験体験談① 109名 採用試験体験談② 103名 II部：222名
5. 内容

(1) 採用試験体験談および優れた教育実践に学ぶ①－今の教育現場について－(専修大学OB・OG)

講師 (卒業年・学部・学科)	勤務先	科目
降矢郷平先生 (平成25年3月 文学部 日本語日本文学科 卒業)	神奈川県立上溝南高等学校	国語
橋本裕先生 (平成28年3月 文学研究科 英語英米文学専攻 修了)	神奈川県立大楠高等学校	英語
萩原由香理先生 (平成27年3月 文学部 歴史学科 卒業)	葉山町立南郷中学校	社会
滝田大樹先生 (平成30年3月 法学部 政治学科 卒業)	東京都立新宿山吹高等学校	公民
後藤隆浩先生 (平成30年3月 経営学部 経営学科 卒業)	神奈川県立小田原東高等学校	商業
伊藤大智先生 (平成27年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	練馬区立大泉学園中学校	数学
箕輪侑先生 (平成26年3月 人間科学部 社会学科 卒業)	府中市立府中第六小学校	小学校

(2) 優れた教育実践に学ぶ②－求められる教師像－

講師	中野区教育委員会 指導室長 宮崎宏明先生
----	-------------------------

(3) タイムテーブル

	時間	内容	場所
I部	13:00～13:05	全体スケジュールの確認	該当教室
	13:05～13:25 (20分)	採用試験体験談① 国語 降矢郷平先生 社会 萩原由香理先生 商業 後藤隆浩先生 小学校 箕輪侑先生	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:25～13:35	休憩及び他の教科への移動	
	13:35～13:55 (20分)	採用試験体験談② 英語 橋本裕先生 公民・地歴 滝田大樹先生 数学・情報 伊藤大智先生 小学校 箕輪侑先生	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:55～14:00	出席カードの回収及び114教室へ移動	該当教室
II部	14:00～14:15	オリエンテーション	114教室
	14:15～14:55 (40分)	優れた教育実践に学ぶ① －今の教育現場について－ 国語 降矢郷平先生 英語 橋本裕先生 社会 萩原由香理先生 箕輪侑先生 公民・地歴 滝田大樹先生 商業 後藤隆浩先生 数学・情報 伊藤大智先生	121教室 117教室 125教室 124教室 122教室 123教室
	14:55～15:05	質問用紙の提出	該当教室
	15:05～15:35 (30分)	－現職教員とのディスカッション－ 国語 降矢郷平先生 英語 橋本裕先生 社会 萩原由香理先生 箕輪侑先生 公民・地歴 滝田大樹先生 商業 後藤隆浩先生 数学・情報 伊藤大智先生	121教室 117教室 125教室 124教室 122教室 123教室
	15:35～15:50	休憩及び移動	
	15:50～16:50 (60分)	優れた教育実践に学ぶ② －求められる教師像－ 中野区教育委員会 指導室長 宮崎宏明先生	114教室
	16:50～17:10	まとめ	

## 平成30年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

開催日：平成30年12月12日（水）

時間：16：30～18：00

場所：専修大学生田校舎 ゼミ101D教室（10号館）

ゲスト：中川恭一氏（西東京市図書館 館長）

参加者数：10名

内容：西東京市図書館の中川恭一館長から、公共図書館の現場の状況、司書として求められる資質、採用試験に関する情報などのお話を伺った。公共図書館の状況としては、高齢者の利用が増加している一方で、子どもたちの利用は減少傾向にあり、それぞれに対する対応が求められていること、また、ヤングアダルト、学生、社会人など、高齢者と子どもの間の年齢層を対象とするサービスを展開していく必要もあり、司書には協調性や積極性とともな企画力や対外的なコミュニケーション能力を有する人材が求められているとのことであった。さらに、行政職員としてのキャリア形成についても話が及び、最後に「将来展望が持てる職業に就くことが、仕事のやりがいに通じるのではないかと締めくくられた。参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾け、時に笑みを浮かべるなど、終始和やかな雰囲気であった。



## 平成30年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

開催日：平成30年12月12日（水）

時間：18：10～19：10

場所：専修大学生田校舎 ゼミ101D教室（10号館）

参加者数：7名

内容：今年度、宇都宮市立中央図書館、さいたま市図書館、八王子市中央図書館、墨田区立図書館（ひきふね図書館）、で図書館実習をした4名の学生が、実習館の概要、実習で経験した業務の概要、図書館実習の感想などについて報告した。各報告の後に、実習生と教員で質疑応答や意見交換を行い、中川館長（上記）の助言も交えて、充実した時間となった。（今林萌さんの宇都宮市立図書館での実習については、「図書館実習を終えて」に記されている。）



## 平成30年度 資格課程教員紹介

### 《教職》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	公民科教育研究1・2
経済学部	講師	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法学部	教授	森田 司郎	教育課程論
法学部	准教授	加藤 雄三	法律学a・b
経営学部	講師	福山 文子	教育行政学
商学部	教授	中野 育男	商業科教育研究1・2
商学部	特任教授	齋藤 博志	教職実践演習
文学部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論b
文学部	教授	大谷 正	日本史a・b
文学部	教授	上村 妙子	教育実習1・2・3
文学部	教授	小峰 直史	教職入門
文学部	教授	高橋 龍夫	国語科教育研究1
文学部	教授	田邊 祐司	英語科教育研究3・4
文学部	教授	鳶尾 和宏	国語科教育研究2
文学部	教授	貫 成人	哲学a・b
文学部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義a・b
文学部	教授	福島 義和	地理学a・b
文学部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論a
文学部	准教授	赤坂 郁美	自然地理学概論b
文学部	准教授	古田 徹也	倫理学a・b
文学部	准教授	松尾 治	書道科教育研究1・2
文学部	助教	阿部 美香	地誌学a・b
文学部	特任教授	神山 安弘	教職実践演習
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育研究1・2
経済学部	兼任講師	新井 雅	教育相談の理論と方法
経済学部	兼任講師	長船 孝明	特別活動論
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科教育研究1・2
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	教育実習1・2・3
法学部	兼任講師	大西 圭介	教育行政学
法学部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法学部	兼任講師	中村 文夫	道德教育指導論
法学部	兼任講師	松村 芳明	法律学a・b
法学部	兼任講師	山口 晶子	教育社会学
経営学部	兼任講師	大和田雄一	比較教育学
経営学部	兼任講師	白岩 伸也	教育原論
経営学部	兼任講師	堀内 泰利	情報と職業
商学部	兼任講師	五十嵐卓司	社会科教育研究3・4
商学部	兼任講師	生田 清人	地理学a・b
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学a・b
商学部	兼任講師	佐藤 由美	地理歴史科教育研究1・2
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論a・b
商学部	兼任講師	松岡 路秀	社会科教育研究3・4
商学部	兼任講師	皆川 雅樹	日本史a・b
文学部	兼任講師	荒畑 隆	地誌学a・b
文学部	兼任講師	市川 康夫	地誌学a・b

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
文学部	兼任講師	太田 弘	自然地理学概論a・b
文学部	兼任講師	小泉 秀人	外国史a・b
文学部	兼任講師	小長野航太	倫理学a・b
文学部	兼任講師	小林 孝秀	日本史a・b
文学部	兼任講師	寺戸 淳子	宗教学a・b
文学部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育研究1・2
文学部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究3・4
文学部	兼任講師	福島 大我	外国史a・b
文学部	兼任講師	正野 泰周	倫理学a・b
文学部	兼任講師	目代 邦康	自然地理学概論a
文学部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究1・2
文学部	兼任講師	山田 朋子	外国史a・b
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究1・2
人間科学部	兼任講師	服部あさこ	教育社会学

### 《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曾根 匡	図書館情報技術論
文学部	教授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	教授	野口 武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	蟹瀬 智弘	情報サービス演習2
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習2
経営学部	兼任講師	鴫田 拓哉	情報資源組織演習1
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	汐崎 順子	図書館サービス特論
文学部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文学部	兼任講師	戸田あきら	図書館制度・経営論
文学部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習2
文学部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文学部	兼任講師	成松 一郎	図書館基礎特論
文学部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	栗原 浩美	学校教育概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習1

### 《学芸員》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館概論
文学部	教授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館資料保存論

## 編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

年報の題字が変わった。書道家でもある教職課程の松尾治准教授による毛筆の力作である。本学の資格課程が、年報発行から20年の区切りを経て、新たな時代に踏み出すことを象徴している。

時代は今、大きくかつ急激に変化している。政府広報によれば、人類史上、これからの社会は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に次ぐ超スマート社会（Society 5.0）であるとする。人々のあらゆる生活が、最新のテクノロジーによって補助され、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会で、これまで人間が行ってきた作業をAIやロボットが代行・支援し、日々の煩わしい作業から解放され、誰もが快適で活力に満ちた生活が送れるとする。

これに伴い、教育の役割や学びの在り方も大きく変化する。文部科学省は、昨年10月に組織改革を行った。筆頭局として新たに総合教育政策局を設置し、また新たに教育人材育成政策課を置いた。今後、教育の中心を、超スマート社会で求められる新たな産業や価値を創出する人材育成に置くことを明確にしたものである。また2017年及び2018年告示の新学習指導要領は、初めて教育方法に言及した。「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の実現である。これから求められるのは、単なる知識やスキルの集積でなく、それを活用する学びで、社会の変化に自ら対応し（主体的）、社会の諸課題に協働で取り組み（対話的）、獲得した基礎的知識やスキルを活用して課題を解決する学び（深い学び）で、それが不可欠になるとの考えに基づく。

高橋委員長が冒頭で述べているように、本学の教職課程も、新しい時代に対応すべく教育環境の整備・改善に努めている。急激な変化の影響は、教職課程だけに止まらず、当然、司書課程、学芸員課程にも及ぶ。果たして、超スマート社会（Society 5.0）が、政府が述べるように、日々の煩わしい作業から人間を解放し、誰もが快適で活力に満ちた生活を送れる社会になるかどうかはわからない。しかしこうした変革期には、委員長が提言するように「時代の状況を敏感にキャッチしつつ自分の歩むべき道を見据えていくことが肝要」である。そうした時代だからこそまた、年報のタイトルのように、一歩ずつ着実に（Passo a Passo）歩を進めることが重要になる。そしてこの年報が、資格課程履修者の一歩ずつ歩みを進める指針となり、また履修者とOB,OG間のソーシャル・キャピタル形成の場になれば幸いである。

最後に、毛筆の題字をお書きいただいた松尾治准教授と、多忙な中で執筆いただいた方々に、心より感謝を申し上げたい。

編集委員長

矢吹 芳洋

編集委員

角田真紀子

福山 文子

松尾 治

荻原 幸子

高島 裕之

### 平成30年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成31年2月28日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/>

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



1007700000

専修大学